

令和 6 年度研究テーマ

見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

I 設定理由

三観点

「知識・技能」

「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」

①粘り強い取組を行おうとする側面

②自らの学習を調整しようとする側面

石井英真 全体編集

「ヤマ場をおさえる 単元と評価
課題・評価問題」より

平成 28 年に中央教育審議会から出された答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」では、育成すべき三つの資質・能力が示され、その三つの資質・能力をバランスよく育成するために行う改善の重点として「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」、「学習評価の充実」が挙げられた。その重点のうち、「学習評価」については、平成 30 年 1 月 21 日の中央教育審議会初等中等分科会教育課程部会において「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」が取りまとめられ、学習評価が「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科における資質・能力の育成をする上で重要な役割を担うものであると示されている。また、令和 3 年度「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」では、「個別最適な学び」をいう言葉も打ち出され、教師だけでなく、生徒も自身の資質・能力を適切に捉え、それに対して最適な学びを選択できるような学校教育の在り方を模索していく時代となっている。教育現場において、学習評価に期待されている役割は大きく、本校を含め、教育現場全体が取り組むべき課題となっている。

特に、現場における評価の方法については、三つの資質・能力と対応する三観点による観点別学習状況の評価を行うこと、それぞれの観点に合わせた評価方法の工夫改善が必要であることが示された。このことによって、現場で対応に追われたのが「主体的に学習に取り組む態度」である。「主体的に学習に取り組む態度」の二つの側面をいかに見とるのか、それを説明責任に耐えうるものにできるのかなど、さまざまな疑問と不安が現場に混乱を生じさせている。「主体的に学習に取り組む態度」の評価には、大きな変革は求められているが、評価をそこにのみ終始するべきではない。石井（2023）には、次の指摘がある。

今回の学習評価改革の焦点を主体性評価に見いだすのは改革の読み方として一面的で、その捉え方では評価をめぐるさまざまな困難が解決されず、むしろ行き詰まってしまうでしょう。観点別評価の本丸は「思考・判断・表現」の充実です。まずそこにフォーカスすることによって、困り感のある主体性評価についてもより妥当な運用の仕方が見えてきます。

「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」を身につけようとする中で、粘り強い取組と自らの学習を調整しようとする姿を見とることが必要である。それは、各教科が育成すべき「思考力・判断力・表現力等」を明確にし、その育成を可能にする活動を設定し、さらに、その

評価方法を充実させていくことが重要である。

そこで、まず、本校では、「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の工夫を軸とした授業改善サイクルの構築を目指していく。

II 具体的な取組内容

パフォーマンス課題
リアルな文脈の中で、
様々な知識やスキル
を応用・相応しつつ何
らかの実践を行うこ
とを求める課題。
評価のためには、基準
となるルーブリック
の作成が必要。

現在、「思考力・判断力・表現力等」を育成し、見取るためのさまざまな方法が提示されている。特に、「思考力・判断力・表現力等」の性質から、実際に思考、判断し、表現する活動の設定は必須であり、評価の妥当性を満たすためにもパフォーマンス課題を用いた評価が推奨されている。しかし、パフォーマンス課題の定義を十分に満たした実践を行うとなると、その煩雑さから現場における実行可能性が低く、普及しているとは言えない現状である。「思考力・判断力・表現力等」に評価について、実行可能性を踏まえて検討し、現場に即した評価方法の工夫を行っていききたい。

そのために、以下の4点について取り組む。

【教科部会の中で】

(1)教科ごとの『見方・考え方』、そして、それを発揮した『思考力・判断力・表現力等』について深める。授業改善イメージを作成し、年間を通した教科内で授業改善の方向性を示す。

【日々の授業実践の中で】

(2)育成したい『思考力・判断力・表現力等』を明らかにした単元プランシートを作成し、実施する。その際、次のことを定めておく。

- ①単元で育成したい「思考力・判断力・表現力等」が発揮される活動（評価場面）
- ②「思考力・判断力・表現力等」を見とれるもの（評価材料）
- ③B・Aの評価基準（CはBに満たないもの）

(3)振り返りを行う。ワークシートの記述や学習者の言葉（アンケートでも可）を基に、①～③が適切だったか検証する。評価したものは、学習者にフィードバックする。

(4)次の単元へ活かす ※年間計画（教育課程）の中で調整を行う

III 成果と課題（今後の展望）

研究テーマを改訂し、一人一実践で校内授業研究を行ってきた。その中で成果は、次の3つである。

(1)「思考力・判断力・表現力等」の育成を意識した単元構想と教科を超えた力としての意識
各教科「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の区別を考え、知識の広がりや深まり、技能の熟達ではなく、どう考え、どう判断しているのかを思考を意識した単元を構想し、実施しようと試みた。また、授業後の研究会では、「思考力・判断力・表現力等」が教科を超えた汎用性の高いものであることを認識し、各教科の実践を自身の教科へ活かすこともできた。

(2)育成と評価を可能にするワークシート等の重要性の認識とその工夫

「思考力・判断力・表現力等」を評価するためには、その見取りを可能にする「もの」が必要となる。特に、思考・判断は可視化しなければならない。そこで、「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価を可能にするワークシートやノート、スラ

イドなどが重要であることを認識し、工夫を行うようになっている。

(3)評価基準B・Aの具体の蓄積

これまで、B・Aについては、その判断の基準が文言としては示されていても、実際の生徒の記述を示したものは少なかった。今年度は、その具体を示したことで、より評価の基準が明確になってきた。その中で、次のようなB・Aの設定が考えられている。

○数による設定…根拠が○個挙げられていればB・A

○質による設定…同学年の指導事項の中で、より高次なものをAとする。

上級学年の指導事項をAとする。

「思考・判断・表現」する際に用いた「知識・技能」の難易度で設定する。

成果がある一方、課題も多く見えてきた。今度は以下のことに取り組んでいく。

○教科研究の充実を図る。

「三つの資質・能力」「見方・考え方」について、教科内での一貫性について

教科によって、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の区別が明確になっていない実践もある。そのため、評価基準の設定が思考の広がりや深まりではなく、知識の広がりや技術の熟練度になっているものもある。来年度は、より「思考力・判断力・表現力等」とは何か、その育成のために、どんな活動を設定しているのかを考えていく必要がある。また、上記したように、「思考力・判断力・表現力等」は教科の枠を超越する汎用性の高い力である。だからこそ、「思考力・判断力・表現力等」をその教科特有のものとしめるためには、各教科の「見方・考え方」を働かせることが重要である。よって、教科の「見方・考え方」とは何か、それが働いた「思考・判断・表現」とはどういうものなのかを、教科内でもう一度、考える必要がある。

加えて、教科全体で授業改善を図っていくために、共通した活動の設定、共通したワークシートの使用などから、効果を実証するなど、教科内での取り組みに一貫性が必要である。

○「思考力・判断力・表現力等」を働かせることができる学習活動の設定と「思考力・判断力・表現力等」を可視化できるワークシート等の作成。

今後も、各教科で明確にした「思考力・判断力・表現力等」を働かせることができる学習活動を計画すること、そして、その「思考力・判断力・表現力等」を働かせるために必要な「知識及び技能」をそれまでに計画的に身につけられるようにしておくことが必要である。

また、評価するためには「思考力・判断力・表現力等」を可視化できるワークシート等の作成と検討が引き続き必要である。それを教科内で連携して行えるよう、年間計画の段階で、ワークシートにおける課題を明確にしておくことができるようにする。

○育成を目指す「思考力・判断力・表現力等」に合ったB・Aの設定方法の検討。

これまでに取り組んだ基準の設定も含め、今後もさまざまなパターンを考え、指導事項にあった設定方法を検討していく必要がある。その中でも、「思考・判断・表現」の中で用いた「知識・技能」の難易度の違いでB・Aを設定することや、「知識・技能」の難易度は考慮せず根拠の個数のみでB・Aを設定することなどは、授業研究会の中でも、議論となった。先行事例を収集しつつ、検討を重ねることで、「思考・判断・表現」の基準となるのかを考えていく。

○これらを、日々の授業実践から行うことで、「指導と評価の一体化」を図る。

本年度は、前期と後期のそれぞれで1実践行うことを目標に取り組んできた。しかし、本来であれば、教科で定めた授業改善の方向性に従い、日々の授業実践の中で、

- ①単元で育成したい「思考力・判断力・表現力等」が発揮される活動（評価場面）
- ②「思考力・判断力・表現力等」を見とれるもの（評価材料）
- ③B・Aの評価基準（CはBに満たないもの）

明らかにした単元プランシートを作成し、実施する。そして、ワークシートの記述や学習者の言葉（アンケートでも可）を基に、①～③が適切だったか検証するという、授業改善のサイクルを回し続ける必要がある。研究紀要のための実践収集ではなく、自身の授業改善のための実践の積み重ねを行っていきたい。

○学習者が自身の学びを俯瞰し自己調整する方法を検討する。

「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価の研究を経て、今後「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価の研究へと進めていきたいと考えている。「主体的に学習に取り組む態度」の二つの側面、①粘り強い取組を行おうとする側面と②自らの学習を調整しようとする側面の育成のためには、自らの学びの省察（メタ認知）と省察を基にした自らの学習の調整、この2つの機会と方法を提供する必要がある。機会については、時間ごとや単元ごとの振り返りの時間を設定することで確保できているが、方法については、俯瞰し省察を促すもの、今後の学習の自己調整を行うものとなっているとは言い難く、その前段階として、授業者側の評価と学習者の自己評価の乖離も課題である。

R6公開研の石井先生の講演会では、次のような指摘があった。

学校評価改革を進めていく上での羅針盤

・「間主観性」を評価（改善）・評定（説明責任）の在り方を見直す（事例をもとに子どもの見る眼を育て、評価結果の納得感をつくる）。

この指摘のように、省察し、自己調整を行っていくためには、学習者自身の見る眼を育てることが必要である。よって、来年度は、これまでの実践を継続しつつ、単元のスタート時点で評価規準・基準を提示すること、基準を学習者と作成することや評価のフィードバックを適宜行うことに取り組み、学習者の見る眼を育てていきたい。

授業改善のイメージ（国語科）

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

「書くこと」の領域を主とした

「考えの形成」のための、「主張」を支える「根拠」の在り方

設定理由

現行の学習指導要領では、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。それは、言語活動の推進によって生じた活動するだけに終始する授業を抑止し、活動の中で自分の考えをもつこと、そして、その考えの根拠やその考えに至った論理展開を見つめることの重要性を再認識させるものである。そこで、本年度は、「書くこと」の領域を主として、学習者が「主張」を支える「根拠」を見出し、自身の伝えたいことを明確にしたり、構成を検討したりする段階に着目し、研究を行っていく。

授業改善の方針

(1) 学習者の実生活や社会の中で考え得る言語活動の設定および題材の工夫

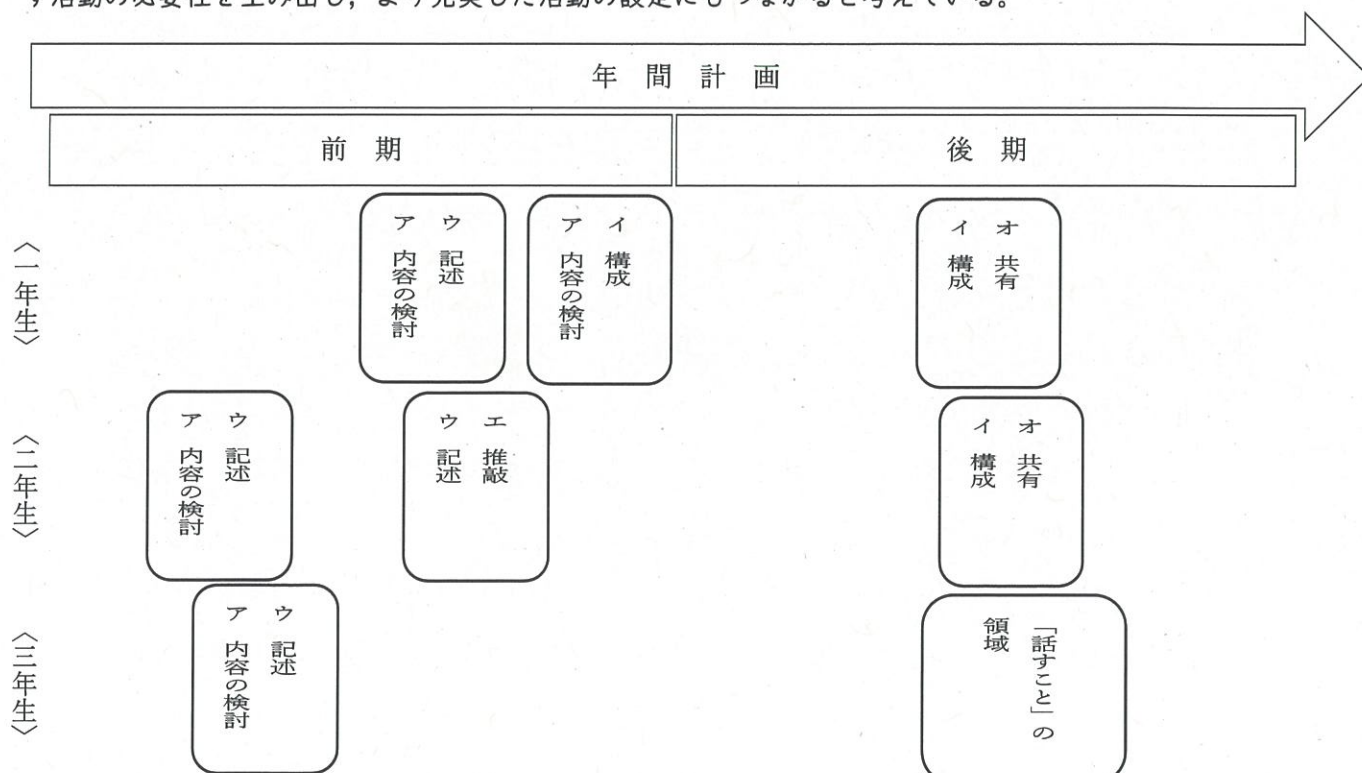
学習者の書きたい、書いてみたいという欲求を喚起する言語活動の設定と題材の工夫に努める。

(2) 「思考・判断」を促し、明確にできるワークシートの工夫

学習者が何について、どのように考えて内容を決定し、その内容をどんな順番、どんな表現で書こうと決めたのか、その理由も含めた「思考・判断」を可視化できるワークシートを作成していく。

(3) 「思考・判断・表現」の質に着目した評価基準の設定

根拠の数ではなく、根拠となる情報の内容や情報の特徴等に着目して「思考・判断」している様子を見取ることのできる評価基準の設定を試みる。この評価基準の設定が、学習者にBやAのような「思考・判断」を促す活動の必要性を生み出し、より充実した活動の設定にもつながると考えている。



前期の成果

- (1) 1年生…夏に役立つ必須アイテムの紹介文を書く。

この夏開催された「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック」に対する若者の関心度についてのアンケート結果の原因を分析し、レポートを書く。

- 3年生…人口減少が喫緊の課題であるH市に対して、人口増加の手立てとして、A案(単身者へのサポート)とB案(子育て家庭へのサポート)のどちらが効果的な施策であるかを決め、説得することを目的とした推薦文を書く。

1・3年生では、自身の興味関心や実生活と関連付けたり、日本と海外やH市と他の市町村を比較したりと、さまざまな情報を根拠としようとする姿が見られた。興味関心を喚起することはもちろんながら、多方面から情報を収集したことで、その情報の根拠としての適切さを考えさせることにもつながった。

- (2) 前期の実践を受け、「根拠」の羅列で終始してしまい、

「根拠」をどう解釈し、意味づけ、主張までつなげていくのかという、解釈・意味付けを生徒が行えていないことが明らかになった。そこで、松下佳代教授が提唱している「対話型論証モデル」に着目した。モデルの全容を用いることもあれば、一部だけを用いる場合もあるが、共通しているのが、事実(根拠)と主張だけでなく、事実をどのように解釈したのか論拠を明記するという点である。事実(根拠)、解釈(論拠)、考え(主張)が明確になることで、根拠の解釈に大袈裟なものはないか、根拠が主張を支えるものと成り得るのかという検証がしやすくなった。また、ワークシートによって、内容の「思考・判断」がなされていることから、「表現」するに入る際、かなりスムーズに取り組むことができていた。

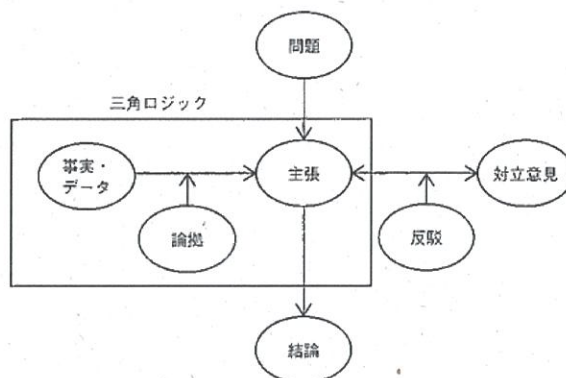


図 1-1 対話型論証モデル

- (3) これまでの単元では、材料の整理の段階で「B 情報を比較か分類のどちらかの方法で整理」「A 比較・分類の両方の方法で整理」、材料の客観性や信頼性の確認の段階で「B 個々の情報について吟味している」「A 情報と情報の関係性を踏まえて吟味している」といった設定した。根拠がいくつ出せたかではなく、材料をどのように考えて根拠としたのかという思考の質によるB・Aの設定を試みたことによって、根拠の数ではなく、根拠の内容に着目した吟味が行えるように授業を組み立てることにつながった。

前期の課題

- (1) 今後の学習者と社会の現状を照らし合わせた課題の設定に取り組む。教科横断的な課題の開発も行っていく。
- (2) 特に1・2年生は、まだ3つの要素が理解できず、とまどっている場面がある。書くことだけでなく、読むこと、話すことにも使用場面を増やしていく。現在は、「対話型論証モデル」の一部のみを使用しているため、2年生以降は異なる意見に視野を広げるためにも、自身の考えの形成の部分だけでなく、異なる考えの予想の部分にも使用範囲を拡大していく。
- (3) 上記の設定では、「知識及び技能」の情報と情報の関係とつながりが深いものとなったものもある。これを「思考・判断・表現」の評価基準に組み込んでいいのかは疑問が残る。今後、先行研究等を収集していきたい。

後期の成果

- (1) 1年生…入学からの自分について考え、事実と意味づけを明らかにし、構成や表現を工夫した随筆を書く。

3年生…今の日本に必要な法案を考え、多様な考えをもつ相手を説得するために内容や構成、表現にまで工夫をしたスピーチを行う。(話すこと)

1年生は実生活に着目した課題、3年生は社会生活に着目した課題を設定することができた。

- (2) 1年生は、新たなワークシートの形式の模索を行った。その際、これまでの出来事を事実として挙げ、その意味付けを行う部分を設け、主張までのつながりを明らかにしようと試みている。これによって、事実のみではなく、事実の意味付けをバランスよく書くことにつながった。

3年生は、「話すこと」の領域で実施し、前期でも活用してきた「対話型論証モデル」を活用した内容の検討を行った。これによって、領域を超えて、情報の収集・内容の検討の段階で同じワークシートの活用が可能であること、また、生徒のこれまでの学びを活かすことができることを確認することができた。ふりかえりシートの記述にも、「対話型論証モデルによって自分の思考が明確になった」「今後も活用していきたい」など、思考の型としての有用性を感じたものが見られた。また、情報の客観性や信頼性について「書くこと」で学んだことを活かしたという記述も多く見られ、領域を超えた学習の連続性を確認することができた。

このように、根拠だけでなく、その根拠の解釈や意味付けを記述するワークシートを作成したことで、生徒が根拠の有無だけでなく、根拠からどのように主張につながっているかという論理の展開に着目することができるようになるとともに、教員が見取ることもできるようになった。

- (3) 3年生では、「多様な考えをもつ相手を想定する」という部分に着目し、「対話型論証モデル」の右側「対立意見」と「反駁」を評価に用い、反駁の内容で基準を設定した。記述内容で明確にできるため、評価のぶれはなく行うことができた。

後期の課題

- (1) 課題の設定では、社会生活に視野を広げると内容が他の教科と重複することがある。その他の教科のカリキュラムを確認し、互いにより影響があるよう設定する必要がある。
- (2) 現在作成しているワークシートの汎用性を図っていく必要がある。特に、「書くこと」と「話すこと」は両方アウトプットの学習過程であることから、親和性が高い。この二つの領域については、より多くの場面で、同じワークシートを活用していくようにしたい。また、情報として集めた事実やデータの中からは、どうしてその情報を根拠として決定したのかという「思考・判断」を見取ることがまだ難しい。これについては、生徒のふりかえりに記述させたい部分であると考えている。活動の中でどのように「思考・判断」したのかを「表現」させることは俯瞰的なふりかえりの実施につながっていくと考えている。
- (3) 前期の課題であった「知識及び技能」を基準に組み込んでいいのかは、今度も資料を収集し研究していく必要がある。また、3年生は、義務教育の最終学年であり、その指導事項も最終段階にあるため、その上のAを設定することが難しい。この点についても、今後考えていく必要がある。

来年度に向けて

今年度は主として「書くこと」の領域に絞って授業実践を行ってきたが、成果にも示した通り、アウトプットの学習過程である「話すこと」にも十分転用できる。そこで、本年度の研究の成果である「対話型論証モデル」や事実と意味付けを書き分けるワークシート等による根拠を明確にして内容を検討する過程については、領域を拡張して使用していきたい。また、三領域の考えの形成の過程や「読むこと」の精査・解釈にも活用できると考えており、現在あるワークシートをより汎用性の高いものにできるよう実践を重ねていく。

また、評価基準については、引き続き、個数ではなく質による設定にこだわって試みていきたい。

引用参考文献

松下佳代(2021)『対話型論証による学びのデザイン 学校で身につけてほしいたった一つのこと』勁草書房

作成者：釘宮 里枝（くぎみや りえ）・門脇 舞（かどわき まい）

国語科学習指導案

令和5年5月28日(火)6校時

3年A組 40名

指導者 釘宮 里枝

1 単元名 私は、〇案を推薦します!

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・言語活動は、「二つの案で迷っている相手に対して、より確実に効果的な案はどちらかを選択し『推薦文』を書く」と設定する。第3学年では、多様な考えを持っている人がいることを想定するとともに、読み手となる相手を説得することが求められる。本活動も、異なる立場がいることを前提としながら、迷っている読み手を説得することを求めるものである。
- ・題材は、人口増加のために導入すべき案を「単身者」と「ファミリー」という支援の対象者に絞って比較するというものである。現在、多くの市町村が抱える人口減少についての施策案であるため、実施した例も含め、さまざまな情報が収集できると考えられる。
- ・行政の施策として取り入れることを想定しているため、より確実に効果的な案を導入する必要があるため、その確実性と効果の高さを、根拠を示して証明する必要がある題材である。

(2) 生徒について

- ・昨年度の「話すこと・聞くこと」の授業「中学生は『日本のコロナ対策』をこう総括する!」では、異なる立場の人と合意形成を行いながら建設的な議論を行う方法を学んだ。この学習の振り返りから、異なる立場を想定することや異なる立場の意見を聞いたり読んだりすることの重要性を認識している学習者が多数いること、また、異なる立場が考える活動への意欲が高まった学習者がいることがわかった。
- ・事前アンケートでは、「根拠の適切さや確かさを意識し、確認しているか」という質問には90%以上が肯定的な回答をしたが、「根拠の適切さや確かさの確認方法について、自分なりの方法を持っているか」という質問には28%が否定的な回答をした。確認はしているが、その方法が確立はしていない学習者もあり、自己流のものになっている可能性もある。
- ・ICT機器を使って収集した情報を自分の考えの根拠として用いる際、比較的安易に入手できる情報のみを使用する傾向にあり、その情報の客観性や信頼性を確認し、再度情報収集を行うといった姿は見られない。この部分については、上記の学習者の意識と実際の学習の姿に乖離があると考えている。

(3) 指導について

- ・総合的な学習の時間では、第2学年から現在にかけて大分県の多くの市が直面している人口減少について触れ、考える場を設定している。その題材を共有することで、学習者の興味関心を引き、これまでの学習を活かすこともできるという意欲喚起につながると考えている。また、対象者が異なる二つの案に絞り、どちらがより確実に効果的かを考えることにより、異なる立場の想定がしやすくするとともに、自分の立場を説得するイメージを持ちやすくする。
- ・一つひとつの情報の発信元や発信時期など情報の出典に関することによる信頼性の確認はもちろん、数値により傾向を捉える方法や複数の具体例によって確実性を示す方法など、情報の特徴や情報と情報の関係において根拠として適切かも考えさせたい。
- ・上記のことを考えさせるために、読み手を説得する根拠の「強さ」に着目させ、班ごとに自分たちで集めた情報の上位を決定し、理由とともに交流する。上位に決定した理由から、より強い根拠のために必要となる情報の客観性や信頼性について学び、自身が収集した情報が根拠として強いものになっているかを考えさせる活動を行う。

単元プランシート(国語科3年)

実施時期 5月

単元名	私は、〇案を推薦します！	
単元の目標	相手を説得するために必要となる客観性や信頼性の高い根拠の選択とその引用の工夫を、2つの案のどちらかを推薦する文を書くことを通して、行うことができる。	
評価 規 準	知・技	①情報の信頼性の確かめ方を理解し、使うことができる。
	思・判・表	①目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(書くこと一ア) ②資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(書くこと一ウ)
	主体	①目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしようとしている。 ②表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えをわかりやすく伝わる文章になるように工夫しようとしている。 ③学習目標に照らして学習の状況を把握し、今後の課題について具体的に示している。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	〇人口減少が進むH市に提出されたA案・B案について知り、どちらの案を推薦するかを決め、その理由を考える。			
2～4 (本時3)	〇自分の考えを支える根拠となる情報を収集する。 4つの情報を集め、情報源を明記する。			
	〇収集した情報について、根拠としての「強さ」で上位になるものはどれかを考える。		① ワークシート	① 観察
	〇再度、情報を収集し、説得するために伝えたいことを明確にする。	① ワークシート	① ワークシート	① 観察・ワークシート
5～7	〇今回推薦文として使用する構成について知る。		② ワークシート	② 観察
	〇収集した情報の中から引用するものを決め、学習した構成のどの部分に位置付けるのか考える。		② ワークシート	② 観察・ワークシート
	〇推薦文を書く。			
8	〇お互いに違う案を選んだ人に読んでもらい、相互に評価し合う。			
	〇ワークシートおよび推薦文を用いて、単元の振り返りを行う。			③ 振り返りシート
外	定期テスト	①テスト		

評価基準(思考・判断・表現に①について)

B	A
個々の情報について、出典に関することや情報の特徴に着目して客観性や信頼性を確認し、伝えたいことをまとめている。	Bに加え、情報同士の関係に着目して客観性や信頼性を確認し、伝えたいことをまとめている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(3/7)

(2) 題材「〇案を推薦します!」(自分の考え)を支える根拠を探そう。

(3) 本時のねらい

自分の考えを支える根拠となる情報の客観性や信頼性を、同じ立場の人が収集した情報を比較したり、異なる立場の人と互いの情報への意見を交流したりする活動を通して、確認することができる。

(4) 展開

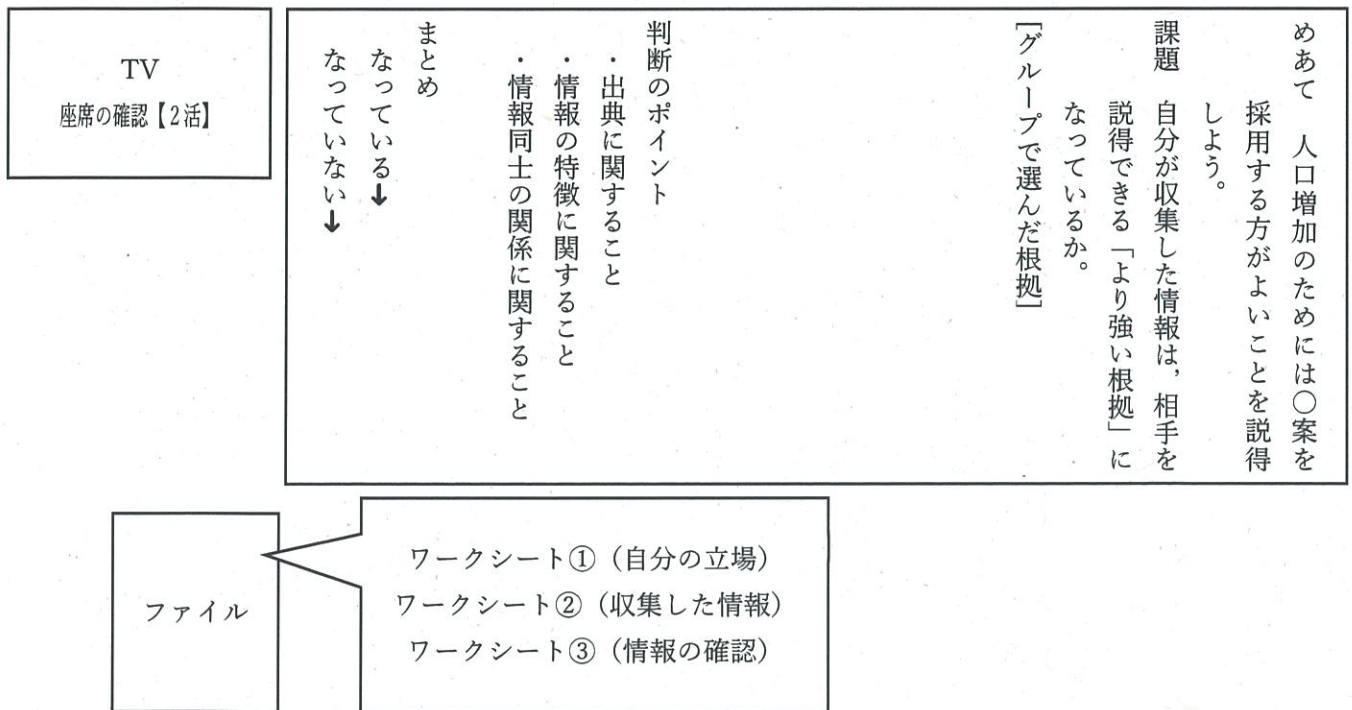
時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
3	1. 単元のめあてと本時の学習内容を確認する。	〇単元のめあてと本時の学習内容を確認する。 単元のめあて 人口増加のためには〇案を採用する方がよいことを説得しよう。 〇説得するためには、「より強い根拠」が必要であることを確認し、本時は自分の収集した情報が「より強い根拠」になっているかを吟味する時間であることを確認する。 課題 自分が収集した情報は、相手を説得できる「より強い根拠」になっているのか。	
12	2. 同じ立場のグループで、収集した情報を比較し、より強い根拠となると考えるもの一つを決め、全体で交流する。	〇同じ立場の人同士で収集した情報を比較させる。 〇相手を説得できるより強い根拠をなるもの一つとその理由をホワイトボードに書かせる。 〇異なる立場から見て、より強い根拠といえるか考えさせる。 [気づかせたいこと] ・出典の確認(発信元, 発信時期など) ・情報の特徴に関すること アンケートや調査データ…主体, 目的, 対象者 事例…今回のH市と重ねることが可能か(市の規模) ・情報同士の関係に関すること そのデータや事例だけで根拠にできるか(複数のデータの必要性)	
12	3. 異なる立場から見て、相手の根拠は納得できるものになっているか考え、交流する。		
15	4. 自分の収集した情報は相手を説得できるより強い根拠になるか考える。	〇自分の収集した情報について、相手を説得するという目的を達成できるより強い根拠になっているか確認させる。 〇その際、なぜ、そのように判断したのか考えさせる。	集めた材料(情報)の客観性や信頼性を確認することができる。(書くことーア)
		まとめく予想される考え) 【なっている】 ・発信元が、国の機関であり、調査した時期も2023年と近年のものを使用している。 ・根拠①のデータと根拠②のデータを関連させることで、ファミリーより単身者の方が転居しやすく、また移住に対して前向きな人が多いことを示すことができている。 【なっていない】 ・発信元が個人のブログであり、第1次情報に触れられていない。 ・成功事例を一つしか挙げておらず、必ず成功するという確実性の証明にはなっていない。	
5	5. 考えを交流する。	〇数名を指名する。	

3	6. 振り返りをする。	○次の授業は、情報収集を行い、説得するために自分の伝えたいことを明確にする時間であることを伝え、自分の課題を考えさせる。	
	振り返り	収集した情報がより強い根拠となる情報だったか確認できたか。 次回の授業での自身の課題は何か。	

(5) 本時の評価基準

B	A
個々の情報について、出典に関することや情報の特徴に着目して客観性や信頼性を確認している。	Bに加え、情報同士の関係に着目して客観性や信頼性を確認している。

(6) 学習記録計画



(2)「思考・判断」を促し、明確にできるワークシートの工夫

根拠③ レター 地元（レターを頂く） 就職を希望する学生 は62.6%で2年連続増加 → 子どもが大きくなり、 地元ではたらく人が不足。 人口増加にも。 情報源	根拠① 引越しを思い出さなかった 結婚してから 24.7% 更新時期がきたから 16.1% 一子落しをしたから 13.8% 今よりよい条件の物件をみつけたから 12.0% → 結婚をしたかびり1つ減ると、 人の割合が最も大きい 情報源
根拠④ 情報源	根拠② 人口増加市町村 人口増加市町村では、 20歳代から40歳代が44%、 出生率が高くついている。 → 子育て支援のとり組みがすす められたことにより、若い子育 て世代の人口構成世代が 高まり、出生率が高まっている。 情報源 内閣府 オーストラリア

主張 私は、【A】案を推薦する。

自分の考えの根拠となる情報を探そう。

ワークシート②
情報収集1で使用



ワークシート③
情報の客観性・信頼性の
確認で使用

あらためて自分の根拠を見直すと、より強い根拠がわかってきた。調べないといけないことがあった。

① 引越しを思い出さなかった。結婚してからが24.7%と最も割合が大きい。
大いど結婚したことで、より有利な割合に倍増する。引越しをした可能性
は、同じ市内に引越した可能性があるから。
② 実際に数値がわいて、強い根拠とは言いえない。↓たしかに情報源のなか
から強い。
③ 地元就職を希望する学生は62.6%と、20歳代から40歳代が44%と最も割合が大きい。
結婚してから24.7%と最も割合が大きい。結婚してから24.7%と最も割合が大きい。
結婚してから24.7%と最も割合が大きい。結婚してから24.7%と最も割合が大きい。

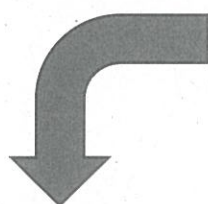
根拠①	△
根拠②	△
根拠③	×
根拠④	△

【収集した情報について】

収集した情報は読み手を説得できる、より強い根拠になっている。

情報元
、公的機関
、新しい
情報の特徴
、誰が何のため、回答数
情報の関係

収集した情報は読み手を説得できる、より強い根拠になっている。



根拠 人口増加市町村 20歳から40歳の人口構成 が高く、出生率が高くな っている。 人口増加市町村は、 情報源 内閣府ホームページ	北海道土佐町 2016～2019 →3年連続人口増加 ふるさと納税で 子育て・教育支援 情報源 総務省
地元在住 単身 43.4% 20代 2.7% 無回答 0.4% 情報源 総務省 2018年	転居マイニング 結婚 16.2% →1番大きい 情報源 総務省

主張 私は、【A】案を推薦する。

より強い根拠を求め、伝えたいことを明確にしよう。

地元在住：二人以上の人が多い
↓人口増加につける
転居マイニングが結婚（16.2%）より大きい
結婚（16.2%）より大きい
結婚（16.2%）より大きい

ワークシート④
情報収集2で使用
（対話型論証モデルの一部）

この3枚を並べると、ワークシート③を経たことで、根拠とした情報に変化があったことがわかる。これを1枚、ないし2枚のワークシートにまとめられるとよかった。

(3)「思考・判断・表現」の質に着目した評価基準の設定

自分の根拠と他の人の根拠を比べて、根拠として、かりしているが、
弱いが明確にあらた。次は△の根拠をあおせて使つ根拠を平べた
に表して、いふといふ。

(1) 使々々々が A 案に Y リ、トモあまに、
 しては關係がないので
 了なして世代の声コをい、根拠と出
 させてつかうとい、根拠に
 なると云へう、
 (2) ！はヤコは、抽象的で根拠とし、
 弱いと云へ、また、
 (3) 将任者の家族形態を示すこと、
 2人以上の世帯に於て、
 ことを示せ、
 だ、
 かつ

情報の合れ七投をして正確な根拠にできていたと思うが本来の目的である
H市の人口増加に貢献するのから更に確実にするために移動する要因に「調
査」へいきた。

本案が本当に

根拠①について△にしたのは、都道府県間移動者数が多いのは二十代だという事実がよいが、進学や就職などの移動の要因は不明→明確にし、H市にも移住し得るのかどうかを確かめらるる根拠にしたい。根拠②については、①との合わせ技をするために、正確な情報源と時期の情報がある点が良いか、たとも思う。

根拠①	
根拠②	
根拠③	
根拠④	

迷つてゐるに誤得するために、具體的の數値ばかりに氣をとつた
から、以前に情報信用旺成ない出典で不確かだったので、より信用でき
るものから情報を得ようとした。

①	出典の信頼性あり	根拠①	X
②	出典の信頼性ない	根拠②	X
③	厚信堂御省によるデータなので信用性はあふが 平成7年(1995)ハテマのびから少し古い	根拠③	△
④	たしか信用できる出典だったが怪しい	根拠④	○

主義があきうは、きりしないのぢやなくて、自分の根拠にあまり、自信が持てなかつたので、次回は、内閣府とあのきりとしたテーマをも調査したい。

主典がはきりしてなりから、
目と律約ではない、
なごりしは、
根拠がふない

根拠①	
根拠②	
根拠③	
根拠④	

情報ごとの確認と情報と情報の関係で確認するという基準については、明確な判断基準として使用でき、煩雑さも感じなかった。ここを扱うときには、「知技」の「情報」の部分との関連をより綿密に考えておきたい。

単元プランシート(国語科 1 年)

実施時期 6月下旬

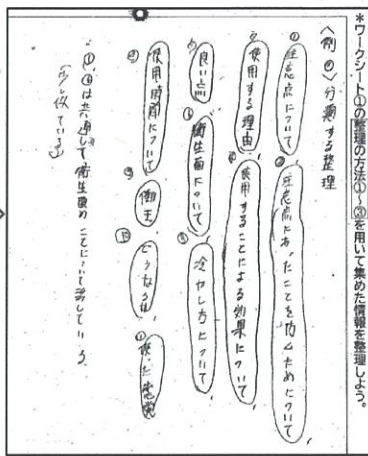
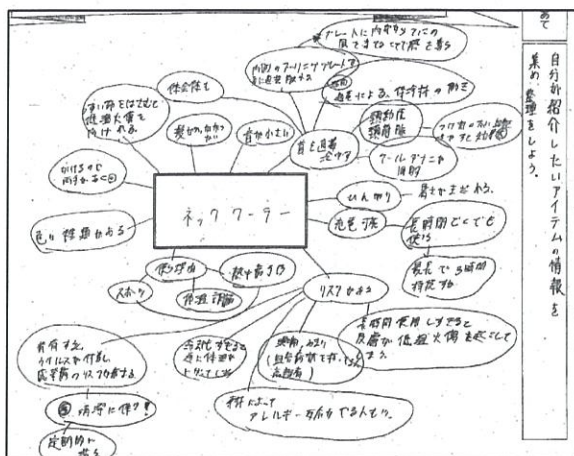
単元名	私が使っている夏に役立つ必須アイテムを紹介しよう！ 【紹介文を書く】自分が伝えたい情報を整理して紹介しよう。	
単元の目標	情報を比較・分類などさまざまな方法で整理することを通して、伝える目的や相手、内容に応じて分かりやすく伝える紹介文を書くことができる。	
評価 規 準	知・技	①比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。 (情報の扱い方に関する事項(2)イ)
	思・判・表	①目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(書くこと(1)ア) ②情報の整理と内容の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだすことができる(書くこと(1)オ)
	主体	①集めた材料を粘り強く整理し、他教科を含めた今後の学習に活かそうとしている。 ②目的や相手を意識し、伝えたいことを明確にした紹介文を書こうとしている。 ③他者からのアドバイスをもとに自分の文章を見直し改善しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	「分類」「比較」など観点ごとに情報を整理する方法を学ぶ。 ⇒情報の種類によって整理する方法が異なることを学ぶ。	① ワークシート①		
2次 (2～3時)	テーマに沿って情報を整理し、紹介文の構成を考え他者と助言し合う。 ⇒自分が紹介するものをマッピングに書き出し、そこから紹介文に使用する情報を整理する。 ⇒整理した情報をもとにどのように説明したら分かりやすいかを考えながら紹介文を構成し、助言し合う。		①(2・3時) ワークシート② ワークシート③	
3次 (4～6時)	他者からの助言を踏まえて構成を練り直すと共に、紹介文の清書を行う。また、交流を行う。 ⇒整理した情報や他者からの助言をもとに分かりやすい紹介文を書く。 ⇒他者が書いた紹介文を交流し、自分の紹介文と比べてみる。		②(4時) ワークシート④ 清書用紙	②③(4時) 清書用紙
4次 (7時)	ワークシートを用いて、単元の振り返りを行う。			① 振り返りシート

評価基準	
B	A
紹介するアイテムの情報を、観点にそって比較か分類のどちらかの方法で整理することができる。	紹介するアイテムの情報を、観点にそって比較・分類の両方の方法で整理することができる。
整理した情報をもとに、自分の考えた構成から他者の助言を反映させた上で相手や目的を意識しながら、自分の構成を書き加え、紹介文を書いている。	B評価に加え、自分がオススメしたい物の情報を明確にしながら、構成を書き加え、紹介文を書いている。

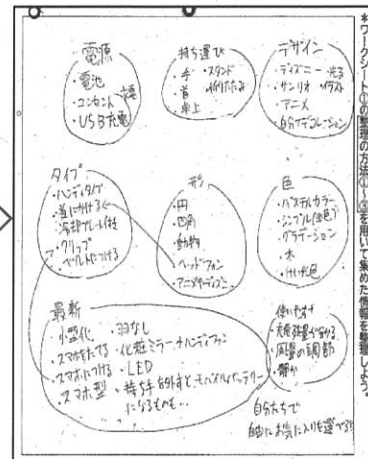
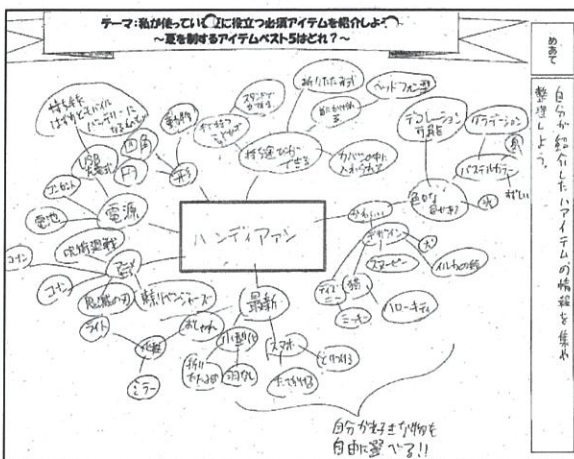
ワークシート②「情報の整理」に関する評価

前時に学習した情報の整理の仕方を活かして、自分が集めた情報を整理する学習



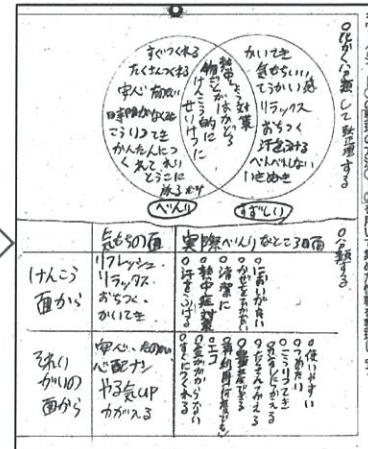
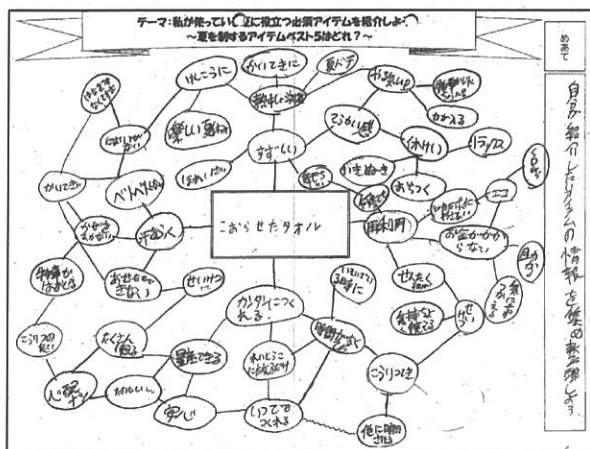
【C評価】

集めた情報を分類・比較のどちらかの方法で整理することができておらず、書き連ねただけになっているため。



【B評価】

集めた情報を分類の方法で整理することができている。



【A評価】

集めた情報を比較・分類の両方で整理することができている。

【分析】

- ・C評価・・・各クラス2～3名程度。A評価・・・各クラス5～6名程度。
- ・情報の収集に関しては、今回の単元は「身近な題材」（夏にオススメのアイテム（物・食べ物・場所など）を紹介する）というテーマで授業を行ったため、マッピングの方法で多くの情報を集めることに重きをおいた。多くの学習者がPCを用いて情報収集を行うことができた。
- ・B評価の学習者のワークシートを見ると、多くの学習者が「分類」の方法をとっていた。分類をする際に、どの項目で分けるのかという部分に難しさを抱えている学習者が多いように感じた。
- ・今回の題材のテーマでは、情報を「比較」し整理するという方法が難しかったように感じる。他の物との比較にまで学習者の思考をもっていくことができなかったことが課題である。

ワークシート③④「整理した情報をもとに構成を考える」に関する評価

※ワークシート④を中心に評価する。

整理した情報をもとにして紹介文の構成を考えると共に、他者の構成を助言する。またその助言を踏まえて自分の構成を書き直す学習

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ おわり

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ おわり

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

【C評価】

他者からの助言を反映させることができておらず、会い当て意識のない構成になっている。

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ おわり

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ おわり

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

【B評価】

他者の助言を反映させた上で、「番匠川」の説明を増やすなど相手を意識した構成に書き換えている。

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ おわり

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ おわり

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

【A評価】

他者の助言を反映させたことで、クラスメイト全員に対する紹介文という相手意識が加わった。また、書く内容も絞られ明確になっている。

【分析】

- ・C評価…各クラス2～3名程度。A評価…各クラス10名程度。
- ・他者からの助言を踏まえて、相手意識が生まれ構成を考える時に反映させることができた学習者がほとんどであった。
- ・情報の多さや、どこのPRポイントとして構成を考えるのかという視点に立たせることができていなかった。整理した情報を多く使うことが中心になり、「なぜそれを紹介するのか」という部分への意識が不足した構成が多かったように感じる。

清書用紙「構成をもとにして紹介文を書くこと」に関する評価

構成を踏まえて、紹介文を清書する学習

ホテルです。ぜひ、行ってみたい。	今回紹介した杉乃井ホテルは、とても新しい。	もありです。	に、とても異なります。スライダは全四種類	ト、スライダキーボードは全四種類	また、私がよくオススルのは、アビ	交代に入ると、とても気持ちいいです。	あります。その中でも、温度差は三十度あり、	最後に、棚湯は温泉で、水風呂やサウナが	敷が全部で三三六室と、とても多いです。	次に、宙館はホテルで、4階建ての、部屋	の「フ」は、質問で一位です。	です。シーダパレスは、レストランで、全	アビ、棚湯、宙館です。	今回紹介する施設は、シーダパレスとア	ります。このホテルは、とても安く泊まれます。	約4分、大分県別府市観海寺のところにあ	です。杉乃井ホテルは、附属中学校から車で	私の夏に必須のアイテムは、杉乃井ホテル
------------------	-----------------------	--------	----------------------	------------------	------------------	--------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	----------------	---------------------	-------------	--------------------	------------------------	---------------------	----------------------	---------------------

【C 評価】

自分がオススめをしたい内容と、整理した情報が合致していない。目的意識が不足している。

ます。	にと、夏にしか食べないアイスになると、心配	ルムを食べてみてはどうでしょう。かき氷もあ	す。夏に食べたいアイスには、かき氷が最適	このように、パルムには様々な魅力がありま	入れている様々な味の展開をしています。	季節限定のパルムもあり、特に夏に力を	また、より多くの人に食べたいと思って、	用し、約千本もの試作をしてきました。	五年に販売して、います。夏の暑い乳原料を使	パルムは二〇〇三年に開発開始し、二〇〇	年、れい原からの人気をほめて、います。	絶賛のわりには、満足感があふれて、多くの	カッパの半分ほどです。	味と見た目が特徴です。内容量は、お米の粒並	ます。パルムは、口溶けがよく、高級感のあ	イチオシのアイス、パルムをぜひ紹介しま	たいアイスが最高です。おねえさんと、こ	い、よい夏です。夏は、おねえさんと、こ
-----	-----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	--------------------	---------------------	--------------------	-----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	-------------	-----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------

【B 評価】

なぜ夏にオススめしたいのかということと、整理した情報が合致している。他の商品との比較などが加わると紹介したい内容が明確になるので、A 評価になるがその部分が不足。

夏にオススメしたい理由と整理した情報が合致している。また、他のものと比較することもできおり、紹介したいことがより明確になっている。

僕はこの夏祭りに行くことをオススメします。特に「ぶ火の海まつり」に行くと、ほしいと思います。まず、夏祭りといふ、たら花火やみこしで、色鮮やかな花火を約千発打上げます。特に夏は星がよくきれいに見えるため、景色は絶景です。さらに、お面や浴衣を着れば、と雰囲気が出て楽しめます。お金を持てて行けば、屋台で食べ物を買ったり、射的をして遊んだりもできます。祭りは基本的に友達などの複数人で動くと思いますが。先ほど言ったくさんのイベントを一緒に楽しめば、新しい友達ができたり。さらに仲が良くなるはずです。僕たちのように一年生でまだ話したことのない人がいる人こそ夏祭りに行って、夏休み全体が楽しくなるようにしてください。このことから僕は、この夏、祭りに行くことをオススメします。

・一方で整理した情報が自分の述べたいことを支える根拠としてふさわしいものになっているのかという部分に関しては不十分さを感じるものもあった。なぜこの情報を使用したのか、自分のどの主張を支えるために使用したものなのかという部分に課題が残ったと考える。

国語科学習指導案

令和6年9月20日(金)第5校時

1年B組 36名

指導者 門脇 舞

- 1 単元名 「パリ2024オリンピック・パラリンピックの若年層の興味関心度を大調査」
【レポートを書く】根拠を明確にして自分の伝えたいことを書こう

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・言語活動は、「パリ2024オリンピック・パラリンピックの若年層の興味関心度を調査し『レポート』にまとめる」と設定する。第1学年では書くことにおいて、「根拠を明確にすること」が求められる。本活動も、根拠となる複数のデータや調査結果を分析し、それを引用することで自分の考えを支え説得力を高めるものになるのかを思考するものとなっている。
- ・題材は、「オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心度のデータ」を用いるものである。オリンピックはこの夏に行われた国際的なスポーツの祭典であるため、新しいデータも多く関心度も高いことから、生徒がレポートを作成する上で、考察を支えるデータも多いと考えられる。
- ・この単元では、根拠を明確にするためのデータの引用の仕方や出典の方法、さまざまな種類のデータを多角的に読み取る力を育成することも求められている。多くの企業がさまざまな観点から調査を行っているデータを活用することで、求められる力をより効果的に育成できる。

(2) 学習者について

- ・6月には、夏に役立つ必須アイテムを紹介するという「書くこと」の授業を行っている。そこでは、マッピングを用いて情報を集め、その情報を分かりやすく整理する方法を学習した。学習者の授業後の振り返りでも「情報をまとめることは他の授業でも活用でき、書くだけでなく話す時にも活用できると考えた」「同じアイテムを選んでいる理由となる情報が違っていたことに驚いた」などが書かれており、「情報をまとめること」や「その情報を活かして文章を書くこと」には手ごたえを感じているようであった。一方で、「選んだ情報」が自分の考えを支えるものになっているかという部分に関しては、「夏にオススメ」する根拠となる情報を選べていないことや、情報ばかり述べ、自分の考えと根拠の情報が正確につながっていない紹介文が見られた。
- ・夏休み前に、「中学生に人気の高いもの・関心が高いもの」「この夏に楽しみにしていること・関心があるもの」というアンケートを取った結果、「アニメ・漫画」「TikTok」「YouTube」などはもちろんだが、4年に一度開催される「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック」への関心も高いことが分かった。学習者自身が関心をもち、また直近で行われた国際的なスポーツの祭典であるため、親しみやすく、書くことに対して苦手意識を持っている学習者にとっても意欲喚起に繋がると考える。
- ・学習者にとって ICT 機器は身近なものであり、情報を調べることに對しては慣れている一方で、調べたことを分析する力が弱い。情報の数値を読み取る力や情報と情報を比較することに慣れていないという課題があげられる。

(3) 指導について

- ・今回の単元では、「自分の考え」とそれを支える「根拠」を合致させることが大きな目標である。そのためには、根拠(資料やデータ)をもとに「そのデータからどのような事実を読み取り、そこからどんな解釈をしたのか」を明確にする必要がある。そのため、学習者の思考の過程が見えるようなワークシートを作成し、指導していき、最後のレポート作成に繋げていく。
- ・仮説を立てるにあたって、全体で一つのグラフを読み取る活動を行う。年代ごとの「パリ2024オリンピック・パラリンピック」に対する興味関心度を示すグラフから、若年層に着目させる。学習者自身も関心度が高い「パリ2024オリンピック・パラリンピック」であるが、世論がどう捉えているのかをグラフから読み取った上で仮説を立て、「調査」「考察」へと繋げていく。学習者がもっている興味関心度をより一層引き出すために、最初に提示するグラフを、多くの仮説が導き出せるようなものになるように工夫する。また、課題を設定する上で「パリオリンピック・パラリンピックと〇〇」と視点を絞らせ調査分析させることで、学習者一人ひとりがより具体的な課題設定や仮説を立てられるようにする。
- ・学習者自身が調査する「情報の質」に対しても細かく指導していく。自分の仮説を証明するための「根拠」を多くの情報の中から取捨選択し、自分の「考察」へと繋げていく中で、情報と情報との関連がとても重要になる。複数の根拠を抜き出しても、一つひとつの情報の関連が薄ければ「考察」を支える根拠として弱くなる。そのためただ単に情報を集めるのではなく、情報と情報との関係を考え、「考察」を述べる上での「根拠」として適切なかどうかの指導を行っていく。

様式2 単元プランシート

単元名	「パリ 2024 オリンピック・パラリンピックの若年層の興味関心度を大調査」 【レポートを書く】根拠を明確にして自分の伝えたいことを書こう！	
単元の目標	確かな根拠を示し考えまでが一貫した説得力のあるレポートを、各自が仮説を立て考察を導き出す学習を通して書くことができる。	
評価 規 準	知・技	①情報を関連付ける整理の仕方、引用の仕方、出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(情報の扱い方に関する事項(2)イ)
	思・判・表	①目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(書くこと(1)ア) ②自分の考えを裏づける資料やデータを選び根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫している。(書くこと(1)ウ)
	主体	①集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしようとしている。 ②文章の構成や展開の仕方を粘り強く考え、レポートを作成しようとしている。 ③レポートの作成を通して、本単元で学んだことを言語化している。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	・「オリンピックに関する資料」を読み解き、オリンピックへの関心を高め学習の見通しをもつ。 ・自分の課題を設定し、仮説を立てる。			②(1時)観察
2次 (2・3時)	・自分の仮説を考察するための情報を整理し分析する。 ・根拠(資料やデータ)と自分の考え(考察)をまとめる。 ⇒資料やデータを取捨選択し、自分の根拠が明確になるようにする。	①(2・3時) ワークシート	①(2・3時) ワークシート	①(2・3時) ワークシート
3次 (4～6時)	・根拠(資料やデータ)と自分の考え(考察)に一貫性のあるものにするためには、どのように資料やデータを取捨選択する必要があるのか考える。【本時】 ⇒例題を用いて根拠を元にした考察とはどのようなものなのか考え、自分の考察を見直す。 ・レポートの推敲。 ⇒前時を振り返り情報の精査及び考察を推敲した上で、交流を通して自分の考えを完成させる。 ・レポートを清書する。(PCを使用する)		①(4時) ワークシート	①(4時) ワークシート
			①(5時) ワークシート	①(5時) ワークシート
		①(6時) レポート用紙	②(6時) レポート用紙	②(6時) レポート用紙
4次 (7時)	・レポートを交流する。 ・ワークシートを用いて、単元の振り返りを行う。			③ 振り返りシート

	評価基準(思考・判断・表現について)	
	B	A
①	自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができ、その根拠と考察に一貫性がある。	自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができ、根拠と根拠を関連づけた上で考察と一貫性をもたせている。
②	資料やデータを引用することで、考察が説得力のあるレポートになっている。	資料やデータを引用することで、課題から考察が一貫した説得力のあるレポートになっている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(4/7)

(2) 題材「調査の結果(資料やデータ)」と「考察」の関係について考えよう。

(3) 本時のねらい

資料やデータと自分の考えに一貫性のある考察にするために、考察を裏づける資料やデータを取捨選択することを、例題で示されたレポートから客観的な事実(資料やデータ)と自分の考え(考察)の関係について考える活動を通して、自分自身のレポートに活かすことができる。

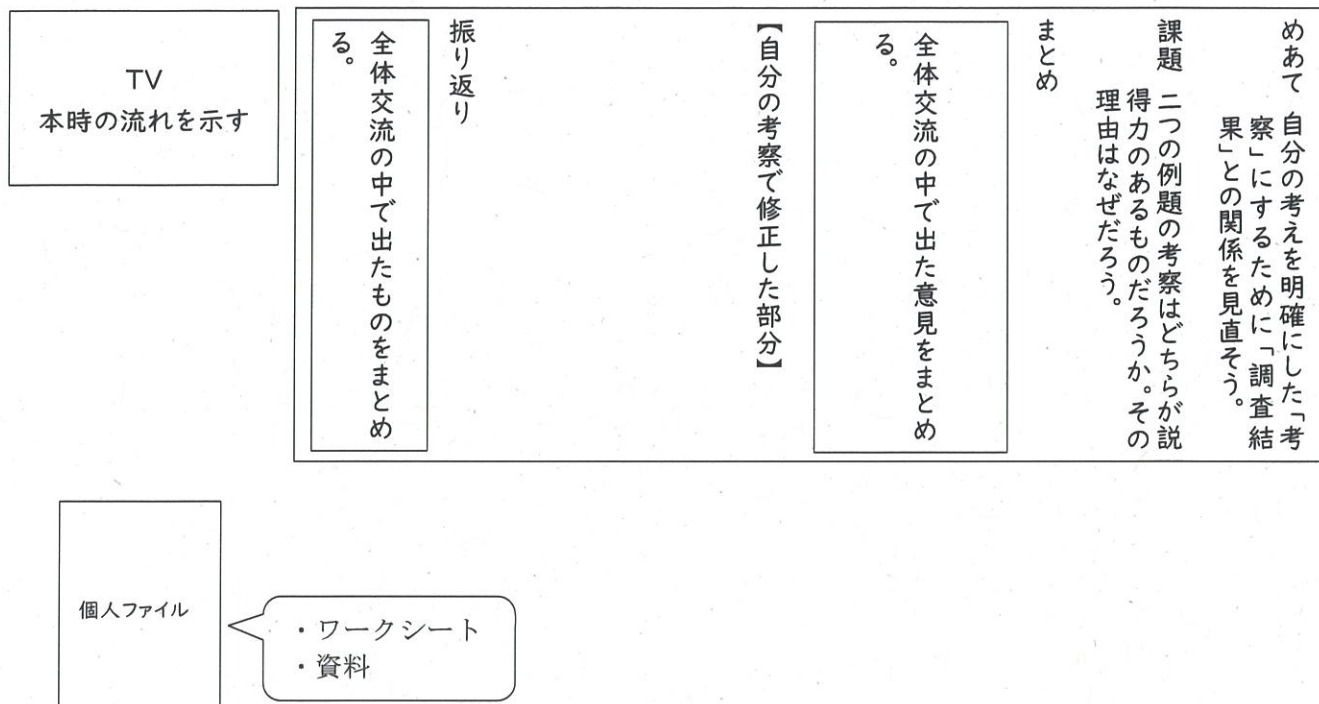
(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5分	1. 前時の振り返りと本時のめあて及び学習内容を確認する。	○本時のめあてと学習内容を確認する。	
	【めあて】自分の考えを明確にした「考察」にするために「調査結果」との関係を見直そう。		
		○自分の考えを明確にした「考察」にするためにはどの項目との関連が必要か考えさせる。	
	【課題】二つの例題の考察はどちらが説得力のあるものだろうか。その理由はなぜだろうか。		
10分	2. 二つの例題の「考察」のどちらが説得力のあるものか考える。【個人】	○自分が選んだ例題の「考察」のどの部分が説得力のあるものと感じたのか、その理由は何なのかを個人で考えさせる。 →周りとの交流などを通して中間指導を入れる。	
15分	3. 班で交流したあと全体で交流する。	[まとめ] (気づかせたいこと) ・調査結果をもとにして考察を書いている。 ・調査結果を比較したり、結び付けたりする中で書いている。 ・一つの調査結果からそれを詳しくするための調査結果を使い、考察に結び付けている。 ・考察の中では、調査結果の大切な部分だけをまとめて述べている。	
15分	4. 自分の前時のプリントを見返し修正する。その後、班で交流する。 →全体で数名指名し交流する。	○前時で学習した、「調査結果」と「考察」の部分をもう一度見直し、修正の方向性を考える。 ○なぜその部分を修正した方がいいのかの理由も考える。	自分の考えを裏づける資料やデータを選び根拠が明確になるように修正する方向性を考えることができる。 (書くことーア)
5分	5. 振り返りを書く。	○考察が説得力のあるものになるためには何が必要なのか考える。	
	[振り返りに書く内容] *1時間の授業を通して自分が学んだことは何か。 *この1時間の授業を通して、何を学んだのか。 について書かせる。		

(5) 本時の評価基準

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができており,その根拠と考察に一貫性がある。	自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができており,根拠と根拠を関連づけた上で考察と一貫性をもたせている。

(6) 学習記録計画



ワークシート④

「情報を集めよう・情報を読み取ろう・情報を引用する」

「根拠を示して説明しよう・資料を引用してレポートを書く」

一年()組()番(名前)

)

めあて	自分の考えを明確にした「考察」にするために「調査結果」と「考察」の関係を見直そう。
課題	二つの例題の考察はどちらが説得力のあるものだろうか。その理由はなぜだろうか。
説得力があるのは A B	
○そう考えた理由【個人】	○班活動・全体交流の中で、発見した新たな考え

振り返り 説得力のある考察を書くためには何が必要か。

【前時のついでに】「前時のついでにから【調査結果・読み取ったこと・自分の考え】を付け足す」
 とを書いた。

○ ①	②	③
---	--	--

*あなたが行った【調査結果・調査結果から分かること・仮説に対する考察】の評価は……

○

○……そのままレポートに使える

△……多少の情報の調べ直しや考察の推敲が必要

×……情報の調べ直しや考察の考え直しが必要

課題 インターネットを使ってSNSを利用する人が多く、中学生はどのような目的でSNSを活用しているのか疑問に思っている人々を調査した。

仮説 SNSを利用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのためではないだろう。

ワークシート④
資料③

「情報を集めよう、情報を読み取ろう、情報を引用する」
「根拠を示して説明しよう、資料を引用してレポートを書く」
一年（組）（番）（名前）

めあて

①中学生が利用しているSNS

- ① LINE 83%
- ② YouTube 89.2%
- ③ Twitter 24.1%
- ④ Instagram 35.2%
- ⑤ Facebook 1.0%
- ⑥ TikTok 46.0%

② SNSを多くの人が知っていること

- ① 集い 55.4%
- ② 友達が増える 31.9%
- ③ 書き込みや返信が面倒 14.9%
- ④ 自分のプライバシー保護が難しい 30.2%
- ⑤ リアルと違って安全だと感じる 30.2%

③

調査結果（根拠となる資料データ）

① 中学生が利用しているSNSで、YouTube、LINEが80%を超えている。また、TikTokも約半数で利用していることが分かった。この3つの活用方法は、動画視聴、動画投稿、他者とのリアルタイムでのやりとりである。

② SNSを通い多くの人が集い、友達が増えることについて「集い、友達が増える」と肯定的に見ている。一方、プライバシーの問題やトラブルの心配をしている人も30%ほどいることが分かった。

③

調査結果から分かること

① LINEの活用については、家に帰るなりでも友達とつながることができるという利便性から活用していることが分かった。また、友達とのコミュニケーションの場としてSNSを活用しているという。一方、YouTubeやTikTokの動画視聴、動画投稿については、友達とのコミュニケーションの場として活用しているという。

② SNSを通い多くの人が集い、友達が増えることについて「集い、友達が増える」と肯定的に見ている。一方、プライバシーの問題やトラブルの心配をしている人も30%ほどいることが分かった。

③

仮説に対する考察

考察

中学生に多く使用されているSNSとして、LINE、YouTube、TikTokがあげられる。その中でもLINEは、友達とつながることができるという利便性から活用している中学生が多いことが分かった。また、SNSを通い、友達とつながることができることに「集い、友達が増える」と感じている人も多くいることが分かった。このことから、SNSを利用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのためであるということが分かった。

A

課題 インターネットを使ってSNSを利用する人が多く、中学生はどのような目的でSNSを活用しているのか疑問に思っている人々を調査した。

仮説 SNSを利用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのためではないだろう。

ワークシート④

「情報を集めよう、情報を読み取ろう、情報を引用する」
「根拠を示して説明しよう、資料を引用してレポートを書く」
一年（組）（番）（名前）

めあて

①何のために使用しているか

- ① 集い、情報を知りたい 74.5%
- ② リアルの友人との交流 52.7%
- ③ 家族との連絡 33.7%
- ④ SNS上の友人との交流 18.3%
- ⑤ 情報の発信 16.9%

② 友達が増える → 74.6%

- ① ゲーム 38.0%
- ② LINEのチャット 35.8%
- ③ X 20.1%
- ④ TikTok 16.6%
- ⑤ その他 29.3%

③ SNSを多くの人が知っていること

- ① 集い 55.4%
- ② 友達が増える 31.9%
- ③ 書き込みや返信が面倒 14.9%
- ④ 自分のプライバシー保護が難しい 30.2%
- ⑤ リアルと違って安全だと感じる 30.2%

調査結果（根拠となる資料データ）

① SNSの活用目的として「集い、情報を知りたい」という目的が最も多く、次に「リアルな友人との交流」であることが分かった。また、SNS上の友人との交流も一定数いることが分かった。

② SNS上の友人がいる中学生が多いことが分かった。ネット上で知り合った友達も、実際に会って遊ぶ友達もいることが分かった。

③ SNSを通い多くの人が集い、友達が増えることについて「集い、友達が増える」と肯定的に見ている。一方、プライバシーの問題やトラブルの心配をしている人も30%ほどいることが分かった。

調査結果から分かること

① SNSの活用目的として「リアルな友人との交流」が50%を超えていることが分かった。中学生の目的は友達とのコミュニケーションの場として活用しているという。また、リアルな友人の場ではネット上の友人とのコミュニケーションの場でもある。

② SNSを利用する中学生の目的として「リアルな友人の場ではネット上の友人とのコミュニケーションの場でもある」ということが分かった。

③ 中学生のSNS活用目的として「集い、情報を知りたい」という目的が最も多く、次に「リアルな友人との交流」であることが分かった。また、「友達が増える」という部分からネット上の友人との場でも活用していることが分かった。一方、ネット上のトラブルに不安を感じている人も一定数いることが分かった。

仮説に対する考察

考察

SNSを使用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのため、という。また、「友達が増える」という部分から、リアルな友人との場でも活用していることが分かった。また、ネットの中だけでつながっている「不友」という存在も分かった。つまり、中学生は、リアルな友人もネット上の友人も同じようにSNS上で交流し、コミュニケーションの場として活用していることが分かった。一方、プライバシーの問題やトラブルの心配をしている人も一定数いることが分かった。このことから、SNSは多くの中学生にとって、リアルな友人との場でも活用されていることが分かった。

B

単元プランシート(国語科 1 年)

実施時期 1 月中頃

単元名		構成や表現の工夫を用いて随筆を書こう!
単元の目標		段落の役割を意識し、根拠や自分の思いを明確にする語彙・表現技法を活用することを通して、自分の体験やその時の思いが分かりやすく伝えられる随筆を書くことができる。
評価 規 準	知・技	①事象や行為, 心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ((1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ)
	思・判・表	①書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(書くこと(1)イ) ②根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。(書くこと(1)オ)
	主体	①さまざまな語彙や表現を知ること、今後の学習や生活に活かそうとしている。 ②目的や相手を意識し、伝えたいことを明確にした随筆を書こうとしている。 ③他者からのアドバイスをもとに自分の文章を見直し改善しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	「随筆」とはどういうものかを確認すると共に、「表現技法」の学習を行う。 ⇒小学校の時に書いた随筆より構成や語彙を工夫した随筆を創作することを意識づける。	① ワークシート①		
2次 (2~3時)	教科書に載っている「随筆二編」を扱う中でよりよい随筆とは何かを学習する。 ⇒二つの随筆からどちらかを選び、分析する。その中で、書き出しの工夫や、使われている表現技法、工夫された語彙などを見つけ、自分が随筆を書くときの参考にさせる。	① ワークシート③		
3次 (4~7時)	随筆の構成を考え、交流する。 ⇒「事実」と「意味づけ」のバランスや書き出しの工夫、表現技法や語彙の工夫を用いながら考える。 ⇒他者と構成を交流しアドバイスをもらう中で、構成を推敲し直す。 随筆を PC で作成し、交流する。 ⇒ワークシートを用いて、随筆を PC で作成する。 ⇒観点を踏まえて、完成した随筆の作品を交流する。	①(6時) 随筆清書	①(4・5・6時) ワークシート④ ワークシート⑤ 随筆清書 ②(5・7時) ワークシート④ ワークシート⑤ 随筆清書	②(6時) 随筆清書 ③(5時) ワークシート④ ワークシート⑤
4次 (8時)	ワークシートを用いて、単元の振り返りを行う。			① 振り返りシート

評価基準	
B	A
「事実」と「意味づけ」のバランスを考え、伝えたいことを明確にし、語彙の工夫や表現技法を使い、随筆の構成や書き出しを考えることができる。	「事実」と「意味づけ」のバランスを考え、伝えたいことを明確にし、語彙の工夫や表現技法も効果的に使い、随筆の構成や書き出しを考えることができる。
「事実」と「意味づけ」のバランスや語彙の工夫、表現技法の使い方について他者の助言を踏まえた上で、自分自身の構成や書き出しを見直し、随筆を書くことができる。	B の評価に加えて、読み手が引き込まれるような内容になっている。(読み手が心情や情景を想像できるような語彙や表現技法を用いることができる)

ワークシート④⑤ 随筆の構成に関する評価

これまでに学習したことを生かして、随筆の内容の「構成」と「書き出し」を書く活動。⇒助言をする活動も合わせて行った。

【全共通のテーマ】 中学校に入学してからのこと

【題材】 ワタレで読んでくたー

【構成】 表現技法、語彙の工夫記入する

段落	事実	意味づけ	表現語彙
1	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
2	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
3	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
4	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、

【書き出し】……一段落の内容を書き出す。

「ワタレで読んでくたー」

「ワタレで読んでくたー」

【C 評価】

段落構成では、「事実」と「意味づけ」のバランスがよくない。「意味づけ」の内容もウ読み手に想像させる語彙を使うことができておらず、表現技法の活用も不十分である。また、他者からの助言を踏まえて見直しを行うことができていない。

【全共通のテーマ】 中学校に入学してからのこと

【題材】 夏の思い出

【構成】 表現技法、語彙の工夫記入する

段落	事実	意味づけ	表現語彙
1	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
2	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
3	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
4	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、

【書き出し】……一段落の内容を書き出す。

「夏の思い出」

「夏の思い出」

【B 評価】

段落構成をしっかりと行い、「事実」と「意味づけ」もバランスよく書くことができています。また、書き出しも他者からの助言も踏まえてよりよいものにすることができています。一方、読み手が想像できる語彙を効果的に活用する点については不十分。

【全共通のテーマ】 中学校に入学してからのこと

【題材】 体育大会

【構成】 表現技法、語彙の工夫記入する

段落	事実	意味づけ	表現語彙
1	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
2	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
3	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、
4	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、	今年、月、日、年、月、日の、

【書き出し】……一段落の内容を書き出す。

「体育大会」

「体育大会」

【A 評価】

段落構成をしっかりと行い、「事実」と「意味づけ」もバランスよく書くことができています。また、書き出しも表現技法を効果的に活用し、読み手が続きを読みたくなるように工夫している。自分の心情を読み手が想像できる語彙を選ぶことができています。

【分析】

- ・C評価…クラスに1～2名程度。A評価…各クラス5～6名程度。
- ・これまでの学習も活かし、構成を考える活動をスムーズに行うことができた学習者が多かった。
- ・「事実」と「意味づけ」のバランスも工夫し、説明文ではなく随筆として構成を考えている姿が見られた。
- ・表現技法や自分の内容に合った語彙を選ぶことに関しては課題が残る。自分の心情やその時の様子に合った語彙を活用するためには、語彙力を増やすということが必要である。

随筆清書「他者からの助言を踏まえて構成や書き出しを見直し随筆を書けている」に関する評価

他者からの助言をもとに、構成や書き出しを見直し、自分の考えが明確に伝わるような随筆を完成させる活動。今回の*創作活動は量を書きたい学習者も多かったことから手書きではなくPCを活用した。

「のつはる合宿」

ぼくたちは揺れるバスの中、旅行だ！ワクワク、ドキドキするなあというような気持ちで学校入学以降初めての行事とも言えるのは合宿に行こうとしていた。いまではのつはるは旅行よりも集団意識が芽生えるためのスタートだったんだと思う。

のつはるにつくと、入所式があり、その後、野島ビンゴという外での活動を班で行った。最初はみんなて楽しく歩いていたが、いつのまにか迷宮のようになっていて道がぐちゃぐちゃと、地図上にない道を歩いていることがわかった。みんなでこの道を行く番とずっと話し合えばよかったのだが、半分ほどを班長に任せきりにしてしまっていたのだ。なんとか展望台につき、正規ルートに戻ることができたのだが、自分からもっと行動するべきだと思った。

更にそのあと、部屋に戻ったあと、夕食を食べに食堂に行くときも、班員全員が集まるのが遅れてしまい、他の人に迷惑をかけてしまった。自分から声がけぐらいはするべきだなと反省した。

次の日は快晴だった。一年生全員体育館に集まり、あたまおしりゲームなどの活動をした。みんなで意見を出し合うなか、一人がわからなくなっても、こういうのはどう？というように隣席などして班一
体となって取り組んだ。結果的に多くの単語を出すことができたのだ。その後はクラス全員の誕生日
日をジェスチャーなどで表現し、誕生日順に輪っかを作るというゲームをした。残念ながら優勝するこ
とはできなかったが、協力が大切だなと思った。

今では野津原の頃よりもクラスとして、そして集団としての意識が高まったが、のつはるがクラス、集団として意識しだした原点だったんだなと思い返して思った。

「青垣祭」

11月1日に、青垣祭があった。青垣祭ではクラス合唱があり、私がいる1年B組では「COSMOS」を歌った。

合唱練習は夏休み明けから始まり、小学校に比べると練習期間が長かった。

1ヶ月くらい前になると、休み時間、放課後にも練習があった。中学校では自分の歌いたいパートを決められなく、アルトになってなかなか音程を覚えられなかった私は、面倒くさい、早く帰りたいという気持ちがあった。けれど、同じバートの友達が頑張って音程を覚えて、大きい声をだせるように工夫して練習しているのを見て、私もその友達みたいにもっともっと頑張ろうという気持ちになった。そして、中間発表が過ぎてからは、こごまで頑張ってきたんだから、絶対金貨をとりたいという気持ちになっ

そして、ついに青垣祭本番…。上手く歌えなかったらどうしようという不安や、緊張があった。けれど、練習を頑張ったから大丈夫と思い、歌い切ることができた。歌、終わるとは、やりきったという気持ちで、

結果は、金賞をとれなかった。金賞を取ったのは隣のクラス、私は、夏休み明けの練習が始まった瞬間から本気で頑張っていたらよかった、と悔しさが残った。しかし、青垣祭を通して、苦手なことでも向き合ったり、本気で取り組むなど、成長することができた。

青垣祭でついた力を日常に活かしたい。

【B 評価】

他者の助言を踏まえて自分の構成を見直し随筆を書くことができた。「事実」と「意味づけ」を混ぜながら書くことができていた。一方で、読み手に想像させるような「意味づけ」やそれを表すための語彙選びや表現技法の活用に課題が残る。

「1年間のありがとう」

4月の中旬頃、僕の中学校生活がスタート。そのスタートに華を添える出来事があった。「列車通学」これだけでかっこいい! と思ってしまった当時の自分。今でも「列車止まります〜次は中判田〜中判田〜」という運転手の声とともに朝が始まる。

豊肥本線の車窓から見える景色はたくさんの作物が実った田園風景が広がり、乗っただけで心休まるような気がする。汗をかきながら農作業をしているおじさんが列車に手をふったりしていて都会にはない田舎の在来線っぽくていい！と声を弾ませていた。

さてその車内はというと、サラリーマンや学生などがたくさんっていてまるでお弁当箱のようになっている。かなり窮屈で約20分耐えなければならないのでかなりきつい。はじめはこんなきついことも楽しさのほうがか勝っていたのでなんとか頑張れたが、こうも続いてしまうとさすがに面倒くさくなってしまった。

7月ぐらいだったのだろうか。10分ほど列車が遅れて大分駅に到着。その列車を使って次は久大本線由布院駅行きと接続しているため、二つの便に影響が出てしまった。遅れをだしてしまっただ豊肥本線の運転手が久大本線の前運転転手し注意を受ける場面を偶然耳にした。駅構内にはガヤガヤしているため詳しくは聞き取れなかったがこれだけはいさっぱりと聞き取る事ができた。「歴史の長い路線。もっと責任感を持ってくれ」1914年創業の豊肥本線。それに対する思いを込めた言葉だったのだろう。

その言葉を聞いた直後、学校へ向かう途中、1914年創業ということは100年を超える歴史があって、これまでに何人もの人が運転に携わってきたのだろうかと考えたときにとても感慨深い気持ちになった。地方鉄道の半分近くが運転手不足に悩まされていると聞いたことがある。僕のような乗客側からすると満員電車はすこしきついかもしれない。ただ運転手は、乗客の命を背負うプレッシャー、長い歴史を背負う覚悟などたくさん抱えながら運転しているため、僕達の何十倍、何百倍、いや何千倍という苦労を感じていることを考えたときに僕達にできることはなんだろうか。僕は単純かもしれないが「ありがとう」と伝えることが一番なのではないかなと思う。今までより強く、より一層感謝の気持ちが強くなった。

【A 評価】

「事実」と「意味づけ」のバランスもよく、2つを織り交ぜながら書くことができている。細かい情景描写やその時の心情をさまざまな言葉に置き換えながら書くことができている。類似した心情を表す時にも、同じ語彙を活用するのではなく、違う言葉で言いまわしているなどの工夫が見られる。

【分析】

- ・C評価・・・学年を通してなし。A評価・・・各クラス10名程度。
- ・他者からの助言を踏まえて、相手意識が生まれ構成を考える時に反映させることができた学習者がほとんどであった。また、構成を踏まえて自分の考えを明確に伝えようとしている学習者が多く、これまでの学習が活かしている場面が見られた。
- ・自分の心情や情景などを表すことができる語彙を活用することについては課題が残った。来年度は、語彙を増やすことを目指していく必要がある。

単元プランシート(国語科3年)

実施時期 2月

単元名	今の日本に必要な法案を提出しよう。	
単元の目標	多様な考えをもつ相手を説得するための内容や構成、表現の工夫を、今の日本に必要な法案をスピーチする活動を通して、考え行うことができる。	
評価 規 準	知・技	①敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
	思・判・表	①多様な考え方を想定しながら材料を整理し、今の日本に必要な法案を明確にすることができる。 【話すこと—ア 情報の収集・内容の検討】 ②多様な聞き手を説得できるように、「対話型論証モデル」で作成した論理の展開を考え、話の構成を工夫することができる。【話すこと—イ 構成の検討】 ③自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。【話すこと—ウ 考えの形成・記述】 ④話の展開を予想しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。【聞くこと—エ 共有】
	主体	①敬語など相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使おうとしている。 ②多様な考えをもつ相手を説得するために、内容や構成、表現を工夫しようとしている。 ③学習目標に照らして学習の状況を把握し、今後の課題について具体的に示している。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1~4	○日本や世界についてのさまざまな情報を収集し、必要な法案を考える。「対話型論証モデル」の「自分の主張」「根拠」「論拠」を用いる。 ○グループ内で法案を発表する。その際、聞き手は反対の立場で聞くようにし、根拠や論理展開がうまくいっているか、また、どんな疑問や対立意見が出てくるのかを考えさせ、発表者に伝える。		① ワークシート (対話型論証モデル)	② 観察
5~6	○聞き手を説得できるようなスピーチの構成を考える。 必要であれば、スライドを作成する。		②	② 観察
7~10	○一人ずつスピーチを行う。 ○聞き手は、その法案を採用すべきかどうかを判断する。	① スピーチ	②・③スピーチ ④ 評価用紙	① スピーチ
11	○採用・不採用かの投票を行う。 ○単元のふりかえりをする。			③ 振り返りシート

評価基準(思考・判断・表現①について)

B	A
多様な立場として主に対立意見を想定し、その意見に対して、自身の立場からの反駁を考え、伝える内容の中に書き込んでいる。	Bに加え、反駁に、客観性や信頼性を確認した情報を根拠とした考えが書き込んでいる。

課題：今の日本に必要な法案は何か。

根拠 (事実、データ)

(2018年03月)

・スウェーデンなどでは数千人が、2700万円を50人づいて
 ・米国では給食料を採算的に年間1人あたり25日使っている。
 ↳ 会計上では2700万円とされ、給食料を
 採算期間が1年
 ↳ 給食料を取り替える年間約100億円で採算する
 4大谷さん227年のお金、サリマニ(46万円)70734分
 04年
 ・各自治体で使っている。
 ・日本には9万144人から行方不明。

自分の主張

マイク法

全国民にカーナビを埋め込む
(2020年普及率100%)

- ・犯罪の減少
- ・行方不明の解消
- ↳ 災害時や誘拐時に
発見を早くできる
- ・保険書などを持たなくていい
- ・なりすましなどを防止できる

对立意見

② われどい？

点線内は、既習しており、複数の情報を関係させながら主張につなげることが概ねできている。

論拠・理由づけ

- 海外では2170チップにより、2合言いかせたり、
- 家や車のガキも2170チップで済むため、物と金が失くさく
- くた。という。
- 病院のカルテ情報などを入られている
- GPSを使えるようにすると救助がなにかいしやなくなる(今8/8/11)
- 2170チップが入っているかどうかは見ただけじゃわからなくない。
- 案外いい
- ・自1-183.

反駁

- ① 体から出た。→ 使えなくす本質いい
- ② 25~30年は作動するようにしている
- ③ 全体適合が7で覆われている。
- ④ 1に2を9割7割でできている電圧は
不要

両方とも、対立意見については記述できている。反駁についても、自身の立場からの考えを記述している。ただし、「～したい」という願望や本当にそうなっているのかを確かめることができない情報になっている。

課題：今の日本に必要な法案は何か。

根拠（事実・データ）

周子昂報告 ▶ 育休取得率 男性 90.1% 女性 87.1%
 ▶ 育休取得率の理由 1位 育児のため 28.9% 2位 育児のため 21.8%
 (×7.74=77) 3位 育児のため 21.8%
 養育費 ▶ $日 \times \frac{1}{2}$ 課!! { 集団生活で生活費が少い }
 (78.77)
 ↳ 妊娠6月~1歳半の間、父の働きが、母の働きより少い
 養育費 ▶ 自給自足の時間 66.7% 98.2% 育児のため 99.99.9%
 (母親は子育てに忙しい)

自分の主張

夫婦間、育事、家事の分担
有休の申請をしやすいとする
最低でも半分の有休を使用
育休中の給料6割支給

夫婦共同育児法

对立复数

- ・自由で承認されたもの (労働のみ)
- ・最大限は?
- ・育児の負担は?
- ・育児中の仕事はどのくらい?

論拠・理由づけ

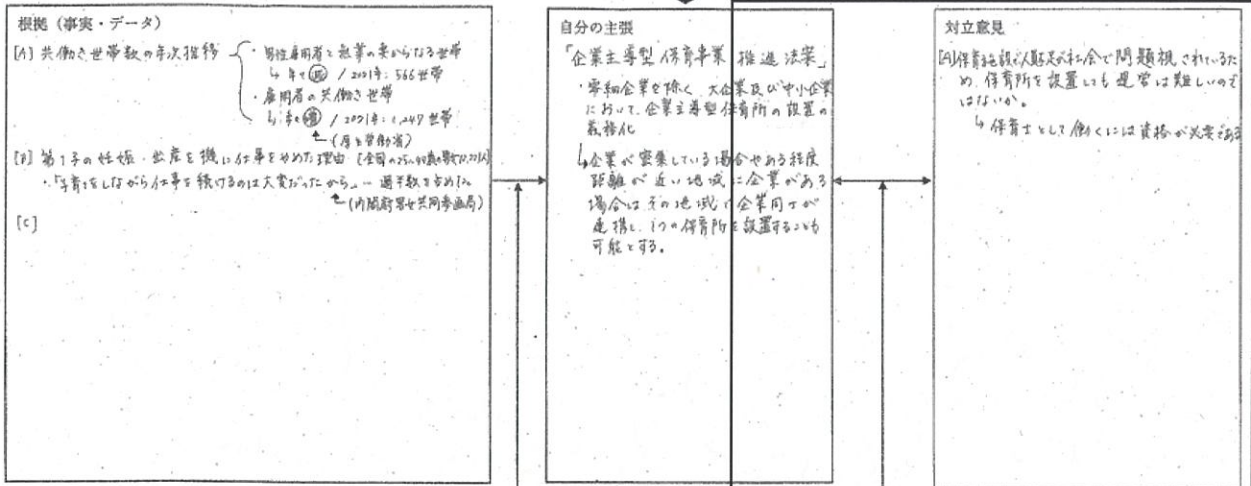
母と父の両方を取捨得ず。老 (9) → 母親、不担 (10) ...
 ② 少年高齡化に注意
 育児、時間 (11) 水 (12) → 障害障害 (13) 危険性
 → 個人 (14) 最も危険 (15) ...
 ③ ④、夫婦 (16) 一線 (17) 子育 (18) 重要
 保育 (19) 取捨得 (20) 需 (21) 取捨 (22) (23)
 → 法 (24) 半 (25) 太平 (26)
 節制 (27) 在 (28) ...

反駁

- ・南條が大事代、青佐が大事にしてはいい。
- ・12-10-10の仁孝がみらい申請後、可能と
していい。
- ・総務費のみ
- ・女中、青佐は12月20日予定している。
12月20日まではとるが、後帰が大変だと
思われるのでどうするか、国金様へ
意見書

生徒のワークシート【A】

課題：今の日本に必要な法案は何か。



論拠・理由づけ

[A] 時代の変化とともに世帯も変化し、共働き世帯が急激に増加している。一方で、専業主婦世帯は減少傾向にある。

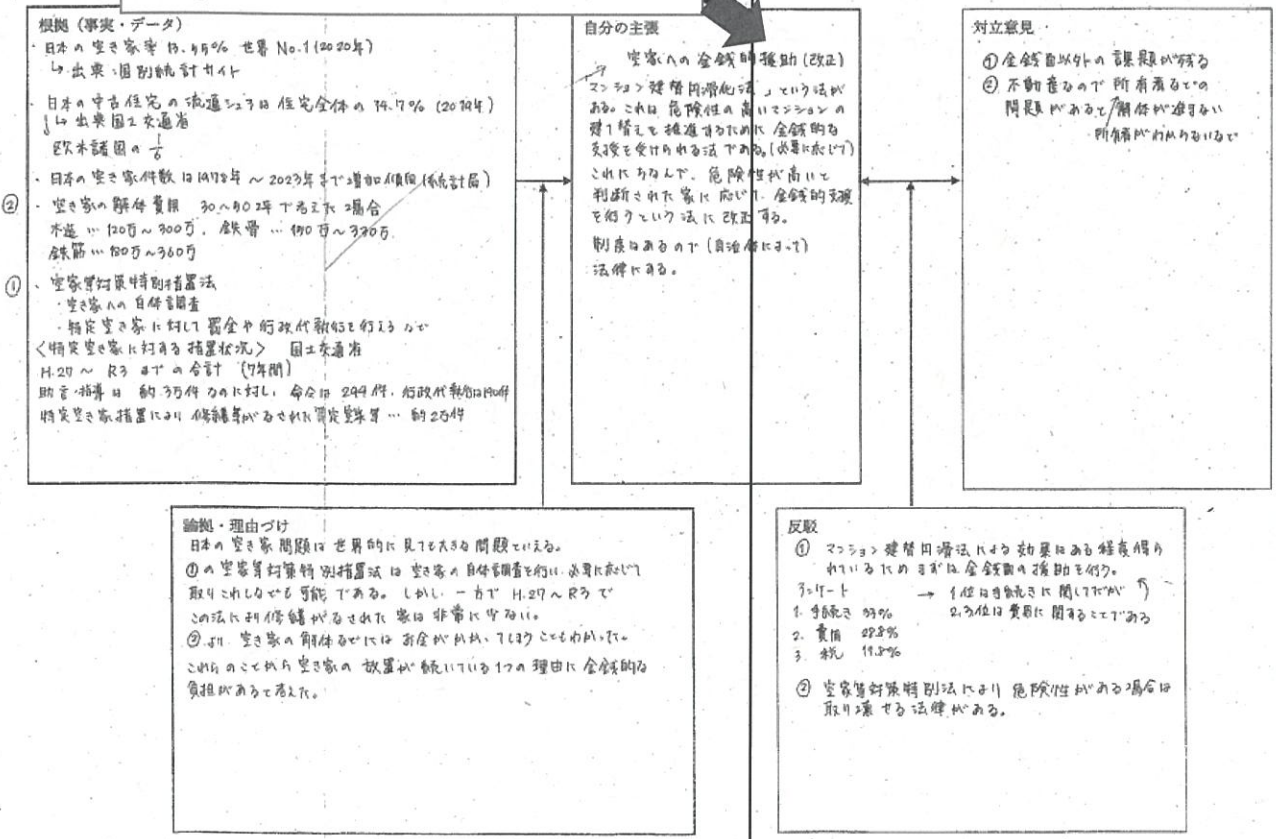
[B] 今年をやめると、おかげで子どもの女性学出産率。という人が多くて、育ちの良し、育ちの悪しは難しくなっている。

反駁——「保骨補助」

[illegible]

両方とも、対立意見については記述できている。反駁についても、自身の立場からの考えを記述している。加えて、その考えを支える情報を集め、説得力あるものにしようとしている。

必要な法案は何か。



授業改善のイメージ（社会科）

本年度の研究テーマ

見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価

方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

3分野を通して、論理的思考力をはたらかせた資料読解力を向上させ、様々な方法で表現する力

設定理由

近年、社会科において、資料読解力を活用し表現または説明をできることが様々な場面で求められている。一方で、生徒の実情は、データや資料を読解・分析することに苦手意識を感じている事が多く、求められているものと実情が乖離している状態が見受けられる。こうしたことから、社会科では、3分野（地理・歴史・公民）において、論理的思考力をもとにした資料読解力を向上させることで、読み取った資料を多面的・多角的な観点から根拠をもって分析、議論し、自己に落とし込み、様々な方法で表現する力を養っていきたいと考えこのように設定した。こうした力を育むことで、三年間で、社会を見取る主権者としての観点や社会を見渡すために必要な批判的思考力がつくことに期待している。

授業改善の方針

(0) 知識・技能の習得について

- 基礎用語の習得だけでなく、資料やデータを活用し、社会的事象の概念を理解する場の設定をする。

(1) 学習活動

- 「単元を貫く課題」をもとに、ポートフォリオ（振り返りプリント）を使用する。その際、小单元ごとに使った資料や分析したものをポートフォリオ（振り返りプリント）に集約させ、取捨選択を判断し、適切に表現するようにする。
- ワークシートにおいて、自分の考えと他者の考え、それを経てのまとめを位置づける。

(2) 評価方法

- ワークシートによる記述や学習活動による評価を行う。
- 「単元を貫く課題」に対するポートフォリオによる振り返りと「単元のまとめ」による評価を行う。

(3) 評価基準の設定

- 【B】社会的事象に対して、多面的・多角的に考察し、表現できているか。
- 【A】社会的事象に対して、多面的・多角的に考察し、他者の意見などを自分の考えに取り入れ表現できているか。

	前 期		後 期
〓 二年生	世界の諸地域 【資料読解力】	古代の日本 【資料読解力】	世界の諸地域 【表現力＝書く力】
			中世の日本 【プレゼンテーション力】
〓 二年生	日本の諸地域 【資料読解力】	近世の日本 【資料読解力】	日本の諸地域 【表現力＝書く力】
			近代の日本 【プレゼンテーション力】
〓 三年生	現代の日本 【資料読解力】	個人の尊重と日本国憲法 【資料読解力】	現代の民主政治と社会 私たちの暮らしと経済 【表現力＝書く力】
			地球社会と私たち 【プレゼンテーション力】

前期の成果

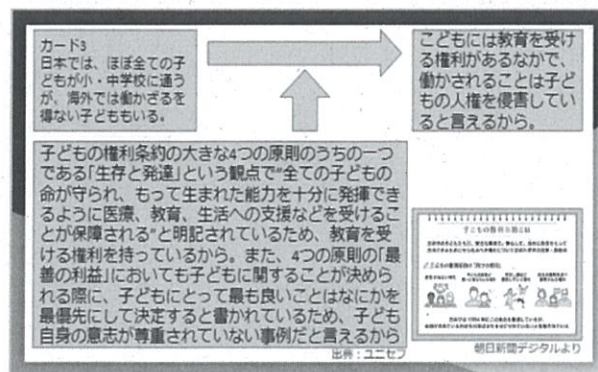
(0) 知識・技能の習得について

- ・ 各学年ともに、小テストや単元テストをこまめに行い、知識の定着を図った。また、小単元の中で必ず「課題」を設け、そこに必ず根拠となるものを示すことを習慣づけていった。
- ・ 思考ツールや協働学習などを活用し、論理的思考のレベルが前期末には大幅に向上した様子がワークシートなどからも見とれた

(1) 学習活動

- ・ 単元を貫く課題を必ず設定し、それを、単元のまとめで資料やデータを明らかにして、まとめることが出来ていた。3年生の第2章「個人の尊重と日本国憲法」においては、トゥールミンモデルを活用し、自分の主張を、単元で使用した資料やデータなどを活用し、理由や根拠をもって論理的に説明する事ができた。

(資料)



(2) 評価方法

- ・ ワークシートやポートフォリオ、単元まとめのレポートなど総合的に見取ることができた。

(3) 評価基準の設定

- ・ 基準の設定は各学年で行うことが出来たが、検討の余地があるとなった。

前期の課題

(0) 知識・技能の習得について

- ・ 中位層から下位層へのフォローや補充学習の必要性がある。
- ・ 知識や技能を身につける必然性を導入時などに行う必要がある。

(1) 学習活動

- ・ 「単元を貫く課題」に関しても、なぜそれを考える必要があるのかといった必然性や様々な面や角度から考えるための手立てを計画的に準備する必要があると感じた。

(2) 評価方法

- ・ 多面的・多角的な視点をどの単元で与え、考えさせるべきなのかを考える必要がある。

(3) 評価基準の設定

- ・ 単元計画をしっかりと立て、評価する観点やポイントを適切に設定する必要がある。
- ・ タテ持ちをしている事から、教科部会などで単元計画や評価のポイントなどをすり合わせるなど、共通理解を図る必要がある。

後期の成果

(0) 知識・技能の習得について

- ・ 1年生では、地理分野において、アジア州の単元で「工場進出をどこで行うか」考えさせる中で、必要な情報を自ら判断して収集し、適切な場所を多面的多角的に考える場面を設定できた。
- ・ 2年生では、地理分野において、中部地方の単元で「なぜ、中部地方の各県は特徴的な産業が発展しているのか」を考えさせる中で、生徒自ら情報を収集し、まとめを発表する場面を設定できた。
- ・ 3年生では、公民分野において、現代の民主政治と社会の単元で「模擬選挙」や「模擬裁判」を最後に行うにあたり、必要な知識と持つべき視点を様々な事例から考える場面を設定できた。

(1) 学習活動

- ・ ルーブリックプリント（振り返りプリント）において位置づけた。
- ・ ルーブリックプリントを使い、毎時間ごとに自ら設定した課題を達成していけるような活動を設定した。
- ・ ワークシートの中で、毎時間「課題」を設定し、自ら考える事とグループで考える事と全体で考える事を設定した。多様な考え方や様々な視点で考える活動として毎時間設定した。

(2) 評価方法

- ・ ICT 端末を活用し、思考の流れや根拠となる資料を何にしたかを見取れるよう工夫した。
- ・ ICT 端末を活用し、使用した資料を明示させたり、グループ内で発表したりして相互に評価できるように工夫した。
- ・ ワークシート内にある「課題」への個人の考えや他者との対話や全体共有においてどのような変容があったかを見取る形を実践できた。

(3) 評価基準の設定

- ・ 単元を見通した計画を作成し、「単元を貫く課題」を軸に設定し、実践することが出来た。
- ・ 1枚ポートフォリオを活用し、小単元での評価を見取ることが出来た。

後期の課題

(0) 知識・技能の習得について

- ・ 低学力層への支援や手立てを計画段階から練る必要がある。
- ・ ルーブリックとして単元の最初に評価基準（考える視点や身につけて欲しい力）を示すこと。

(1) 学習活動

- ・ 様々な事象に対して、生徒から疑問を持ち、課題を考える必然性を追究する必要がある。
- ・ 資料やデータを見るポイント（出所や信用性、妥当性など）を身につけさせる必要がある。

(2) 評価方法

- ・ 形成的評価と総括的評価の場면을適切に設定する必要がある。社会科においては、総括的評価でみていく場面が多いように感じるため、改善の必要がある。
- ・ 形成的評価においては、しっかりとした評価基準や見取り方などを事前に策定しておく必要がある。

(3) 評価基準の設定

- ・ ルーブリックを基にした、ぶれない評価基準を作成する必要がある。
- ・ 量で評価すると文章が書ける生徒の評価が高くなることから、文章量で評価するのではなく、生徒の変容や活用するデータや資料の判断理由や根拠などを質的なもので評価することが今後の課題である。

来年度に向けて

- ・ 社会科としてつきたい力の明確化をし、単元計画の軸とする必要がある。
- ・ 評価基準の A と B を明確にする研究を進めていく必要がある。

作成者：大場 将公（おおば まさひろ）・中島 将宏（なかしま まさひろ）

社会科学習指導案

2024年 5月 25日 (火) 6限

3年D組(40名)

指導者 大場 将公

1 単元名 第一章 現代社会と私たち (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・「現代社会と私たち」は、持続可能な社会づくりに向け、「①グローバル化」、「②少子高齢化」、「③情報化」、「④文化」の4つに分けられ、それらが現在と未来の政治や経済、国際関係に与える影響を追究する活動を通して、資質・能力を育成する単元である。現代社会の日本では、様々な課題が山積しており、持続可能な社会に向け、その現状や課題を考察することで、我が国の今後や展望を考え、深めることに適した単元である。
- ・本単元においては、現代社会がかかえる諸課題を、現在と将来の政治や経済、国際関係にてらしあわせ、それらが与える影響などを考察し、持続可能な社会づくりににおいて有効なのかを資料やデータと関連付けたりすることを通して、多面的・多角的に考え、表現することを単元のねらいとする。
- ・日本の地理的知識(空間的広がり)や歴史的知識(推移や変化)に加え、そこで得た見方・考え方をもとに、日本が直面する現状と課題を主体的に考え、多面的・多角的な視点から、未来的思考で課題解決に向け、考えぬく姿を養うことができる教材である。

(2) 学習者について

- ・本学級の学習者は、社会科アンケートの調査において、「社会の学習が好きであるか」という質問に対して、肯定的に答えた学習者は93%(37名)であった。また、「社会の学習についてどのように感じているか」という質問に対しては、85%(34名)の学習者が「社会の学習は楽しい」と肯定的に回答した。
- ・一方で、社会科の学習について、約15%の学習者が心配や難しさを感じていることがわかる。社会科は好きだが、データや資料を読み取る事を苦手と感じていることや自分の考えをまとめることに困りを感じている事が要因として挙げられる。加えて、自分の意見を発表することに対しては、間違いをおそれたり、自信のなさからやや消極的な姿勢の学習者が見られる。
- ・また、「グループ学習と一斉学習はどちらが自分の学習に役立つか」という質問に対して、95%(38名)の生徒がグループ学習と答えている。理由としては、「わからないところの質問がしやすい」「いろんな人の意見が聞ける」「班で考えを深められる」などの回答が多かった。教え合いなどの活動には積極的に取り組むことができている、他者の意見を聞くことには意欲的な姿勢が見られる。こうしたことから、グループ学習を通して資料やデータを分析し、協働して課題解決に導く力を向上させていきたい。

(3) 指導について

- ・単元を貫く課題を設定することで、学習者が主体的に公民の学習に取り組めるようにするとともに、現代社会の見方や考え方を学び取ることが必要であることの意義を感じさせる指導をする。
- ・課題分析については、データや資料で読み取ったことをワークシートや思考ツールにまとめ、自分の思考を整理させる支援をする。その情報をもとに小グループでの活動で互いの意見を交流させ、見方や考え方を発信、共有させることで多種多様な考えを認め合う大切さを醸成する。
- ・自らの学びを、振り返りシートで積み上げ、考えの広がりや関連に気づき、学ぶことの必要性が高まることを促す。

単元プランシート（ 社会科 3年）

実施時期 6/25

単元名		現代社会の特色と私たち（1） 私たちが生きる現代社会と文化の特色
単元の目標		現代社会の特色について、位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の資質・能力をつけることができるようになる。 ・現代社会の特色として「少子高齢化」・「情報化」・「グローバル化」などが見られることを理解出来るようにするとともに、諸資料から課題解決に向けた情報を効果的に収集しまとめる技能を身につける事が出来るようにする。 ・「少子高齢化」・「情報化」・「グローバル化」などが現在と未来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 ・文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。 ・現代社会の課題に対して、持続可能な社会をつくるために必要な見方や考え方を主体的に追及し、現代社会に関わろうとする態度を養う。
評価 規 準	知・技	①日本が持続可能な社会を作っていくうえで、グローバル化や少子高齢化、情報化、文化などと向き合っていかなければならないことを理解している。 ②データや資料をもとに課題解決に必要な情報を効果的に収集する技能を身につけている。
	思・判・表	①日本の地理的位置や世界との空間的な広がりや時代推移や変化などに着目し、グローバル化や少子高齢化、情報化、文化などが現在や未来、また、政治や経済、国際関係などに与える影響を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体	①日本が行っている持続可能な社会づくりを考察する中で、見つけた課題を主体的に考え、現在だけでなく未来的思考を持って現代社会に関わろうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	・単元を貫く課題の設定 「これからの日本で、私たちはどのように生きていくべきなのだろうか？」 ・現在の日本にある課題やこれから訪れる社会（グローバル化・少子高齢化・情報化）に関する未来的予測の資料やデータをエキスパートに分かれ収集する。 【課題把握】【情報・資料読解および収集】			①
2次 (2時)	・1次で得たデータを共有し、グローバル化の長所や短所、今後の展望について資料を抽出し、分析する。 ・貿易額の推移や訪日外国人などの資料をもとに今後の日本に及ぼす影響や変化について多面的・多角的に考察し、表現する。 【課題追究】【資料読解】	②	①	
3次 (3時)	・政府の方針や新聞記事をもとに、現在の日本が置かれている少子高齢化の状況を理解する。 ・1次で得たデータを共有し、少子高齢化が進行する	②	①	

	ことでの長所や短所，今後の展望について資料を抽出し，分析する。 ・分析したものを各自治体や国が行っている事例に照らし合わせ，多面的多角的に検証し，解決策を提案する。 【課題追究】【資料読解】			
4次 (4時)	・1次で得たデータを共有し，情報化の長所や短所，今後の展望について資料を抽出し，分析する。 ・内閣府の作成した「Society5.0」に関する映像を視聴し，それにとまなう情報社会がもたらす光と影の側面を考察し，表現する。 【課題追究】【資料読解】	②	①	
5次 (5時)	・科学技術の発展や宗教・芸術などの文化が私たちの生活に与える影響について理解する。 ・日本にある伝統文化や年中行事をどのように継承していけばよいかを考察し，表現する。 【ワークシート】	①	①	
6次 (6時)	・身近にある国際文化や世界に広がる日本文化をまとめ，それが及ぼす影響を考察し，表現する。 ・多文化共生社会を目指すためにはどのような視点や考え方が必要になってくるのかを理解する。 【ワークシート】	①	①	
7次 (7時)	・単元のまとめ ・学習したことを踏まえて，単元のまとめを作成する。 【課題をまとめ表現する】		①	①

●・・・学習状況を見取り，学習改善につなげる評価

○・・・観点別学習状況の評価につなげる記録に残す評価

評価基準	
B	A
現代社会の課題が現在の政治，経済，国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ている。	Bに加え，他者の意見や詳細な考察を自分の考えに取り入れ，表現出来ている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (3 / 7)

(2) 題材名 少子高齢化

(3) 本時のねらい

現代社会の特色である少子高齢化の今後について、少子化がもたらす様々な影響を分析し、意見交換する学習活動を通して、少子化に歯止めをかけるための解決策を提案することができる。

(4) 展開

◎は形成的評価

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1. 国の少子高齢化の動きと実情を把握し、ペアで意見交流 2. 本時のめあての確認	○前時までの学習を振り返り、本時のテーマが「少子高齢化」であることを確認する。 ○政府が打ち出している「異次元の少子化対策」と最新の合計特殊出生率や世論調査の結果を示し、ペアで率直な感想を伝え合う。 ○各所で少子高齢化が喫緊の解決必要性課題とされているのを確認する。 めあて：日本の少子化に歯止めをかけるための解決策を提案しよう。	
12	3. 少子化が進展することでの長所や短所を班で資料分析し、各班のジャムボードとワークシートに記入する。	○複数の資料に触れ、短所だけでなく長所にも気づかせるとともに、少子化の進展が自分たちの未来にも大きく影響していることを理解させる。 ○班ごとのジャムボードに長所と短所を整理してまとめる。個人でも、ワークシートにまとめる。	○【机間指導】情報の収集と読み取りについて指導 ○【ワークシート】読み取ったり、意見交換したものをまとめられているか
12	4. 資料とジャムボードを使い少子化に歯止めをかける解決策を策定する。	○各班の資料などを活用し、様々な視点や角度から少子化に歯止めをかけられそうな案を策定する。 ○その際に、どのような視点や角度に重点を置いて考えるかを大切に促す。	○【机間指導】 ○【ジャムボード】
12	5. 各班の考えを発表する。	○Google ジャムボードを活用し、各班の考えを1分以内でプレゼンテーションする。	
9	6. 各班が出した案の中で自分が支持する案を振り返りプリントに記入する。	○資料分析によって得られた、少子化の長所や短所を用いるとともに、この課題を克服するための考えを様々な視点や角度から振り返らせる。	◎【解決策の提案】(思考・判断・表現)
	振り返り：日本でこのまま少子高齢化が進展すると、深刻な労働力不足になり、生産力の低下や産業衰退が起こることが予想される。なので、私は、18歳までの教育費無償化の考えが良いと思います。資料から、子育てに経済的不安をかかえている人が多いことがわかり、この心配を無くすことで少子化に歯止めを書けられるのではないかと考えました。お金の面では膨大な額がかかりますが、長い視点で見ると人口増加や生産性の向上につながられ、少子化に歯止めをかけられると考えました。		

第一章 一節 「現代社会の特色と私たち」 3年()組()番 氏名()

単元を貫く課題「これからの日本で、私たちはどのように生きていくべきなのだろうか？」	
月 日 ()	タイトル (1) 持続可能な社会に向けて めあて【 】 【振り返り】持続可能な社会とは・・・
月 日 ()	タイトル (2) グローバル化 めあて【 】 【追究課題】 グローバル化によるメリットとデメリットとは何なのだろうか？ グローバル化の長所 (メリット) グローバル化の短所 (デメリット) 【振り返り】グローバル化が進展していくことでの私たちに与える影響とは・・・

月 日 ()	タイトル (3) 少子高齢化 めあて【 】	
	【追究課題】 少子化によるメリットとデメリットとは何なのだろうか？	
	少子化による長所（メリット）	少子化による短所（デメリット）
【振り返り】 少子化に歯止めをかける解決策として私が考えたのは・・・		
月 日 ()	タイトル (4) 情報化 めあて【 】	
	【追究課題】 情報化によるメリットとデメリットとは何なのだろうか？	
	情報化による長所（メリット）	情報化による短所（デメリット）
【振り返り】 情報化が進展していくことでの私たちに与える影響とは・・・		

A 評価

現代社会の課題が現在の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ていることに加え、他者の意見や詳細な考察を自分の考えに取り入れ、表現出来ている。

【振り返り】少子化に歯止めをかける解決策として私が考えたのは...

・子どもがいろいろ世帯や、子どもがほしいと思ってる世帯への援助
→大学までの学費の負担(政府が学校に直接納めらる)や、保育センターのような
助けあえる場所をつくることで、子どもをもうむことや育てることへの不安を軽減
→うみやすい環境をつくる。他の人材(外国など)で代用するのではなく、
“少子化”を解決し子どもをふやす。支え合って、協力する。

B 評価

現代社会の課題が現在の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し表現出来ている

【振り返り】少子化に歯止めをかける解決策として私が考えたのは...

子育て世代の教育費を無償化していくこと。預託
料としても、社会全体として負担を減らすこと。子育て世代の負担を減らすこと。

社会科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

2年B組 40名

指導者 中島 将宏

1 単元名 第三章 日本の諸地域 「地方創生に必要なものは何か」

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・「日本の諸地域」は、内容のCの(2)である「日本の地域的特色と地域区分」で扱った事象を主要な考察の仕方として用い、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、地理的な事象をその他の事象と関連付けて、地域的特色や地域の課題とともに事象間の関連を理解し、多面的・多角的に考察できるようにする単元である。中国・四国地方は、中国山地や四国山地を境に山陰、瀬戸内、南四国と大きく分けて3つの地域に区分することができ、自然環境や産業の違いがある中でそれぞれ発展してきた経緯がある。また、交通網の整備によって地域間の移動も多く行われるようになってきた。しかし、近年は山陰や南四国の山間部の人口減少が著しく、今後の地域の存続が問われている。
- ・本単元においては、「②人口や都市・村落を中心とした考察の仕方」を中心として、中国・四国地方が抱える人口や村落の問題をそこに暮らす人々の生活や文化、産業と関連付け、地域の大きな課題であることを資料やデータと関連付けたり、各市町村が行っている取組を参考にしたりすることを通して、中国・四国地方にある様々な問題を多面的・多角的に考え、表現することができる。
- ・中国・四国地方の課題は日本全体の課題でもあり、そこで得た知識をもとに、日本が直面する現状と課題を主体的に考え、課題解決に向け粘り強く考えぬく力を養うことができる教材である。

(2) 学習者について

- ・本学級の学習者は、社会科のアンケート調査において、「知らない地域のことを知るのが楽しい」「想像していたイメージと違うことがわかることが楽しい」などの回答があり、新しい知識を知ることに関心を持つ学習者が多いと言える。単元テストや定期テストの結果を分析からも基本的な用語の習得や資料の読み取りができていない学習者が多い。
- ・一方で、「複数の資料を関連付けて読み取ることが難しい」や「根拠を示してまとめることが難しい」と回答をしている学習者も見られる。複数のデータや資料を読み取る事を苦手と感じていることや自分の考えをまとめることに困りを感じている学習者が一定数存在する。
- ・「グループ学習と一斉学習はどちらが自分の学習に役立つか」という質問に対して、94%(36/38名)の生徒がグループ学習と回答している。理由としては、「話しながら考える方が楽しい」「わからない所を社会が得意な人に聞ける」「自分と違う考えを聞けるのは参考になる」などの回答があった。互いに意見を言い合いながら課題に対して取り組む様子や聞く態度は意欲的で互いに高め合う姿が見られる。

(3) 指導について

- ・一つの事象を理解させるだけでなく、事象間の関連からみえる新たな視点を地理的な見方・考え方を意識させながら育てていく。
- ・課題分析については、RESAS や地域創生ポータルサイトで読み取ったことをワークシートや振り返りシートに記録し、スライドを使って自分の思考を整理させる支援をする。その情報をもとに小グループでの活動で互いの意見を交流させ、多種多様な考えを認め合う大切さを醸成する。
- ・自らの学びを、振り返りシートで積み上げ、考えの広がりや関連に気づき、学ぶことの必要性が高まることを促す。また、グループ学習を通して資料やデータを分析し、協働して課題解決に導く力を向上させていく。

単元プランシート (社会科2年)

実施時期 9月

単元名		日本の諸地域 (2) 中国・四国地方
単元の目標		中国・四国地方の地域的特色を理解し、そこに暮らす人々の生活や文化、産業と関連付けて、中国・四国地方の様々な問題を考え、表現することができる。
評価 規 準	知・技	①中国・四国地方の地域的特色を理解している。 ②問題解決に必要な資料を効果的に調べ、まとめる技能を身に付けている。
	思・判・表	①中国・四国地方において、人口、自然環境、産業、人々の生活の様子やそこで生ずる課題と結びつけて、多面的・多角的に考察、表現している。
	主体	①中国・四国地方のよりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○中国・四国地方の地形や気候などの自然環境の特徴を理解する。 ○中国・四国地方の各地の人口推移を読み取り、過疎化や少子高齢化が進む地域であることを理解する。 ○国が進めるIT技術を活用した地方創生の考え方を理解する。 ・単元を貫く課題の設定 「地方創生には何が必要なのだろうか」	① 観察 ワークシート		
2	○中国・四国地方がどのように発展してきたか、産業と交通の視点から捉える。 ・工業について、瀬戸内海沿岸の工業地域の発展を自然環境の特徴と関連付けて理解する。 ・農業について、交通網の発達によって各地に出荷される作物への影響を理解する。	② 観察 ワークシート	① 観察 ワークシート	
3	○全国各地で行われている地域創生の取組を調べる。 ・地域創生ポータルサイトに掲載されている事例をもとに自然環境、産業、交通・通信の面から中国・四国地方でも活用できる事例を見つける。		① スライド	
4	○単元を貫く課題について、今後の中国・四国地方について考える。 ・前時にみつけた事例が、どうして中国・四国地方でも活用することができるのか、地域的特色を踏まえて考察する。		① スライド	① ワークシート
5	○単元のまとめを行う。 ・前時に作成したスライドを完成させる。 ・振り返りシートに単元のまとめを記入する		① スライド 振り返りシート	

○...記録に残す評価 (総括的評価) ●...記録に残さない評価 (形成的評価)

評 価 基 準 (思考・判断・表現について)	
B	A
中国・四国地方が抱える様々な課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	中国・四国地方が抱える様々な課題を多面的・多角的に考察し、自分なりの提言を踏まえて表現している。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (4/5)

(2) 題材名 日本 の諸地域 中国・四国地方 地方創生に必要なものは何か

(3) 本時のねらい

中国・四国地方の今後について、地方創生の取組を分析し、中国・四国地方に適合しうるものを多面的・多角的に考察する活動を通して、よりよい地域の在り方をスライドにまとめることができる。

(4) 展 開
◎は形成的評価

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評 価
10	1. 前時までの内容を振り返る。 2. 本時のめあての確認	○地方創生ポータルサイトに掲載されている事例を基に、中国・四国地方でも取り組むことができる事例を探すことを伝える。 ・本時の流れを伝える。 めあて ：中国・四国地方の地方創生のために活用できる事例を考えよう	
15	3. 前時にまとめた事例の中から1つ選び、中国・四国地方でも取り組める事例をスライドに示す。	○振り返りシートにまとめた中国・四国地方の地域的特色（自然環境、産業、交通・通信）や前時に作成したスライドを参考にして、中国・四国地方でも取り組める事例を一つ選ばせる。 ・選んだ事例は中国・四国地方の山陰、瀬戸内、南四国の中で、どの地域で取り組む方が効果的かも示させる。 ○chromebook のスライドに自身の考えをまとめさせる。 ・多面的・多角的に考察をするように促す。 ・活動が滞っている学習者には机間指導の中で助言を与え、支援をしていく。	◎【スライド】
15	4. 各班で自分の考えを発表する。	○各班（4人班）で自分の考えを発表させる。 ・持ち時間は1人2分を基本とする。 ・発表はどのような視点で事例を選んだのかを聞く人に伝わるように説明させる。 ・聞く側は発表者がどのような視点で事例を選んだのかワークシートにメモを取りながら聞かせる。 ・代表者数名に全体発表をさせ、多面的・多角的に考察しているところを評価し、自分の考えも多面的・多角的に考察できているか振り返らせる。	◎【発表】 ○【ワークシート】 (主体)
10	5. 振り返りを行う。	○他者の発表を聞くことで得た新しい視点や新たに浮かんだアイディアをもう一度考えさせ、スライドの修正をさせる。	○【スライド】 (思考・判断・表現)

(5) 本時の評価基準

評 価 基 準（思考・判断・表現について）【本時】	
B	A
中国・四国地方で取り組むことができる事例を、地域的特色を踏まえて複数の面や複数の角度から考察し、スライドにまとめられている。	中国・四国地方で取り組むことができる事例を、地域的特色を踏まえて複数の面や複数の角度から考察し、自分なりの提言を含めてスライドにまとめられている。

単元プランシート (社会科 3年)

実施時期 10月～11月

単元名		第3章 現代の民主政治と社会 3節 地方自治と私たち
単元の目標		地方自治の基本的な考え方について、対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想する活動を通して、次の資質・能力をつけることができるようになる。 - 地方自治の基本的な考え方、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解出来るようにするとともに、諸資料から課題解決に向けた情報を効果的に収集し、まとめる技能を身につける事が出来るようにする。 - 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現出来るようにする。 ○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。
評価 規 準	知・技	○地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。
	思・判・表	○対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治や国の政治の在り方、地方自治の課題とその解決策について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	主体	○民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	- 単元課題の設定 「大分県の課題を解決していくために、必要な政策を立案し、投票しよう。」 - 地方公共団体が行う政治について国の政治と比較し、役割や仕組み、地方自治の原則などを理解する。 - 単元課題について触れ、自分たちが住む大分県が抱えている課題を出し合い、まとめる。 【課題把握】	●		
2次 (2時)	- 地方公共団体が抱えている課題について理解する。 - 大分県の財政状況や人口推移など、最新のデータを提示し、このままでは自分たちの住む大分県が危機的な状況になることを認識させ、単元課題を考える必然性を高める。 - 自分たちが住む大分県の課題について、統計局HPや大分県HP、RESASなどを用いて調べ、多面的・多角的に考察しワークシートにまとめる。 【課題追究】【資料読解】	●	○	

3次 (3時)	・住民が地方公共団体の政治に密接にかかわっており、そこへ参加する方法について理解する。 ・各個人が調べた、大分県が抱える課題をグループで共有し、グループごとに課題解決に必要な政策を立案し、ワークシートにまとめる。 【課題追究】【表現】	●		●
4次 (4時)	・前時でまとめた意見をもとに、google スライドに政策案をまとめ、次時のプレゼンテーションに向けて準備を行う。 【課題発表】【表現】		●	●
5次 (5時)	・各グループ3分の持ち時間で、「大分県に必要な政策」をプレゼンテーションする。 ・聞き手は、「政策の具体性」・「政策の実現可能性」・「予算の妥当性」・「課題との整合性」という4観点で評価する。 ・全てのグループ発表が終了したら、単元のまとめとして、自分自身が考える、大分県の今後に必要な政策を選び、その理由をまとめる。 【課題をまとめ表現する】		○	○
6次 (6時)	・単元テストを行う。 ・前時の投票結果を発表する。	○	○	○

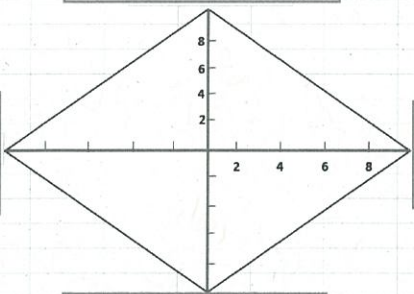
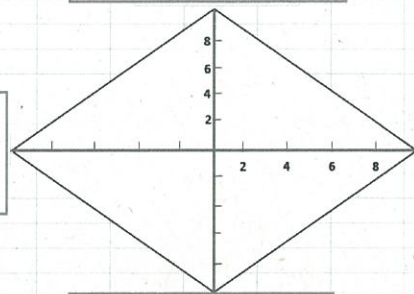
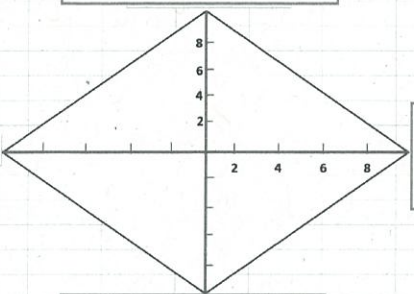
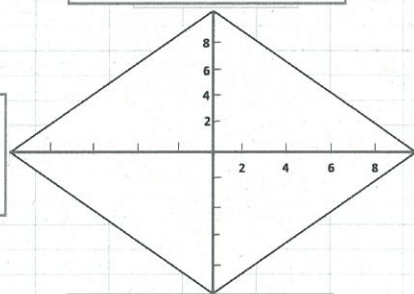
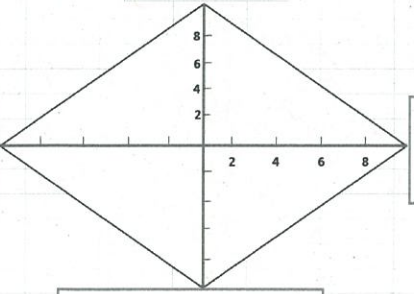
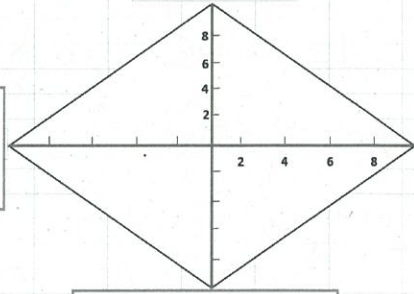
●・・・学習状況を見取り、学習改善につなげる評価

○・・・観点別学習状況の評価につなげる記録に残す評価

評 価 基 準	
B	A
学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点から考察し，表現する事が出来ている。	学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点に加え，効率と公正の視点から考察し，表現する事が出来ている。

3年（ ）組 （ ）番 名前（ ）

めあて 各班の考えた政策を4つの観点から評価し、大分県に必要な政策を決定し、投票しよう。

1 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性	2 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性
3 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性	4 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性
5 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性	6 班 政策の具体性 課題との 整合性  予算の 妥当性 政策の実現可能性

7 班

政策の具体性

課題との整合性

予算の妥当性

政策の実現可能性

8 班

政策の具体性

課題との整合性

予算の妥当性

政策の実現可能性

9 班

政策の具体性

課題との整合性

予算の妥当性

政策の実現可能性

10 班

政策の具体性

課題との整合性

予算の妥当性

政策の実現可能性

課題 大分県の課題を踏まえたうえで、大分県の今後に必要な政策はどれだと考えましたか？

【まとめ】 私は 【 】 班の政策が今後の大分県に必要と考えました。

【政策名：_____】

(理由)



A 評価

学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点に加え，効率と公正の視点から考察し，表現する事が出来ている。

まとめ 私は 【 1 】 班の政策が今後の大分県に必要と考えました。

【政策名： 野菜健康プロジェクト 】

⊕ (理由)

大分県が抱える問題として、私が調べてわかったのは、少子高齢化が大幅に進み、人口が減ってきている事と、それに伴う財政問題がありました。この問題を解決するために自分の班が提案したバックプロジェクト大分も考えましたが、より多くの県民に影響を与え、健康寿命の向上といった高齢者の層にも、若い人の健康維持という観点からも良い政策だと考えただけです。また、財政的な負担も少なく、今ある財源を有効活用して出来る可能性（実現可能性）が高いため、この政策を選びました。

B 評価

学習した内容や資料，データを根拠として，課題解決に必要な方策を，多面的・多角的な視点から考察し，表現する事が出来ている。

まとめ 私は 【 10 】 班の政策が今後の大分県に必要と考えました。

【政策名： 国際都市おおいの計画 】

⊕ (理由)

大分県には、観光客もたくさんくるし、APUもあるため外国人の方と非常に親密であることが強みである。データにも示してあったように、年間100万人が訪問する大分県ならではの強みを生かして、国際化することによって日本人である私たちにとっても、やってくる外国人にとってもたくさんのメリットがあるのがこの政策だと考えたからです。

単元プランシート (社会科 2年)

実施時期 2月～3月

単元名		第5章 開国と近代日本の歩み 第4節 日清・日露戦争と近代産業
単元の目標		○日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを、我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。 ○議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。 ○議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けさせる。
評価 規 準	知・技	○日清・日露戦争、条約改正などを基に、我が国の国際的な地位が向上したことを理解している。 ○我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。
	思・判・表	○議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
	主体	○議会政治の始まりと国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	・帝国主義が進む中で日本がどのように条約改正に向けて動いていたかを理解する。 ・単元の課題 「日本はなぜ条約改正をすることができたのだろうか」 【課題把握】	●		
2次 (2時)	・日清戦争に至る流れと条約改正に与えた影響を、国際情勢と関連付けて理解し、説明できる。 【課題追究】【資料読解】		●	
3次 (3時)	・日露戦争が起きた経緯や条約改正に与えた影響を理解し、国際社会の動向と関連付けて考察し、説明できる。 【課題追究】【表現】		●	
4次 (4時)	・韓国と中国ではどのように政治の変化が起きたかを理解する。 【課題追究】	●		
5次 (5時)	日本の産業発展と文化の発達が生じた条約改正に与えた影響を説明できる。 【課題追究】		●	
6次 (6時)	単元の課題に対する振り返りを行いまとめることができる。 【まとめ】		○	○
7次	単元テストを行う。	○		

(7時)				
------	--	--	--	--

評 価 基 準	
B	A
条約改正ができた要因を明治時代以降の学習内容や資料を根拠として、多面的・多角的な視点から考察し、表現することができている。	条約改正ができた要因を明治時代以前の内容や資料を踏まえながら、多面的・多角的な視点から考察し、表現することができている。

第5章「開国と近代日本の歩み」第4節「日清・日露戦争と近代産業」

学びのきせき

2年()組()番 氏名()

1 はじめに～見通しをもって単元の学習に臨もう～

今後の学習で解決していきたい新たな問い

日本は、戦争によって、何を得て、どのような変化が起こったのか。

単元を貫く課題

日本はなぜ条約改正をすることができたのだろうか。

2月(26)日(水)単元の最初の時点での考え(1時)

日本が「大日本帝国憲法」を公布して、議会も開いたことで、文明国として見られるようになったから。

これからの学習で特に大切だと思うものにマルをしよう。

時	学習内容
1	欧米諸国との条約改正の動きを学んだ後、単元を貫く課題を引き受け、学習の見通しをもつ。
2	日清戦争が条約改正に与えた影響を説明できる。
3	日露戦争が条約改正に与えた影響を説明できる。
4	日本の東アジア進出が条約改正に与えた影響を説明できる。
5	産業の発展が条約改正に与えた影響を説明できる。
6	近代文化の発達に与えた影響を説明できる。単元のまとめをする。

2 単元の学習の途中で～授業の中で考えたことや友人や先生の話したことで心に残ったもの・大切だと思ったこと～

2月27日(木)	2時 日清戦争によって、清の面積はどんどん小さくなっていき、列強の国々の植民地が増えた。日本は、その賠償金によって、軍は強化された。
2月28日(金)	3時 日露戦争は、日本とロシアが争った。イギリス、アメリカなどの多くの国が関与して起こった戦争である。戦費は倍増したにも関わらず、賠償金はなかった。国民の不満が。
3月4日(火)	4時 韓国は、日本に支配されたことで、日本人と同化されていき、どんどん支那化が強められていった。中国は、革命によって、新たな権力者による政治が始まった。
3月7日(木)	5時 労働組合などの、欧米の文化を取り入れるなかから産業を発展させていった。工場法などの工場で働く人々を守るための法律もできた。

3 単元の振り返り(6時) (3)月(10)日(月)

この単元の自分自身の学習への取組(線の上に○を書こう。)

よい ←

単元を貫く課題について考えたことを複数の視点から書きなさい。

国内の産業の面では、欧米にもある労働組合や工場法の整備によって、欧米の国々から見ると発展しているように見えたのではないかと思います。また、領土の面では、下関条約や、ポーツマス条約、韓国併合によって、日本が、徐々に領土を広げていったことも、欧米から見ると脅威になっていたと思います。義経戦争の際に、一番多く兵を出したことも、日本の発展をアピールすることにつながっていると思います。

今後の学習や生活に生かしたいことやこれからも考え続けていきたいことを書きなさい。思います。

日本は、2つの戦争などによって、一気に立憲を強くしていきました。そんな日本が、産業の面で取り入れた労働組合などの、今でも残っている社会の仕組みや法律などに注目して、今後学習していきますようにしたいです。

授業改善のイメージ（数学科）

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う

設定理由

令和5年度実施の全国学力・学習状況調査の結果によると、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題」において、正答率が低くなっている。このことから、結論を導くために何が分かればよいか明らかにしたり、与えられた条件を整理したりする活動を取り入れ、仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導していくことが求められる。

以上から、目的に応じて言葉や数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を選択したり、数学的な表現を相互に関連付けたりすることを通して、事象の本質を捉えたり、理解を深めたりできるようにするため、「数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う」と設定した。

授業改善の方針

（0）知識・技能の習得

- ・言葉や数、式、図、表、グラフなどを使って概念を理解する場を設定する。

（1）学習活動

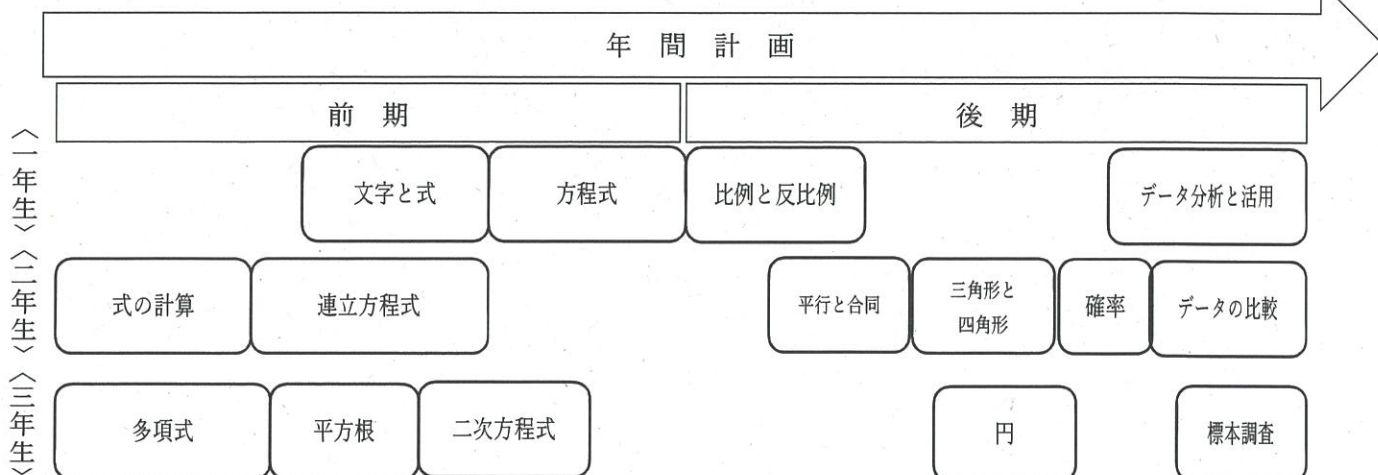
- ・授業において、生徒の思考に即して「なぜいえるのか（理由）」「どのように説明できるか（方法）」「どのようなことがいえるか（事実）」のうち、何を説明すればよいか明確に位置付ける。
- ・計画において、授業で理由、方法、事実のどの説明を行うか明確にした単元計画を作成する。

（2）評価方法（総括的評価）

- ・ノートやワークシート、ホワイトボードなどにまとめた考えを写真に撮り、ドライブ上に提出することで、全生徒の学習状況を確認に見取る。

（3）評価基準の設定（例）

- ・【B】キーワードを使って、簡潔、明瞭、的確に説明ができているか。
- ・【A】キーワードを使って、他の視点や事柄などに関連付けて簡潔、明瞭、的確に説明ができているか。



前期の成果

(0) 知識・技能の習得について

- ・『方程式』においては、上皿天秤を活用し、等式の関係を見出す場面を設定できた。
- ・『連立方程式』においては、コンクールを行い、意欲付けを行った。
- ・『一次関数』においては、トランプを活用することで、式と表、言葉がどうつながっているか整理する場面を設定できた。
- ・『多項式』においては、因数分解の方法を面積図と関連づけて考えることで、式の変化の考え方を説明できる場面を設定できた。

(1) 学習活動

- ・単元プランシート内で明確に位置付けた。
- ・活用での学習活動を見通して、知識や技能における指導の重点ポイントが明確になった。
- ・「課題」を位置付け、考えることを焦点化した授業を行った。

(2) 評価方法（総括的評価）

- ・ワークシートやレポート、テスト、写真など、確実に見取ることができる形で実践できた。

(3) 評価基準の設定

- ・3学年において実践することができた。

前期の課題

(0) 知識・技能の習得について

- ・低学力層の生徒について、授業内で定着が図れるような手立てを考えていく。

(1) 学習活動

- ・導入において、生徒の思考が「なぜ」「どのように」「どのようなことが」いえるのか、考えられる展開の工夫が必要だと感じた。

(2) 評価方法（総括的評価）

- ・適切な評価基準をいかにして作成するか検討する必要がある。
- ・形成的評価を行う授業でどう評価基準を設定するとよいか検討する必要がある。

(3) 評価基準の設定

- ・量ではかるのか、質ではかるのか、吟味が必要である。

後期の成果

(0) 知識・技能の習得について

- ・『比例と反比例』においては、図と式、グラフを関連づけて値の変化を実感させる場を設定することができた。
- ・『データの分析と活用』においては、CBを活用してデータの処理を試行錯誤することで、良さや注意点に気付く場面を設定することができた。また、実験を通してデータの量による信頼性を実感させることができた。
- ・『三角形と四角形』においては、平行四辺形になるための条件を、作図を通して図と関連付けながら理解を図ることができた。
- ・証明の必要性を感じさせるため、定義と定理の違いを、具体例を用いて理解を促すことができた。また、命題の逆がいつも成り立つとは限らないことを、身近な具体例を活用して理解させることができた。その結果、証明の必要性を感じさせることができた。
- ・低学力層の生徒については、問題演習の際、プリントを配布し、解決すべき課題を明確にすることができた。

また、問題の把握、既習の振り返りにおける教員の支援や、ペアや班活動など他者との交流における支援を行うことができた。

(1) 学習活動

- ・単元計画をもとに、活用での学習活動を見通し、知識や技能における指導の重点ポイントが明確になった。
- ・活用場面では、生徒が「疑問」や「問い」を持てるような導入、授業展開を行った。『データの分析と活用』では場面を具体的に設定することで当事者意識を持たせることや、『円』では定理が成り立つ理由を問う課題を設定するなどの工夫を行った。

(2) 評価方法（総括的評価）

- ・ワークシートやレポート、テスト、写真など、確実に見取るための手段を明確にし、生徒が自信をもって考えを残すことができるよう、単元を通して説明の方法を指導することができた。

(3) 評価基準の設定

- ・3学年において実践することができた。

後期の課題

(0) 知識・技能の習得について

- ・低学力層の生徒が知識・技能を授業内で確実に習得できる手立てを考える。
- ・概念を正しく理解し、どのような有用性があるか実感させたいうでの知識・技能の習得となる展開を考える。

(1) 学習活動

- ・学習における必然性をもたせる授業展開を工夫する。

(2) 評価方法（総括的評価）

- ・単元に応じた評価材や評価方法を選択し、実践できるようにする。

(3) 評価基準の設定

- ・形成的評価を行う授業でどう評価基準を設定するとよいか検討する。

来年度に向けて

- ・適切な評価基準の設定するための材料を集め、評価基準の精度を高める。
- ・単元を通してつけたい力を見据え、本時でつけておくべき力を形成的に評価するためのA評価の設定について検討する。

作成者：末松 哲郎（すえまつ てつろう）・高木 博也（たかき ひろや）・石村 成葉（いしむら なるは）

単元プランシート(数学科 1年)

実施時期 6, 7月

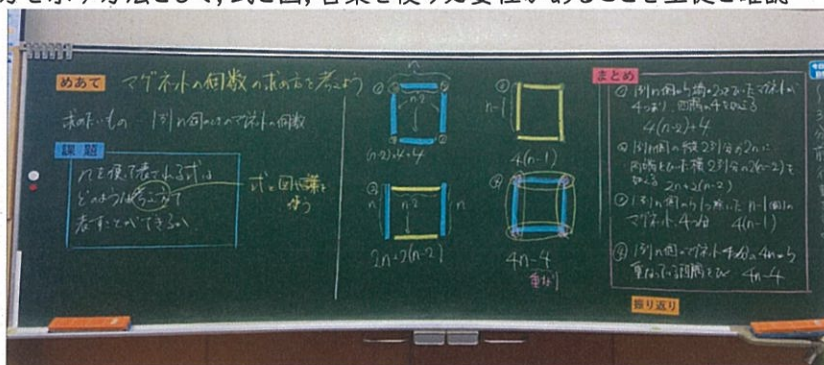
単元名		2章・文字と式
単元の目標		文字を用いて数量の関係や法則などを式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を培うとともに、文字を用いた式の計算ができるようになる。 ・文字を用いることの必要性和意味を理解できる。 ・文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知る。 ・簡単な一次式の加法や減法の計算ができる。 ・数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりできる。
評価 規 準	知・技	1. 文字を用いることの必要性和意味を理解している。 2. 文字を用いた式における積や商の表し方を知っている。 3. 文字を用いた式の文字に数を代入して、その式の値を求めることができる。 4. 簡単な1次式の計算をすることができる。 5. 数量の関係や法則などを、文字を用いた式に表すことができることを理解している。 6. 数量の関係や法則などを、文字を用いた式を用いて表したり、読み取ったりすることができる。
	思・判・表	1. 具体的な場面と関連づけて、1次式の加法と減法の計算の方法を考察し、表現することができる。 2. 文字を用いた式を活用して、具体的な事象を考察し、表現することができる。
	主体	1. 文字を用いることの必要性和意味を考えようとしている。 2. 文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 3. 文字を用いた式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1~8時)	○文字を用いることの必要性和意味を理解し、具体的な数量を、文字を使った式で表すことができる。 ○文字式での積や累乗、商の表し方にしがつて、式を表すことができる。 ○次の数量を、文字を使った式に表すことができる。 ・単位の異なる数量・割合・速さ・円周の長さ・円の面積 ○文字に数を代入することや式の値の意味を理解し、式の値を求めることができる。	①(ノート) ②(ノート) ③(ノート)		①(行動観察)
2次 (9~14時)	○棒の本数を求める式から、その求め方を読み取って、図を使って説明することができる。 ○項と係数の意味を理解し、文字の部分が同じ項を1つの項にまとめることができる。 ○1次式の加法や減法、1次式と数の乗法、除法の計算ができる。 ○1次式のいろいろな計算ができる。	④(ノート)	①(ノート)	②(ノート)
3次 (15~18時)	○マグネットの個数の表し方を、数え方を図に書き込む活動を通して、説明することができる。 ○文字を用いた式を活用して、立方体をつなげたときの棒の本数を求める式を考え、その求め方を説明することができる。 ○いろいろな整数を、文字を用いた式で表したり、式が表す意味を読み取ったりすることができる。 ○等式、不等式の意味を理解し、数量の間の関係を等式や不等式で表したり、等式や不等式が表す数量の関係を読み取ったりすることができる。	⑤⑥(ノート)	(15時) ②(ノート)	(15時) ③(振り返りシート)
4次 (19時~20時)	○単元末レポート ○単元末テスト	○(テスト)	○(テスト)	○(レポート)

評価基準		
	B	A
①	2つの長方形を合わせたとき、長さや面積の関係から、2つの項をまとめることができることを説明できる。	2つの長方形を合わせたとき、長さや面積の関係から、2つの項をまとめることができることから、数量を文字を使った式で表すとき、同じ文字は同じ数を表していることに着目し、同類項はまとめることができることを説明している。
②	マグネットの個数の表し方について、図を示しながら文字を使った式で表すことができている。	マグネットの個数の表し方について、書き込んだ図と式の間を言葉で説明することができる。

1年数学「文字と式」

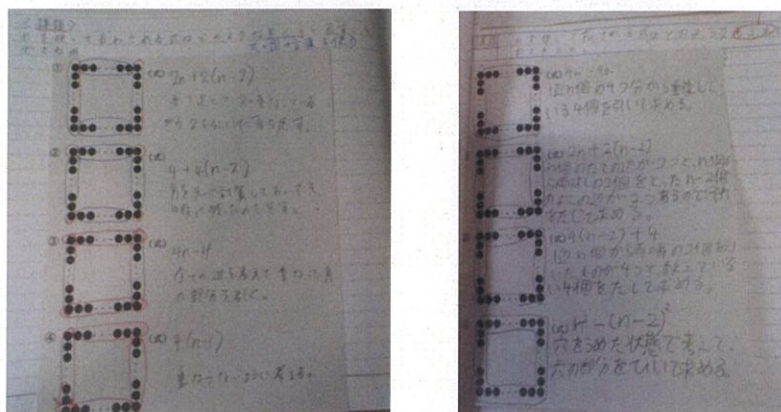
○課題設定の際、考え方を示す方法として、式と図、言葉を使う必要性があることを生徒と確認



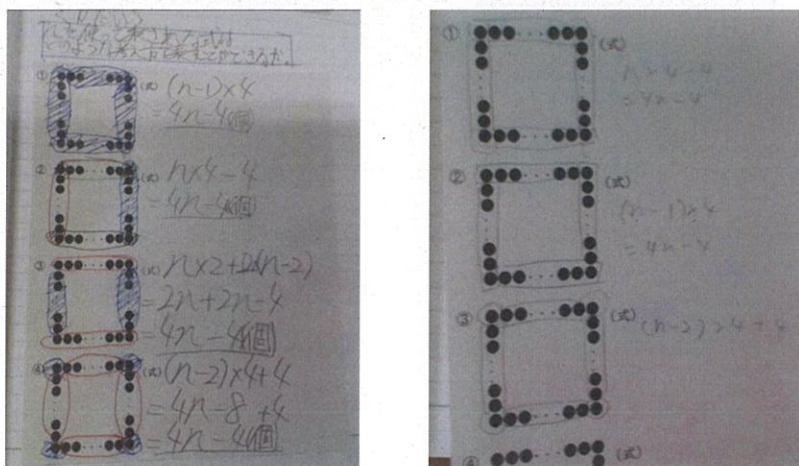
○ノートに貼り付けたワークシートをドライブ上にアップロードすることで、生徒は考えを共有することに、指導者は評価をすることに活用



A評価 マグネットの個数の表し方について、書き込んだ図と式の関係を言葉で説明することができている。



B評価 マグネットの個数の表し方について、図を示しながら文字を使った式で表すことができている。



単元プランシート(数学科 2年)

実施時期 5月

単元名		1章・式の計算
単元の目標		具体的場面を通して ・単項式と多項式を知り, 多項式の加減や単項式の乗除ができる。 ・文字を用いた式を使って数量や数量の関係をとらえ説明できることを理解することができる。 ・目的に応じて, 簡単な式を変形することができる。
評価 規 準	知・技	①簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ②具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり, 式の意味を読み取ったりすることができる。 ③文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 ④目的に応じて, 簡単な式を変形することができる。
	思・判・表	①具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて, 整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 ②文字を使った式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。
	主体	①文字を使った式の必要性和意味を考えようとしている。 ②文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1~8時)	○身のまわりの問題を, 具体的な数の計算をもとに考え, 文字を用いて一般的に表す必要性を理解する。 ○単項式と多項式, 次数の意味を理解する。 ○同類項の意味を理解し, 同類項をまとめる計算や, 多項式の加法や減法の計算ができる。 ○多項式と数の乗法や除法の計算ができる。 ○多項式についてのいろいろな計算ができる。 ○単項式どうしの乗法や除法の計算ができる。 ○単項式どうしの乗法と除法の混じった計算ができる。 ○式の値をくふうして求めることができる。	①(ノート) ②(ノート) ①(ノート) ①(ノート) ①(ノート) ①(ノート) ①(ノート)	①(ノート)	①(行動観察)
2次 (9~13時)	○具体的な数の性質をもとに数の性質を見だし, その性質が成り立つことを, 文字を使って一般的に説明できることを理解する。 ○3つの連続する整数の和が3の倍数であることを, 文字を使って説明することができる。 ○2けたの自然数についての和の性質を予想し, その予想がいつでも成り立つことを, 文字を使って説明することができる。 ○カレンダーの数の並びについて, 数の和の性質を予想し, その予想がいつでも成り立つことを文字を使って説明することができる。 ○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し, 等式を変形して, ある文字について解くことができる。	③(ノート) ④(ノート)	②(ノート) ②(ノート) ②(ワークシート)	②(ノート) ②(ノート) ②(ワークシート)
3次 (14~15時)	○数学レポート ○単元末テスト	○(テスト)	○(レポート) ○(テスト)	○(レポート)

評価基準		
	B	A
①	1年次の学習をいかし, 同類項をまとめることができることを説明できる。	1年次の学習をいかし, 同類項をまとめることができることを, 図や分配法則を使って説明できる。
②	数の和の性質について, 数を文字式で表し, 根拠をもち説明することが1つできている。	数の和の性質について, 数を文字式で表し, 根拠をもち説明することが2つ以上できている。

A 評価

2年

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



カレンダーの数字をいろいろに囲んでみましょう。
囲んだ数字の和にはどんな性質があるでしょうか。

課題 横に3つの数字を囲むと、どうすればよいのか？

予想1

8の倍数に連続する3つの整数の和は3の倍数になる。

説明

自然数と連続する3つの整数は $x, x+1, x+2$ と表わされる。よって3つの整数の和は $x + (x+1) + (x+2) = 3x+3 = 3(x+1)$ となる。よって8の倍数に連続する3つの整数の和は3の倍数になる。

まとめ

基準を決めて文字で表す。その数字の関係性に注目すること。数字を囲む。

予想2

(時間が余ればもう1つ挑戦) 7の倍数に連続する3つの整数の和は3の倍数になる。

説明

自然数と連続する3つの整数は $x, x+1, x+2$ と表わされる。よって3つの整数の和は $x + (x+1) + (x+2) = 3x+3 = 3(x+1)$ となる。よって7の倍数に連続する3つの整数の和は3の倍数になる。

振り返り

今、自分は3つの数字を囲むことで、次は数字を囲むことで説明したい。

B 評価

2年

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



カレンダーの数字をいろいろに囲んでみましょう。
囲んだ数字の和にはどんな性質があるでしょうか。

課題

予想1

10の倍数に連続する3つの整数の和は5の倍数になる。

説明

自然数と連続する3つの整数は $x, x+1, x+2$ と表わされる。よって3つの整数の和は $x + (x+1) + (x+2) = 3x+3 = 3(x+1)$ となる。よって10の倍数に連続する3つの整数の和は5の倍数になる。

まとめ

基準を決めて文字で表す。その数字の関係性に注目すること。数字を囲む。

予想2

(時間が余ればもう1つ挑戦)

説明

自然数と連続する3つの整数は $x, x+1, x+2$ と表わされる。よって3つの整数の和は $x + (x+1) + (x+2) = 3x+3 = 3(x+1)$ となる。よって10の倍数に連続する3つの整数の和は5の倍数になる。

振り返り

今、自分は3つの数字を囲むことで、次は数字を囲むことで説明したい。

数学科学習指導案

令和6年9月20日(金)5校時

3年C組 39名

指導者 石村 成葉

1 単元名 3章 [2次方程式] 方程式を利用して問題を解決しよう

2 単元設定の理由

(1) 教材について

・第1学年では1次方程式、第2学年では2元1次方程式の連立方程式について学習している。第3学年では、これらの学習の上に立ち、2次方程式の必要性和意味を理解しながら、因数分解や平方根の考え方を利用し1次方程式の解き方に帰着させる。このように、様々な方法で解を求められるようになり、問題を解決するための新しい手段を得ることのできる単元である。

・因数分解や平方根の考え方を利用することで、1次方程式の考え方を関連付けて2次方程式を解く方法を説明することができる。また、様々な解き方がある中で、どの方法で解くことが適切であるかを判断することや、身の回りの事象に2次方程式を利用することで、より簡潔に問題を解決することができるようになる。

・これまで学習した方程式と同様に、具体的な問題解決に利用することで、数学を生活や学習に活かすだけではなく、問題解決を振り返って評価・改善しようとする態度を養うことのできる単元である。特に、2次方程式を立てる時に数量の関係を的確に表せているか、得られた解が問題の答えとして適切であるかについて調べることが大切である。

(2) 学習者について

・計算が得意で、定期考査で知識・技能の観点の正答率が高い学習者が多い傾向にある。また、計算ができるだけではなく、公式などを学習する際に成り立つ理由を理解したいと考えている学習者が多い。

・本学級でアンケートを実施したところ「数学的な表現を用いて、ことがらや理由を説明すること」について、「できる」「どちらかといえばできる」と肯定的に回答した学習者は63%であった。その中には、「基本的な数学用語を理解して使うことができるため」、「文字を用いて証明をすることができるため」といった理由が見られた。一方で、説明の方針を立てることが難しいなどと感じている学習者もいる。また、問題解決を行う中で、求まった解が適切かどうか判断するために振り返ることが苦手である学習者も見受けられる。

・アンケート結果から、自分の考え方にこだわるだけではなく、他者との意見交流を通してよりよい方法を知ることに関心を感じているという回答が見られた。また、ペアや班などの少人数集団だけではなく、クラス全体で自分の意見を交流することに大切さを感じている学習者の割合も昨年度より増えている。

(3) 指導について

・様々な方法で2次方程式を解けるようになることはもちろん、1次方程式や平方根の考えなどといった既習事項と結び付けながら、なぜその方法で2次方程式を解くことができるのか、という理由を大切に授業を行う。そのために、面積図を利用したり、具体的な数と文字式の変形を比較したりしながら指導を行う。

・問題解決の場面において、数を文字でおくこと、数量間の関係から方程式をつくり解くこと、方程式の解が適しているか確かめることなどといった考えの流れを黒板にカードを貼ったり、ワークシートに順番を書いたりすることで視覚的にわかるように表し、自らが順序立てて、見通しをもって問題解決に取り組めるように指導する。その手順を踏むことで、簡潔・的確・明瞭に説明ができるようにする。また、特に活用場面において、方程式を解いて得られた解が条件と照らし合わせて適切であるかどうかを吟味させる場面を設ける。

・自分や他者の記述を見直す機会をもつことで、問題解決を振り返って評価・改善する場面を取り入れる。また、他者との意見交流の活動の時間を取り入れることで、よりよい表現方法に気づき、次に生かそうとする意欲を育てる。

単元プランシート(数学科3年)

実施時期7～9月

単元名	2次方程式	
単元の目標	具体的な場面を通して、 ・2次方程式を解く方法を考察し表現し、またその方法で解くことができる。 ・具体的な問題解決に2次方程式を活用し、解が適切であるかを判断することができる。	
評価 規 準	知・技	① 2次方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解している。 ② 平方の形に変形し2次方程式を解くことができる。 ③ 解の公式の意味を理解し、それを用いて2次方程式を解くことができる。 ④ 因数分解を利用して2次方程式を解くことができる。 ⑤ 事象の中の数量やその関係に着目し、2次方程式をつくることができる。
	思・判・表	① 平方根の考えをもとにして、2次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ② 具体的な問題解決に2次方程式を活用し、解が適切であるかどうかを判断することができる。
	主体	① 2次方程式の必要性和意味を考えようとしている。 ② 2次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 2次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1～2	○2次方程式の意味を理解する。 ○2次方程式の解と解くことの意味を理解する。	①観察 ①観察		
3～9	○平方根の考えを使った解き方で2次方程式を解く。 ○2次方程式の解の公式を導き、それを利用して解く。 ○因数分解の考えを使った解き方で2次方程式を解く。 ○いろいろな2次方程式を解く。	②観察 ③観察ノート ④観察 ②～④小テスト	①ノート	①②振り返りシート
10～14 (本時13)	○道路の幅を求める方法などについて、2次方程式を活用し、解が適切であるかを説明し、判断する。 ○具体的な問題の解決に2次方程式を利用して、解決の過程を振り返って検討する。	⑤ ワークシート	② 観察ノート ② ワークシート	③観察 ③観察
15	単元の振り返り	①～⑤テスト	①②テスト	②③振り返りシート
後日	定期考査	①～⑤テスト	①②テスト	

評価基準(思考・判断・表現について)		
	B	A
①	2次方程式の係数が具体的な数の時、平方根の考えをもとにして、それを解く方法を考察して表現することができる。	2次方程式の係数が文字で表されている時、平方根の考えをもとにして、それを解く方法を考察して解の公式として表現することができる。
②	数量の関係から立てた2次方程式を解き、条件に対して解が適切であるか判断することができる。	数量の関係から立てた2次方程式を解き、条件に対して解が適切であるか判断し、他の場合についても正しく言及することができる。条件を変えて考えたりすることができる。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(13/15)

(2) 題材名 最適なレイアウトを考えよう

(3) 本時のねらい

敷地内に長方形の花壇を設置することについて、適切な花壇の縦横の長さを求めるために2次方程式を活用する活動を通して、求めた解が与えられた条件に対して適しているのかを判断することができる。

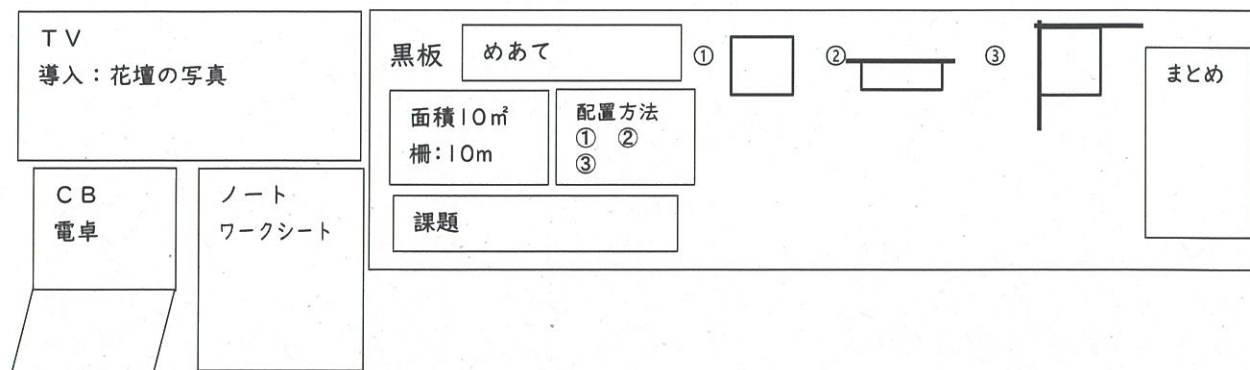
(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1. 敷地内に長方形の花壇を設置することについて共有し、めあてと課題を確認する。	○花壇の画像を見せ、柵の設置方法について、確認する。 (例)・花壇をすべて囲むように柵を置く。 ・1(2)辺は壁、残る3(2)辺は柵で囲む。 ○ワークシートを配付する。 めあて 花だんと柵を設置する場所を考えよう。 ○めあてを確認し、10mの柵で面積10㎡の花壇を設置するために、何がわかれば設置場所が決まるのか確認する。 課題 適切な花だんの縦と横の長さはどのようにすれば求められるか。	
10	2. 個人で設置場所を考え、ワークシートに記述する。	○柵の形・設置場所について考えさせる。 ○形を決め、縦・横の長さを求め、レイアウトを決めさせる。 ○必要に応じて、CB を利用して過去の問題解決の方法について振り返る。	
10	3. 記述をもとに、四人班で花壇の大きさと場所が適切かどうかを吟味する。	○自分の考えの部分で悩んだ部分を班で吟味させる。 ○訂正がある場合、色ペンで書き加えたり、メモ欄に書かせたりする。	
12	4. 自分の意見をまとめる。	○班活動を受けて、自分の考えを整理し、結論の欄に書かせる。	思判表②具体的な問題解決に2次方程式を活用し、解が適切であるかどうかを判断することができる。[ワークシート]
10	5. 全体交流を行う。	○花壇と柵を設置した場所と、なぜその場所が可能だと考えたのか、発表させる。	
	まとめ 3辺を柵にする時、長方形の縦の長さをx、横の長さを$(10-2x)$とおき、$x(10-2x)=10$の方程式を解く。この時、縦$\frac{5+\sqrt{5}}{2}$m、横$(5-\sqrt{5})$mとすると、約3.6mと約2.8mで、条件と照らし合わせて、庭の左側に適切に設置できると判断できる。		
3	6. 振り返りを行う。	○レイアウトを決めるまでの問題解決の流れについて、振り返りを行う。 振り返り 問題解決をする中で、大切だったことや気をつけたいこと。	態⑤問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

(5) 本時の評価基準

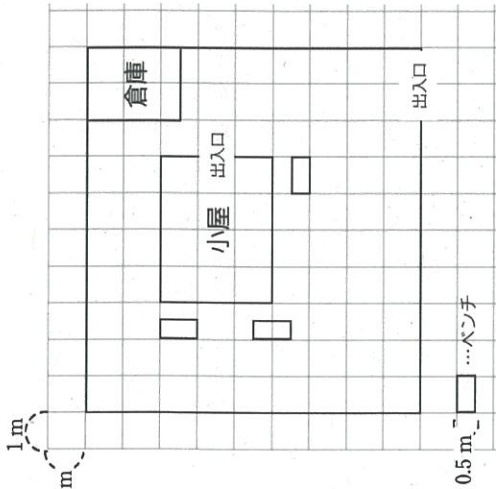
B	A
花壇と柵の設置場所について、2次方程式を解き、条件に対して解が適切であるか判断することができる。	花壇と柵の設置場所について、2次方程式を解き、条件に対して解が適切であるか判断し、他の置き方についても可能かどうか正しく言及することができる。

(6) 学習記録計画



めあて:花だんと柵を設置する場所を考えよう

次の図は、ユミさんの家の庭の平面図である。
庭には小屋と倉庫が1つずつ、ベンチが3つあり、庭の周りはフェンスで区切られている。
ユミさんは長方形の花だんを設置しようと考えていて、花だんの周りに置く柵が10 m 分用意されている。
あなたは、この柵を余りなく使い、花だんの面積が10 m² になるように花だんをレイアウトしてほしいと依頼された。
花だんと柵をどこに設置すればよいだろうか。
ただし、柵は自由に折り曲げられ、縦と横の長さを決められるが、壁(建物やフェンス)に沿って置いてはならないものとする。



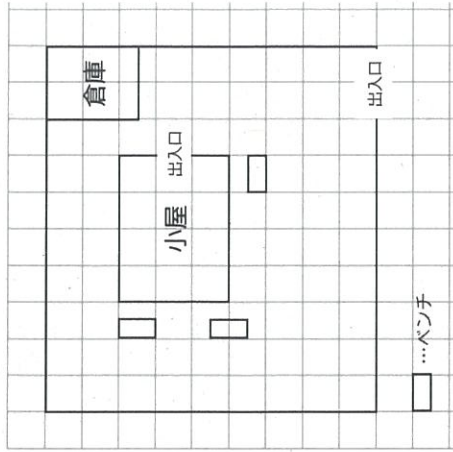
課題:

〈自分の考え・メモ〉

〈班で話したこと・メモ〉

〈提案〉花だんの形や求め方

花だんと柵の設置場所

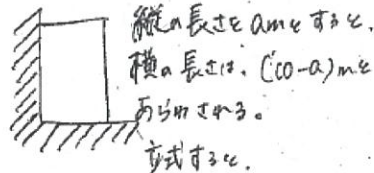


まとめ:

振り返り:

〈B〉花壇と柵の設置場所について、2次方程式を解き、条件に対して解が適切であるか判断することができる。

〈説明〉花だんの形や求め方



$$a(10-a) = 10$$

$$10a - a^2 = 10$$

$$a^2 - 10a + 10 = 0$$

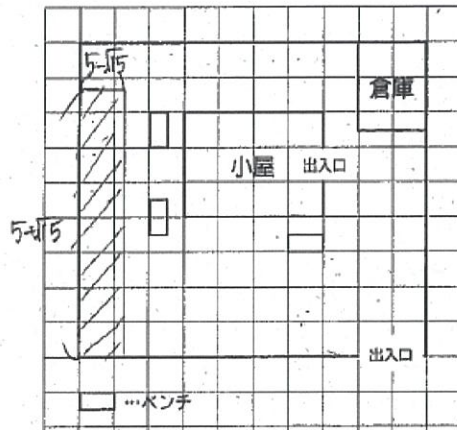
$$(a-5)^2 = 15$$

$$a = 5 \pm \sqrt{15}$$

$a = 5 + \sqrt{15}$ であるとき横の長さは $5 - \sqrt{15}$ となり問題に合えばいいので、縦の長さは $5 + \sqrt{15}$ である。

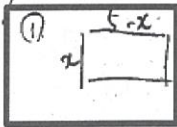
よって、縦の長さは $5 + \sqrt{15}$ m、横の長さは $5 - \sqrt{15}$ m となる。

花だんと柵の設置場所



〈A〉花壇と柵の設置場所について、2次方程式を解き、条件に対して解が適切であるか判断し、他の置き方についても可能かどうか正しく言及することができる。

〈説明〉花だんの形や求め方



7.7 x m とすると、横の長さは $5-x$ m となる。
式を立て、面積 10 m^2 とし、
 $x(5-x) = 10$

$$5x - x^2 = 10$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$5x - x^2 = 10$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

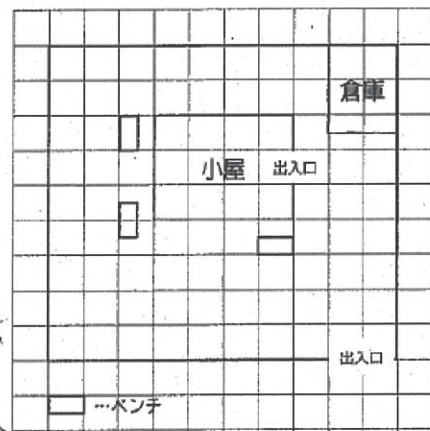
$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

$$x^2 - 5x + 10 = 0$$

花だんと柵の設置場所



複数の方法についての提案を行っている。

単元プランシート(数学科 1年)

実施時期 10, 11月

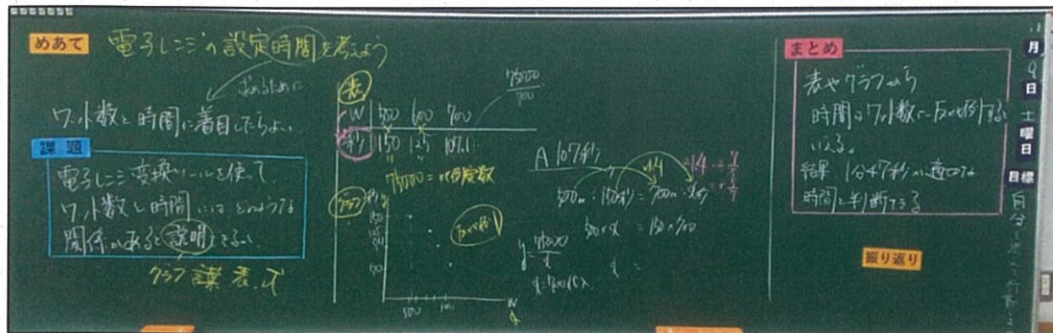
単元名	4章・比例と反比例		
単元の目標	具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例や反比例の関係の理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察することができる。 ○関数関係の意味を理解できる。 ○比例、反比例の意味を理解できる。 ○座標の意味を理解できる。 ○比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解できる。 ○比例・反比例を用いて具体的な事象をとらえ説明できる。		
評価 規 準	知・技	①関数関係の意味を理解している。 ②比例、反比例について理解している。 ③比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。 ④座標の意味を理解している。	
	思・判・表	①比例、反比例として捉えられる二つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 ②比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	
	主体	①比例、反比例のよさに気付いて粘り強く考え、比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。	

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1~4時)	○身のまわりの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ○シュレッダーごみの重さと用紙の枚数が関数関係になっていることに着目し、シュレッダー可能な用紙の枚数を求めることができる。 ○比例及び反比例について、意味を理解し、関係を式に表すことができる。	①(ノート) ①(ノート) ①(ノート) ②(ノート)		①(振り返りシート)
2次 (5~10時)	○xの変域や比例定数を負の数に広げても、比例の性質が成り立つことを理解する。 ○比例について、xの値が増加するときのyの値の変化の特徴を理解する。 ○yがxに比例するとき、1組のx, yの値から、比例の式を求めることができる。 ○座標の意味や点の位置の表し方を理解し、座標を求めたり、座標を平面上で表したりすることができる。 ○比例のグラフがその式をみたす点の集合であることと、比例のグラフの特徴を理解することができる。 ○比例の表、式、グラフを関連づけて理解し、グラフから式を求めることができる。	②(ノート) ③(ノート) ③(ノート) ④(ノート) ③(ノート)	①(ノート)	①(振り返りシート)
3次 (11~15時)	○xの変域や比例定数を負の数に広げても、反比例の性質が成り立つことを理解する。 ○反比例について、xの値が増加するときのyの値の変化の特徴を理解する。 ○yがxに反比例するとき、1組のx, yの値から、反比例の式を求めることができる。 ○反比例のグラフがその式をみたす点の集合であることと、反比例のグラフの特徴を理解することができる。 ○反比例の表、式、グラフを関連づけて理解し、グラフから式を求めることができる。	②(ノート) ③(ノート) ③(ノート) ③(ノート)	①(ノート)	①(振り返りシート)
4次 (16時~20時)	○比例及び反比例のグラフからできる三角形の面積を求めることができる。 ○関数の関係にある数量を見いだし、行列の待ち時間を説明することができる。 ○電子レンジのワット数と時間が反比例の関係にあることを見いだし、ワット数に応じた時間を判断することができる。	③(ワークシート)	②(ワークシート) ②(ワークシート)	①(振り返りシート)
5次 (19時~20時)	○単元末レポート ○単元末テスト	○(テスト)	○(レポート) ○(テスト)	○(レポート)

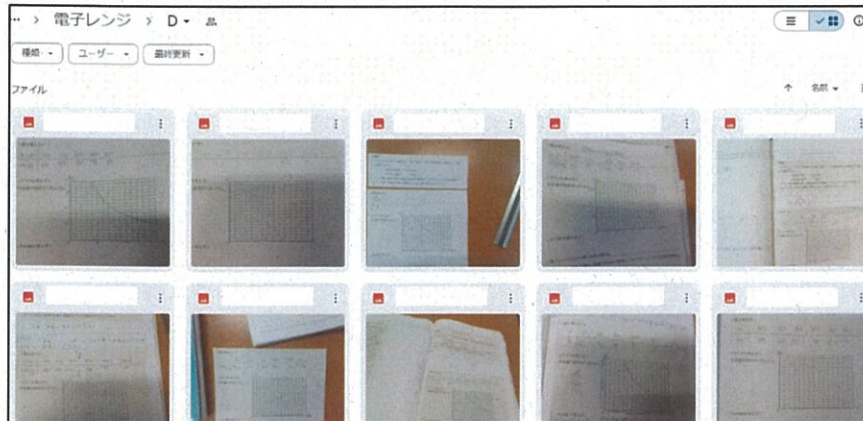
	評価基準	
	B	A
②	電子レンジのワット数と時間が反比例の関係になっていることを表またはグラフのいずれかから見いだし、ワット数に応じた時間を判断することができている。	電子レンジのワット数と時間が反比例の関係になっていることを表とグラフの双方から説明しており、ワット数に応じた時間を判断することができている。

1年数学「比例と反比例」

○課題設定の際、説明をする方法として、グラフ、言葉、表、式を使う必要性があることを生徒と確認

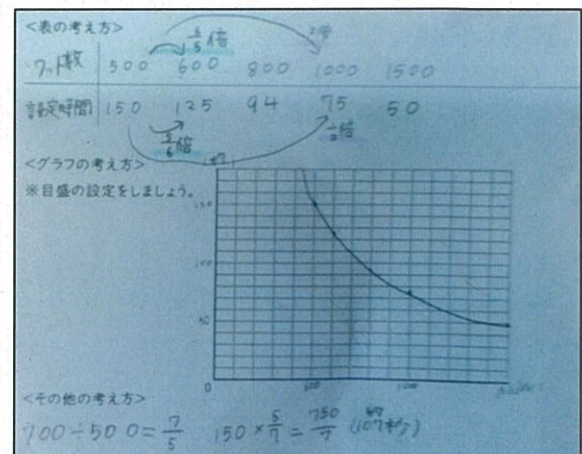
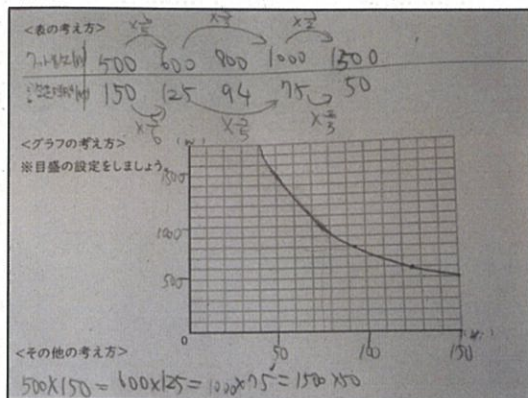


○ノートに貼り付けたワークシートをドライブ上にアップロードすることで、生徒は考えを共有することに、指導者は評価をすることに活用



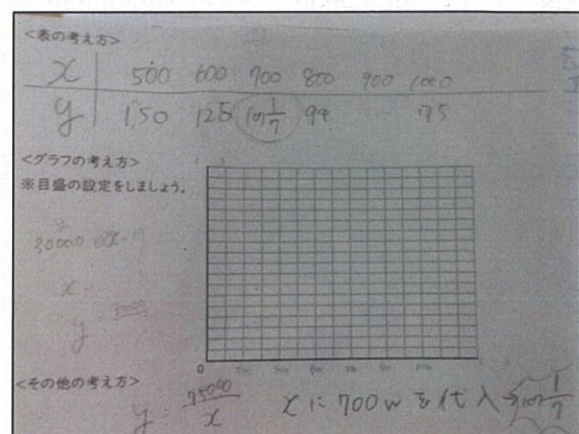
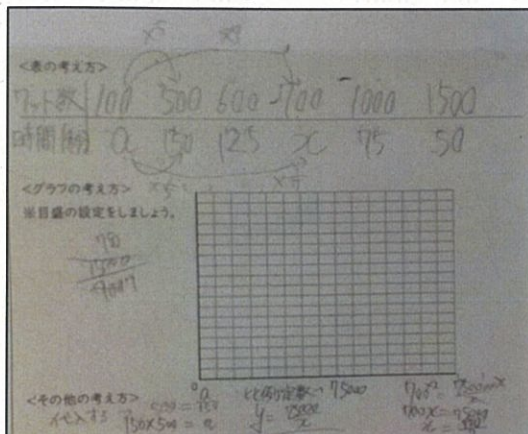
A 評価

電子レンジのワット数と時間が反比例の関係になっていることを表とグラフの双方から説明しており、ワット数に応じた時間を判断することができている。



B 評価

電子レンジのワット数と時間が反比例の関係になっていることを表またはグラフのいずれかから見だし、ワット数に応じた時間を判断することができている。



単元プランシート(数学科 2年)

実施時期 1月

単元名		5章・三角形と四角形
単元の目標		・定義と定理の違いや、証明の必要性和意味及びその方法を理解することができる。 ・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、証明することができる。また正しくないことについて反例をあげて証明することができる。 ・平面図形の性質や図形の合同について学んだことを学習や生活に活かそうとしている。また問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
評価 規 準	知・技	①証明の必要性和意味及びその方法について理解している。 ②定義やことがらの仮定と結論、逆、反例の意味を理解している。 ③直角三角形の合同条件について理解している。 ④正方形、ひし形、長方形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。
	思・判・表	①三角形の合同条件などをもとにして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ②証明を読んで新たな性質を見だし、表現することができる。 ③三角形や平行四辺形の基本的な性質などを活用して具体的な事象を考察し、表現することができる。 ④ことがらが正しくないことを証明するために、反例をあげることができる。
	主体	①証明の必要性和意味及びその方法を考えようとしている。 ②平面図形の性質や図形の合同について学んだことを生活や学習に活かそうとしている。 ③平面図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1~6時)	○二等辺三角形の底角の性質と頂角の二等分線の性質を、定義から証明することができる。 ○ことがらの逆と反例の意味を理解することができる。 ○二等辺三角形になる条件や正三角形になる条件について論理的に確かめることができる。 ○二等辺三角形の性質や二等辺三角形になる条件を利用して、図形の性質を証明することができる。 ○直角三角形の合同条件を、三角形の合同条件をもとに考え説明することができる。 ○直角三角形の合同条件を利用して、図形の性質を証明することができる。	①(ノート) ②(ノート) ③(ノート)	①(ノート) ③(ノート) ③(ノート)	①(行動観察)
2次 (7~13時)	○平行四辺形の定義を利用して平行四辺形の性質を証明することができる。 ○平行四辺形の性質を利用して図形の性質を証明することができる。 ○平行四辺形の性質の逆を証明することを通して、平行四辺形になるための条件を見いだすことができる。 ○平行四辺形になるための条件を利用して図形の性質を証明したり、その証明を振り返って統合的・発展的に考えたりすることができる。 ○長方形、ひし形、正方形の定義やそれらと平行四辺形との相互関係を理解することができる。 ○長方形やひし形の対角線の性質を証明することができる。またその性質の逆が正しくないことを、反例をあげて示すことができる。 ○既習内容を活用して、図形の性質を見だし証明したり、問題の条件を変えて統合的・発展的に変えたりすることすることができる。	③(ノート) ④(ノート)	①(ノート) ②(ノート) ③(ノート) ④(ノート) ③(ノート)	①(行動観察) ②(ノート) ②(ノート) ③(ノート) ③(ノート)
3次 (14時)	○数学レポート課題 ○単元末テスト	○(テスト)	○(レポート) ○(テスト)	○(レポート)

レポート課題評価基準	
B	A
13時に扱った問題の角度や図形を変えた場合について、同じように簡潔・明瞭・的確に証明することができている。	Bの内容に加え自ら問題の角度を変えたり、図形を変えたりして統合的・発展的に考え証明することができている。

単元プランシート(数学科3年)

実施時期12月

単元名		円
単元の目標		具体的な場面を通して、 ・円周角と中心角の関係を見だし、その意味を理解し、証明できることを知る。 ・円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用し、問題解決の過程を振り返り検討しようとする。
評価 規 準	知・技	① 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知っている。 ② 円周角の定理の逆が成り立つことを知っている。
	思・判・表	① 円周角と中心角の関係を見いだすことができる。 ② 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用することができる。
	主体	① 円周角と中心角の関係を見いだそうとしている。 ② 円周角と中心角の関係について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③ 円周角と中心角を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

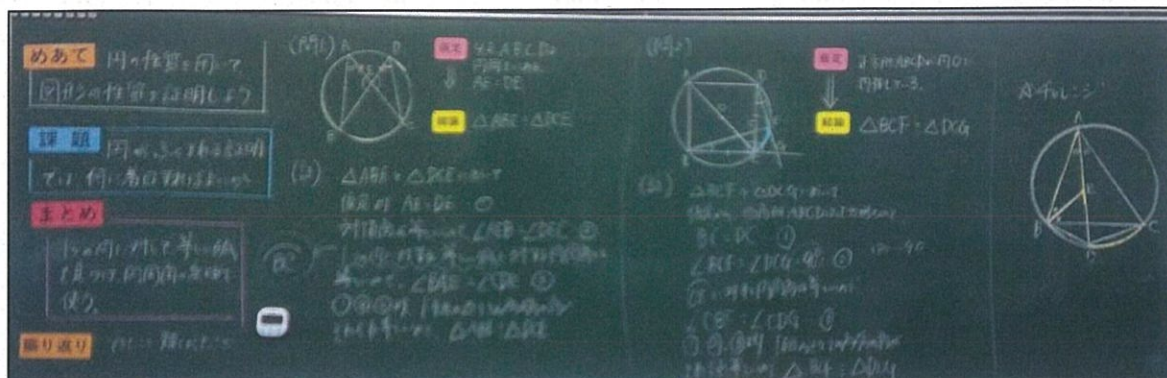
時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1~4	○円周角と中心角の意味を理解し,それらの関係を見だし,それが証明できることを知る。 ○弧と円周角の定理を見だし,それを利用して角の大きさを求める。 ○弧と円周角の定理を利用して,図形の性質を証明する。	①観察		①観察
			①観察	
			②観察 ワークシート	
5,6	○円周角の定理の逆が成り立つことを知る。 ○円周角の定理について振り返る。	②観察		
				②③振り返りシート
7,8	○円周角の定理を利用して,円外の1点からの接線を作図する方法を考える。 ○円周角の定理を利用して,図形の性質を証明する。		②観察	②観察
			②観察 ワークシート	②観察
9	単元の振り返り	①②テスト	①②テスト	②③振り返りシート

評価基準(思考・判断・表現について)		
	B	A
①	円周角と中心角の関係を,具体的な数値から帰納的に見いだすことができる。	円周角と中心角の関係を,文字式を用いて演繹的に証明することができる。
②	・円周角の定理を利用して,条件を満たす作図をすることができる。 ・弧や円周角,中心角などの関係を利用して,必要な図形を見つけ,図形の性質の証明の見通しを立てることができる。	・円周角の定理を利用して,条件を満たす作図を複数することができる。 ・弧や円周角,中心角などの関係を利用して,必要な図形を見つけ,図形の性質を簡潔・明瞭・的確に証明することができる。

3 年数学「円」

めあて「円の性質を用いて、図形の性質を証明しよう」(4/9)

【図1:板書】



(問1)について、仮定と結論を全体で共有し、前単元「相似な図形」と同様に、相手に伝わる証明を完成させることを確認した。個人思考の時間のあとには、足りていない言葉はないかなど、(※)班で共有する時間を取り、色ペンなどで書き加えさせた。(問2)についても仮定と結論を共有することなど、同じ流れで行った。また、最後に「チャレンジ問題」として二等辺三角形を見いだす問題に取り組ませ、授業終了後にはワークシートを集め、形成的評価の材料とした。

【図2:下線部(※)の例:④の記述が必要ないと気が付き、アドバイスをもとにメモをとっている生徒】

(問1) 右の図で、4点A, B, C, Dは円周上の点で、点Eは線分AC, BDの交点である。AE=DEのとき、 $\triangle ABE \equiv \triangle DCE$ であることを証明しなさい。

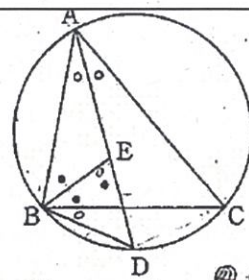
(証明) $\triangle ABE$ と $\triangle DCE$ において、
 仮定から
 $AE = DE$ ① に対角
 ② に対角 等しい弧 $\widehat{AB}$ と $\widehat{DC}$ の円周角の大きさは等しいので、
 $\angle BAE = \angle CDE$ ②
 対頂角は等しいので
 $\angle AEB = \angle DEC$ ③
 ①②③より
 $180 - (\angle ABE + \angle AEB) = 180 - (\angle DCE + \angle DEC)$
 $\angle BAE = \angle CDE$ ④
 ④②③より、1組の辺とその両端の角がそれぞれ等しいので $\triangle ABE \equiv \triangle DCE$

【図3-1:②評価基準 B の例(弧や円周角、中心角などの関係を利用して、必要な図形を見つけ、図形の性質の証明の見通しを立てることができる。)】

★:チャレンジ:右の図で、3点A, B, Cは円周上の点で、点Dは $\angle BAC$ の二等分線と円周の交点のうち、点A以外の点である。
 また、点Eは $\angle ABC$ の二等分線と線分ADとの交点である。
 このとき、 $DB = DE$ であることを示せ。

$\widehat{DC}$ に対する円周角は等しいので、 $\angle DAC = \angle DBC$ ①よって $\angle DBE = \dots$ ①
 $\triangle ABE$ に対する外角は $\angle BED = \dots$ ②
 ①②より、 $\angle DBE = \angle BED$ となるので、 $\triangle DBE$ は二等辺三角形になるので、
 $DB = DE$

★: チャレンジ: 右の図で, 3点A, B, Cは円周上の点で, 点Dは $\angle BAC$ の二等分線と円周の交点のうち, 点A以外の点である。
また, 点Eは $\angle ABC$ の二等分線と線分ADとの交点である。
このとき, $DB=DE$ であることを示せ。



④より $DB=DE$

仮定より、

$$\angle BAD = \angle CAD \dots \textcircled{1}$$

$$\angle ABE = \angle QBE \dots (2)$$

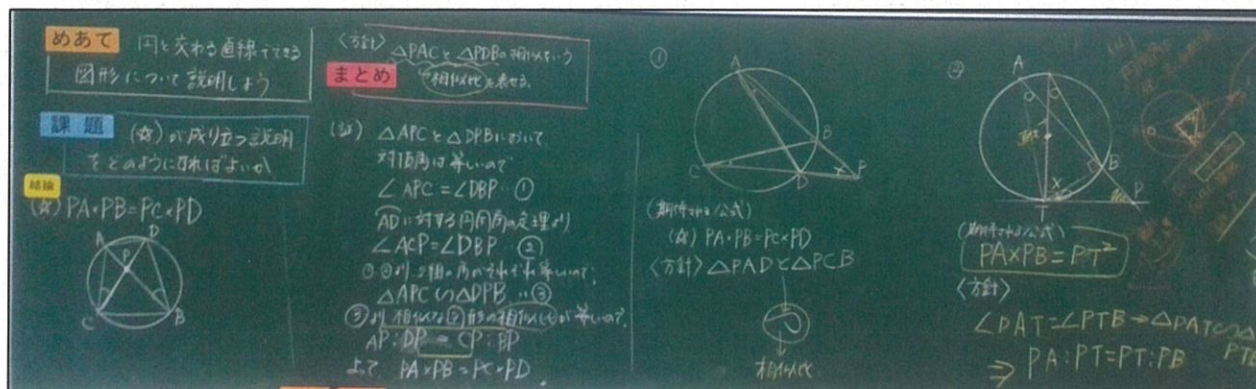
(一) におお 等円弧に挟むる円周角は等しいので

$$\angle FBD = \angle DBC + \angle CBE \quad \angle RAD = \angle CAD = \angle DBC \quad \text{③}$$

$$\angle PBC = \angle CAD$$

$\triangle ABE$ の外角+297. (2)(3)より、 $\triangle ABE$ の2つの角が等しいので、 $\triangle DBE$ は二等辺三角形である。(4)

【圖1：板書】



ケンさんがカズさんにある問題の質問をしている。

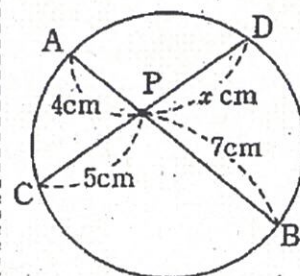
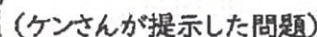
ケンさん: この問題の x の値を求めたいんだ。どうすればいいかな。

カズさん: 知ってるよ。これは、 $PA \times PB = PC \times PD \dots (\star)$ っていう、公式が使えるんだよ!

だから、 $4 \times 7 = 5 \times x$ の方程式を解けばいいんだ。

ケンさん: そうだったんだ。でも、なんで2つの数のかけ算をして同じ値になるんだろう。

カズさん：ええっと…。(困ったなあ。どう説明しよう…。)



68

【図3:下線部(※)の例:「円周角の定理が等しい」ことを書き加えている生徒】

<方針> 円周角の定理が等しい
 ・ $\widehat{AC}$ の弧より $\angle ADP = \angle CBP$
 ・ $\widehat{DB}$ の弧より $\angle DAP = \angle BCP$

<証明>
 $\triangle ADP$ と $\triangle CBP$ において
 $\widehat{AC}$ の弧より $\angle ADP = \angle CBP$... ①
 $\widehat{DB}$ の弧より $\angle DAP = \angle BCP$... ②
 ①②より、2組の角はそれぞれ等しいので
 $\triangle ADP$ の $\triangle CBP$ 相似な図形な対応する辺の比は

まとめ: 相似な図形を見つける (相似比を使うため)

$PA:PD = PC:PB$
 $= PA \times PB = PD \times PC$

【図4-1:②評価基準 B の例(弧や円周角, 中心角などの関係を利用して, 必要な図形を見つけ, 図形の性質の証明の見通しを立てることができる。)】

① $\triangle ADP$ と $\triangle CBP$
 $\widehat{BD}$
 $\angle BAD =$
 $\angle DCB$
 P を通.
 2組の角
 $\triangle ADP$ の $\triangle CBP$
 相似な図形な対応する辺の比は等しい

【図4-2:②評価基準 A の例(弧や円周角, 中心角などの関係を利用して, 必要な図形を見つけ, 図形の性質を簡潔・明瞭・的確に証明することができる。)】

① ★方針①
 $\triangle PAD$ と $\triangle PCB$ において
 $\angle PAD = \angle PCB$ (弧に対する円周角) ... ①
 共通の角なので $\angle APD = \angle CPB$... ②
 ①②より、2組の角がそれぞれ等しいので
 $\triangle PAD$ の $\triangle PCB$
 相似な図形な対応する辺の比は等しいので
 $PA:PC = PD:PB$ によって
 $PA \times PB = PC \times PD$ が成り立つ

単元末テスト

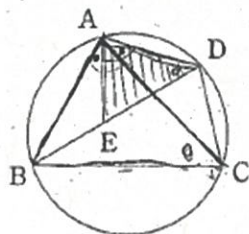
(8/9)の授業のように、相似な三角形の相似比を用いる問題の発展として、以下の問題を単元末テストとして出題した。

【図：テストでの解答例(上：相似条件がないため△の例、下：○の例)】

12 図のように、円Oの周上に4点A, B, C, D

をとる。また、点Eは $\angle BAE = \angle CAD$ となる点である。

このとき、 $BC \times AD = ED \times AC$ となることを証明しなさい。



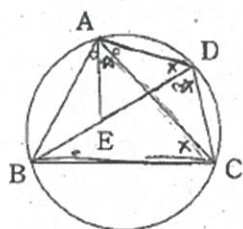
12 (思考・判断・表現:4点)

$\triangle ABC$ と $\triangle AED$ において
 $\angle ACB = \angle ADE$... ①
 仮定より $\angle BAE = \angle CAD$
 $\angle CAB = \angle CAE + \angle BAE$
 $\angle DAE = \angle CAE + \angle CAD$
 よって $\angle CAB = \angle DAE$... ②
 ①②より $\triangle ABC \sim \triangle AED$
 相似な図形の対応する辺の
 比はそれぞれ等しいので
 $BC \times AD = ED \times AC$

12 図のように、円Oの周上に4点A, B, C, D

をとる。また、点Eは $\angle BAE = \angle CAD$ となる点である。

このとき、 $BC \times AD = ED \times AC$ となることを証明しなさい。



12 (思考・判断・表現:4点)

$\triangle ABC$ と $\triangle AED$ において、
 同じ弧ABに対する円周角は等しく、
 $\angle ACB = \angle ADB$... ①
 仮定より $\angle BAE = \angle CAD$
 よって $\angle BAE + \angle EAC = \angle CAD + \angle EAC$
 よって $\angle BAC = \angle EAD$... ②
 ①、②より、2組の角がそれぞれ
 等しく、 $\triangle ABC \sim \triangle AED$
 相似な図形の対応する辺の長さ
 の比は等しいので、
 $BC \times AD = ED \times AC$

数学科学習指導案

令和6年2月12日(水)第6校時

1年D組35名

指導者 高木 博也

1 単元名 7章 データの分析と活用 (東京書籍)【D データの活用】

2 単元設定の理由

(1)教材について

- ・小学校第5学年では測定値の平均について、第6学年では平均値、中央値、最頻値などの代表値を用いたり、ドットプロットなどを用いたりして統計的に考察したり表現したりすることについて学習している。中学校第1学年では、これらの学習の上に立って、ヒストグラムや相対度数などの必要性や意味を理解したり、コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理したりする。さらに、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を学習する。
- ・目的に応じてデータを収集して分析したり、そのデータの分布を読み取ったりする活動を通して、物事を多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすといった批判的に考察し判断することができるよう学習する。また、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり表現する。
- ・PPDACサイクル(P問題の把握、設定、Pデータの想定、収集の計画、Dデータの収集、表への整理、Aグラフの作成、特徴や傾向の把握、C結論付け、振り返り)を遂行することで、ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考え、データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え、考えようとしたりすることができる単元である。

(2)学習者について

- ・小学校で学習した「データの特徴の調べ方」についてのレディネステストでは、階級や度数の読み取りについての正答率が概ね68%、最頻値や中央値など代表値を求める問題についての正答率が概ね60%であった。中学校の学習内容では、図形の知識や計算の技能について得意とする学習者が多く、テストの正答率も高い傾向にある。一方で、計算や図形の仕組みが成り立つ根拠を問うと説明できない学習者が多い。
- ・アンケートにて「説明をすることは得意か」質問したところ、42%の生徒が「苦手意識がある」と回答した。苦手意識がある理由としては、目的に応じて図や式などを用いて数学的に表現することへの困りが挙げられていた。一方で、簡潔に、明瞭に、的確に説明することは、相手に伝わりやすい説明をする上で大切だと考えている生徒が多い。
- ・「どんな場面でデータが活用されているか」質問をしたところ、ニュース番組での説明資料や毎日の気温、野球の打率など、日常の生活の中でデータが活用されていることを実感している生徒が多い。活用場面に実感できていない生徒は、代表値を求める問題の正答率も低いため、データを用いて物事を分析したことが、生活の中でどのようにいかされているか実感できていないと考えられる。

(3)指導について

- ・データを処理する上で、なぜその処理を行う必要があるのか、その処理を行うことにどのようなよさがあるか明確にした上で知識の習得を行う。また、ICT端末を効果的に活用することで、試行錯誤をしながら、どのようにデータを処理すると求めたい資料を得られるか考える場を設定する。
- ・データに基づいて問題を解決する過程において、データの収集の仕方は適切か、どの代表値が根拠としてふさわしいか考える場を設定する。そして、分布の形から何が言えるか、傾向を読み取りやすいグラフで表せているか、グラフの目盛りなどを加工して過度に誇張していないか、分析した結果から得られる結論が妥当かなど、吟味する時間を設定する。また、分析したことを根拠として示すことができるようワークシートを工夫する。
- ・考えを表現し伝え合うなどの学習活動を大切に、見通しを持たせたり、活動の過程を振り返らせたりすることで、よさを評価し合ったり、疑問点や調べてみたいことを共有する機会を確保する。また、スポーツ、ロコミなど、身の回りの事象として取り組みやすい題材を用い、問題に対する考えを持つことで、データを分析することが課題の改善や、物事の判断につながることを実感させたい。

単元プランシート(数学科 1年)

実施時期 2月

単元名		7章・データの分析と活用
単元の目標		目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読みとることができる。 ○ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解できる。 ○ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを説明することができる。
評価 規 準	知・技	①ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解している。 ②コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ③多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解している。
	思・判・表	①データの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。 ②多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読みとり表現することができる。 ③目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し判断することができる。
	主体	①ヒストグラムや相対度数などのよさに気付いて粘り強く考え、データの分布について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え、考えようとしたりしている。 ②多数の観察や多数回の試行によって得られる確率のよさに気付いて粘り強く考え、不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1~5時)	○現在のチームの1500m走の記録が、優勝時のチームの記録と比べて遅くなったかどうかを調べる方法について話し合う。 ○両チームの記録を度数分布表やヒストグラム、度数折れ線に表し、分布の特徴を読み取る。 ○両チームの記録の相対度数や累積相対度数を求め、折れ線に表し、2つの分布を比較する。 ○両チームの記録の代表値や範囲を求め、それぞれの値から読み取れるチームの特徴を分析する。 ○現在のチームの1500m走の記録が、優勝時のチームの記録と比べて遅くなったかどうかについて、表やグラフ、代表値を用いて判断し、説明する。	①ノート ①ノート ①ノート ②スライド		①振り返りシート
2次 (6時)	○オススメするお店を判断する根拠について、平均値の他にグラフや表、代表値の結果も含める必要性を説明する		①ワークシート	①振り返りシート
3次 (7~9時)	○A社とB社のどちらのほうがクジラと出会いやすいかを、出航回数と出会った回数のデータを用いて考え、説明する。 ○画鋸を投げる実験を多数回行った結果を整理し、上向きになる相対度数がどのように変化するかを調べる。 ○新入生向けに各サイズの上履きを何足仕入れておけば良いかを、過去3年分のデータをもとに考え、説明する。	③ノート ③ノート	②ノート	②振り返りシート
4次 (10時~11時)	○単元末レポート ○単元末テスト	○(テスト)	③(レポート) ○(テスト)	○(レポート)

	評価基準(思考・判断・表現について)	
	B	A
①	次の項目のいずれかを用いて、理由を説明できている。 ・平均値の他にもA店の方が優れている点 ・B店の方が優れている値やグラフ、表がある点 ・評価の時期を区切り、値やグラフを比較している点	次の項目を複数用いて、理由を説明できている。 ・平均値の他にもA店の方が優れている点 ・B店の方が優れている値やグラフ、表がある点 ・評価の時期を区切り、値やグラフを比較している点
②	相対度数をもとにして購入数を決定した考えを説明している。	購入数を決定するために現実的な状況を加味した考えを説明している。
③	PPDACサイクルを遂行する中で、収集したデータからどちらの都市が暑いか、複数の視点で分析し、考えを説明している。	PPDACサイクルを遂行する中で、収集したデータからどちらの都市が暑いか、複数の視点で分析し、分析結果を複数反映させて、考えを説明している。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (6 / 11)

(2) 題材 オススメのお店を紹介しよう

(3) 本時のねらい オススメするお店を判断する根拠について、評価の点数をグラフ、表、値で表し、点数を分析する活動を通して、批判的に考え、説明することができる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
7	1 本時のめあてと学習内容を確認する。	○スライドで場面を設定し、本時のめあてを確認させる。 めあて「オススメのお店を紹介しよう」 ○オススメするために何を調べるか確認させる。 例・評価の点数・口コミ・金額・雰囲気 など ○評価の点数をもとに2店舗に絞り、どちらを選ぶか考えさせる。 ・平均値の高さだけで、A店を選ぶことは根拠としてよいか考える。	
30	2 課題を設定し、考えをまとめる。	○課題を設定する。 課題「平均値だけでオススメとして判断してよいだろうか」 ○学習の方針を考えさせる。 ・課題解決のために、何を分析する必要があるか考えさせる。 ・値からデータの特徴を、表やグラフからデータの傾向を分析し、その結果を判断した理由に含めることを確認する。 ○学習の流れを確認させる。 ＜学習の流れ＞ ①評価のデータを配信、ワークシートを配布する。 ②ワークシートに分析したことをまとめる。 ※SGRAPAを活用してデータを処理する。 ③ワークシートに課題に対しての自分の考えをまとめる。 ○考えをまとめる。 ・個人で、ワークシートに分析結果と考えをまとめる。 ・グループで分析結果と考えを共有し、データを分析する視点に誤りがないか、分析結果をふまえた考えになっているか、確認をさせる。 (分析結果例) ・中央値は、A店が 3.6、B店が 3.5 で、各店の真ん中の評価はA店の方が高いことがわかる。 ・最頻値は、A店が 3.5、B店が 3.6 で、B店の方が高い評価の点を多くとっていることがわかる。 ・度数分布表は、A店が 2.5 以上 5.0 未満の範囲で、B店が 3.0 以上 5.5 未満の範囲で推移しており、B店の方が高い点数で推移していることがわかる。 最大値、最小値ともにB店の方が高い。 ・ヒストグラムでは、A店が中央に寄るグラフに、B店が左に寄るグラフになっていることがわかる。 ・2020 年以降のデータで平均値を比較すると、A店が 3.75、B店が 3.58 でA店の方が高いことがわかる。 ○考えを共有する。 ・生徒に分析結果を説明させる。 ・共有した分析結果をもとに、課題に対しての自分の考えの見直しをさせる。 ・平均値だけでオススメと判断してよいか、全体で確認をし、まとめる。	データの分布の傾向を読みとり、批判的に考察し、説明することができる。(ワークシート)

8	3 結論をまとめ、どちらのお店をオススメするか考える。	○結論をまとめる。 まとめ(例) ・中央値やヒストグラムの寄り方からもA店の方が ・最頻値や最大値, 最小値ではB店の方が ・新旧のデータに分け, 値を比較すると平均値以外の視点でもオススメ理由として適しているため, 平均値だけではなく, 代表値やヒストグラム, 度数分布表を含めて判断するとよい。 ○どちらのお店をオススメするか考えさせる。 ・分析結果をもとに, どちらのお店をオススメするか説明させる。	
5	4 本時の振り返りをする。	○本時の振り返りをさせる。 ・評価の点数を, 数学を活用して分析することのよさや, 本時でわかったこと, 大切だと思ったこと, 疑問に思ったことを振り返りシートに記入させる。	ヒストグラムや相対度数などを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようしたり, 多面的に捉え, 考えようしたりしている。 (振り返りシート)

本時の評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
次の項目のいずれかを用いて, 判断理由を説明できている。 ・平均値の他にもA店の方が優れている点 ・B店の方が優れている値やグラフ, 表がある点 ・評価の時期を区切り, 値やグラフを比較している点	次の項目を複数用いて, 判断理由を説明できている。 ・平均値の他にもA店の方が優れている点 ・B店の方が優れている値やグラフ, 表がある点 ・評価の時期を区切り, 値やグラフを比較している点

(5) 学習記録計画

めあて オススメのお店を紹介しよう 平均点 A店 3.62 > B店 3.56 課題 平均値だけでオススメと判断してよいだろうか 方針 中央値, 最頻値を表す …データの特徴を分析 度数分布表, ヒストグラムに整理する …データの傾向を分析	○中央値 … A店 3.6点 B店 3.5点 ○最頻値 … A店 3.5点 B店 3.6点 ○度数分布表 A店 2.5以上5.0未満の範囲 B店 3.0以上5.5未満の範囲 最大値, 最小値ともにB店の方が高い ○ヒストグラム A店 中央に寄るグラフ B店 左に寄るグラフ	まとめ(例) ・中央値やヒストグラムの寄り方からもA店の方が ・最頻値や最大値, 最小値ではB店の方が ・新旧のデータに分け, 値を比較すると平均値以外の視点でも オススメ理由として適しているため, 平均値だけではなく, 代表値やヒストグラム, 度数分布表を含めて判断するとよい。 振り返り ・評価の点数を, 数学を活用して分析することのよさ ・わかったこと ・大切だと思ったこと ・疑問に思ったこと
---	--	--

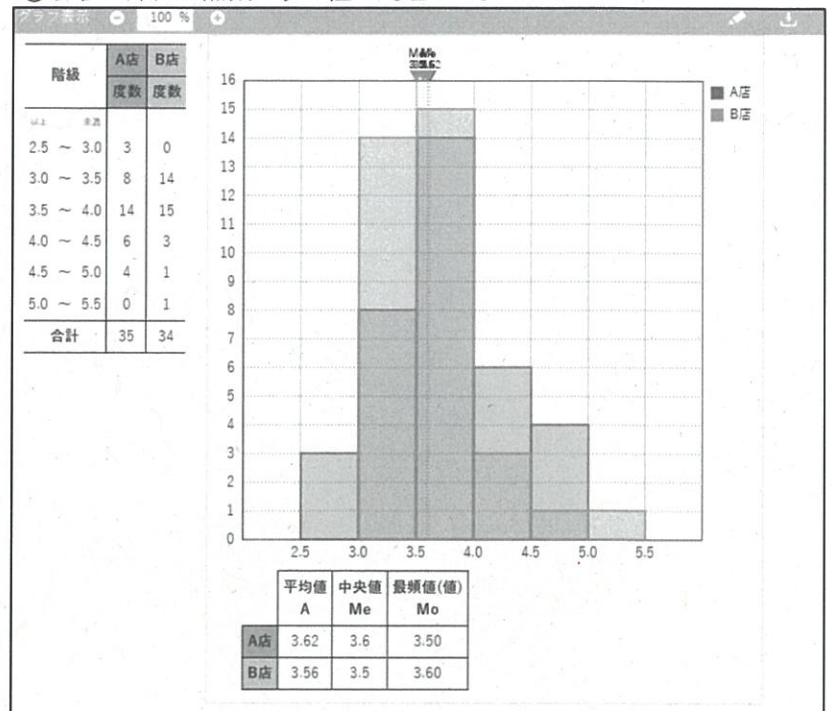
TV データの提示	CB 配信されたデータ	ノート 自分の考え 共有したこと
-------------------------	---------------------------	------------------------------------

(6) 使用するデータについて

① 各店の評価の点数

A店		B店	
2023/11	3.6	2023/09	3.3
2022/08	4.1	2024/09	3.9
2017/09	4.5	2022/03	3.4
2023/05	3.5	2016/10	3.8
2022/10	3.2	2024/05	4.0
2023/04	4.0	2022/10	4.0
2023/04	3.1	2021/02	4.5
2018/04	3.5	2020/02	3.3
2017/09	4.0	2018/11	3.6
2016/09	3.5	2018/03	3.7
2023/04	4.6	2022/11	3.2
2022/11	3.6	2018/10	3.6
2022/05	4.0	2024/05	3.8
2021/03	2.9	2018/08	3.2
2020/01	4.5	2017/12	3.1
2017/08	3.3	2018/11	3.8
2017/08	3.4	2018/05	3.3
2017/06	2.7	2018/05	4.0
2022/05	4.1	2016/03	3.9
2021/10	3.6	2024/05	3.1
2017/06	3.5	2023/05	3.6
2023/08	4.1	2016/02	3.0
2017/06	3.2	2015/10	3.5
2023/07	3.8	2023/03	3.1
2022/05	4.5	2015/06	3.6
2023/06	3.7	2024/10	5.0
2017/06	3.7	2015/05	3.4
2023/06	3.2	2022/12	3.6
2023/04	3.3	2015/05	3.5
2022/12	3.8	2019/07	3.0
2022/04	3.8	2017/07	3.4
2017/07	3.0	2016/12	3.0
2019/07	2.5	2022/05	3.5
2018/09	3.5	2019/11	3.5
2016/08	3.5		

② 各店の評価の点数を表や値に処理したもの



授業改善のイメージ（理 科）

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価

方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

「生命」を柱とする領域

設定理由

「生命」を柱とする領域では、「生命に関わる自然の事物・現象に進んで関わり、自然を科学的に探求する活動を行い、科学的に探求しようとする態度を養うとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育て、自然を総合的にみることができるようにする」というねらいがある。「生命」領域における特徴的な共通性・多様性の視点に注目させながら、各学年の系統性を意識した思考力・判断力・表現力等の育成をすることにより、理科における学習は授業の中で完結するのではなく、身のまわりの自然と密接な関わりがあることを実感させ、自然環境の保全に関わろうとする態度を育むことを目的としてこの課題を設定した。

授業改善の方針

（１）学習活動

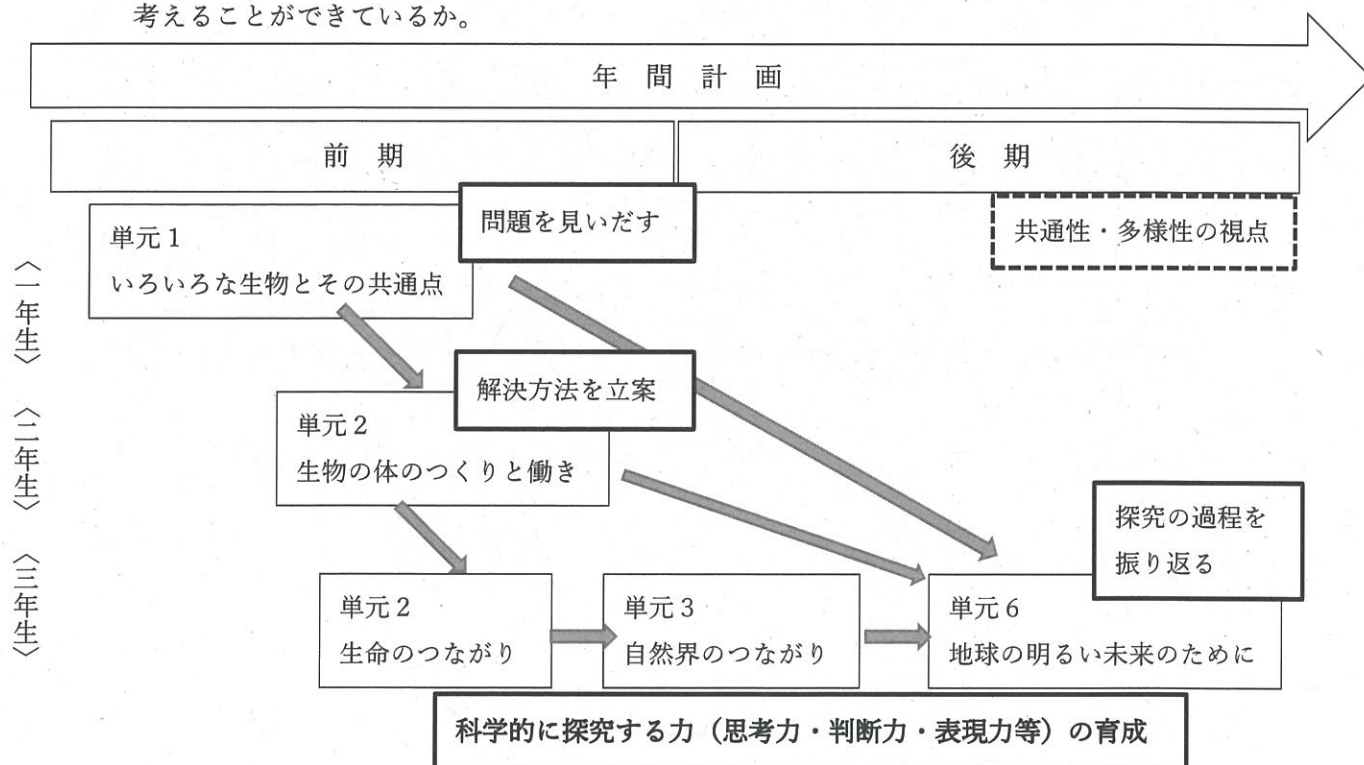
- ・生命の尊さや身近な環境とのかかわりを感じることができる単元計画を作成する。「生命」を柱とする領域では再現や実験が困難な現象を扱うことがあるため、ICT や資料、モデルを活用することで理解につなげる。

（２）評価方法

- ・振り返りシートへの記述をもとに、授業改善や生徒へのフィードバックを行う。（形成的評価）
- ・ノート、ワークシートへの記述を写真に撮り、ドライブ上に提出することで評価を行う。（総括的評価）

（３）評価基準の設定（例）

- ・【B】 観察・実験などを行い、結果を分析して解釈することができているか。
- ・【A】 観察・実験などを行い、結果を分析して解釈することで、生命尊重や自然環境の保全と関連付けて考えることができているか。



前期の成果

(1) 学習活動

- ・地域の松の葉を用いるなど、身近な環境とのかかわりを感じることができる教材を用いて単元計画を作成することができた。
- ・生物の観察では、再現性を高めることが難しかったが、ICTの活用や再現できない原因について検討するなどして、理科と環境とのかかわりを考えることができた。

(2) 評価方法

- ・振り返りシートに書かれた記述内容や疑問について、コメントをすることや授業中に扱うことによって、生徒へのフィードバックを行うことができた。
- ・ノート、ワークシートへの記述を写真に撮り、ドライブ上に提出することで評価を行うことができた。

(3) 評価基準の設定

- ・基準の設定は難しかったが、設定することでその基準の妥当性を検討するなど、評価に関する理解を深めることができた。

前期の課題

(1) 学習活動

- ・試料採集が難しいことや、内容によっては採取するタイミングが限定されるなど、生物分野の観察の難しさを感じた。また、予想した傾向が出ず、教材研究をさらに進めなければならないということが分かった。可能であれば専門的な外部機関との連携など、効率的に研究を進めていくことが望ましい。

(2) 評価方法

- ・振り返りシートの内容について、時間的、物理的な余裕がなく十分に検討することができなかつたため、授業改善につなげられたのかと問われると疑問が残る。

(3) 評価基準の設定

- ・単元計画をもとに評価を設定したり、教科部会を通じて評価基準を共有したりして、学習評価に関する理解を深めていく必要がある。

後期の成果

(1) 学習活動

- ・学習した内容をもとに、実際に起きた社会問題や日常とのかかわりを授業の題材として設定することができた。
 - ・学習内容に即した教材教具を用い、実験観察を通して生徒に気づきがある場面設定を行うとともに、再現の難しい現象やイメージをつかませる場面において効果的にICTを活用することができた。
- (2年…関節のつくり、心臓・肺のモデルなど、3年…遺伝の規則性、水俣病の発生原因探究)

(2) 評価方法(前期と同様)

- ・振り返りシートに書かれた記述内容や疑問について、コメントをすることや授業中に扱うことによって、生徒へのフィードバックを行うことができた。
- ・ノート、ワークシートへの記述を写真に撮り、ドライブ上に提出することで評価を行うことができた。

(3) 評価基準の設定

- ・次年度の学年や高等学校の学習指導要領とのつながりを考えながら、評価基準A・Bの設定を試みることができた。

後期の課題

(1) 学習活動

- ・大学や専門的な外部機関との連携を取ることで、より専門的・効率的に研究を進めていく必要がある。
- ・研究テーマを「生物領域」で設定したため、学年によっては後期に検証ができなかった。

(2) 評価方法

- ・生徒が納得する評価につなげることや、教員が評価を丁寧に行うことができるために、形成的評価と総括的評価の場面設定をより明確に示す必要がある。

(3) 評価基準の設定

- ・評価基準は客観的な指標が必要であるため、評価に関連する語句の個数など、数値で設定することが多くあったが、基準設定の妥当性については今後も検討していく必要がある。

来年度に向けて

評価基準 A・B の設定について、校内の授業研究や事後研究会での指導・助言、教科部会等を通して理解を深めることができた。今年度の研究を活かし、より客観的な基準を設定し、生徒が納得できる評価につなげたい。また、研究テーマの設定については、どの領域でも共通するテーマを設定する必要がある。

引用参考文献

作成者：矢野 雄大（やの ゆうだい）・永富 健太郎（ながとみ けんたろう）

理科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

3年A組 40名

指導者 永富 健太郎

1 単元名 地球の明るい未来のために 1章 自然環境と人間

2 単元設定の理由

(1) 教材について

・小学校では第6学年で「生物と環境」について学習している。中学校では、第1学年で「生物の体の共通点と相違点」、第2学年で「生物の体のつくりと働き」について学習している。身近な自然環境を調べる活動を行い、その観察結果や資料、これまでに学んだ知識・技能を基に、人間の活動などの様々な要因が自然界のつり合いに影響を与えていることについて理解させ、自然環境を保全することの重要性を認識させる単元である。

・本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、自然環境を調べる観察、実験などを行い、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間との関わり方について認識を深めさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいである。自然環境の保全について、話し合いやレポート作成などを行い、様々な情報や考えを基に多面的、総合的に捉えさせ、科学的に考察して判断させたい。

・生物が生きていく上で、他の生物や環境との関わりを考えることは必要不可欠である。これまでも人間の様々な活動が自然界のつり合いや気候変動などの要因となっていると考えられている。身近な生物の観察からも自然環境との関わりを見つけることができることに気づき、自然環境の時間的な変化や空間的な広がりにも注目させるとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うようにしたい。

(2) 学習者について

・本学級の学習者は、授業に意欲的に取り組むことができ、班やペアでの活動では積極的な発言ができています。一方で、実験や観察の際には、手順を十分に理解せずに進める様子や、苦手としている学習者は実験や観察の様子を見ながら授業が進むなどの様子が見られる。

・事前アンケートでは、「生物分野の学習が好き」と答えた学習者は87.9%であった。「動物が好き」のように生き物への興味を理由として答えた学習者が多かった一方で、苦手・得意ともに「暗記である」と答えた学習者が多く、生物分野は暗記科目であると捉えている学習者が多い。そのため、学習内容を基に考えを深めることや、日常生活や社会と関連付けて考えることに課題があると考えられる。

・理科を学習する上で、実験や観察などの体験活動に楽しさを感じている学習者が多い。理科の学習において日常生活との関わりを感じる場面を設定することで、理科を学ぶ意義を感じることができている学習者が多い。

(3) 指導について

・ペアや班での活動を行うことで、互いの考えを交流する場を設定して学習内容の理解を深めさせる。観察の際には班の中での役割を明確にすることで、それぞれが責任をもって活動に取り組むことができるようにする。またICT端末を活用することで、実験の様子を視覚化して捉えることができるようにする。

・生物分野において、共通性・多様性に注目して観察結果を捉えさせ、多面的・総合的に考察をさせたい。そのためにはICT端末を活用することで、実験結果を丁寧に比較し・分析をさせる。実験結果を比較して分析をすることで、その結果が何によってもたらされているのかの要因を考察させ、考えを深めさせる。ICT端末の活用により、個人で考える場面や班や全体での共有をより効果的に行うことで、理解を深めるよう指導を行う。

・義務教育9年間の生物分野の学習のまとめとして、これまでに学習してきたことが日常生活との関わりがあり、これからの社会とつながっていることを感じさせたい。そのためにも校内にも生息する身近な植物である「マツ」を観察させ、他の地点との比較をすることで普段生活する学校の環境について考えさせる。普段何気なく見ている植物も自然環境の影響を受けていることを実感させ、人間の活動が他の生物や環境に与える影響を考え、生命の尊重や自然環境の保全に寄与する態度を養うようにしたい。

単元プランシート (理科 3年)

実施時期 9月

単元名	地球の明るい未来のために 1章 自然環境と人間	
単元の目標	身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識する。 地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間の関わり方について認識する。	
評価 規 準	知・技	日常生活や社会と関連付けながら、自然界のつり合い、自然環境の調査と環境保全、地域の自然災害についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
	思・判・表	生物と環境について、身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、科学的に考察して判断しているなど、科学的に探究している。
	主体	生物と環境に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1～3 (本時3)	○身近な自然環境について調べ、人間の様々な活動が自然環境に影響を与えていることを認識する。 【調査：マツの葉の気孔の観察】 地点1：附属中 2：田ノ浦 3：久住 4：松原緑地	● 観察		
		● 観察		
			○ ノート	● 振り返りシート
4	○人間の活動と自然環境との関わりを認識することで、自然環境を保全することの重要性を認識する。			● 振り返りシート
5～6	○身近な地域の自然環境について調べ、自然がもたらす恵みと災害などを多面的、総合的に捉えて、自然と人間の関わり方について考察する。	● レポート		
				○ レポート
後日	定期考査	○	○	

評価基準 (思考・判断・表現について)	
B	A
身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、生物と環境との関わりについて複数のデータを比較したり既習事項と関連付けたりすることで、科学的に考察して判断している。	身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、生物と環境との関わりについて複数のデータを比較したり既習事項と関連付けたりすることで、科学的に考察して判断するとともに、探究の過程を振り返ることで考察の妥当性について検討することができている。

様式3 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ (3/6)
 (2) 題材 大分の空気はきれいなのか
 (3) 本時のねらい

交通量等の周囲の環境がマツの葉に与える影響について、マツの葉の気孔の観察を行い、気孔の様子と採取した地点の環境を関連付けて考える活動を通して、人間の様々な活動と自然環境への影響との関わりを考察して判断することができる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価										
7	1 前時の学習内容とめあてを確認する。	○自然環境には様々な要素（水質・空気・土壌など）があり、成分や生息する生き物を調べることで身近な環境について調査できることを確認する。											
		めあて：身近な自然環境について考えよう。											
		課題：人間は自然環境にどのような影響を及ぼしているのだろうか。											
		○前時で予想をした、「4つの地点（①附属中 ②田ノ浦 ③久住 ④松原緑地）のうち、どの地点の環境がきれいなのか」について、予想と検証方法について確認を行う。 ○本時ではマツの気孔を観察することで、「空気のきれいさ」に注目することを確認させる。											
15	2 調査方法を確認し、観察を行う。	○4つの地点（①附属中 ②田ノ浦 ③久住 ④松原緑地）で採取したマツの葉の気孔を、班で分担して観察を行う。 ○顕微鏡（倍率：100倍）で観察を行い、観察した気孔の総数に対する黒く汚れている気孔の割合を求める。 ○顕微鏡の接眼レンズにペットボトルキャップをつけ、CBで撮影して記録させる。											
10	3 観察結果を比較し、考察を行う。	○観察結果をスプレッドシートに記入する。観察結果を基に、班で考察を行い、ホワイトボードにまとめる。 ○考察をする際には、各地点の結果を比較し、周囲の環境（交通量など）と関連付けて考えさせる。											
		<table><tr><td>地点</td><td>① 附属中</td><td>② 田ノ浦</td><td>③ 久住</td><td>④ 松原緑地</td></tr><tr><td>汚れている割合</td><td>%</td><td>%</td><td>%</td><td>%</td></tr></table> 〈予想される考察〉 - 田ノ浦や松原緑地のマツと比べると、黒く汚れている気孔の割合が少ないため、附属中学校の空気はきれいだといえる。 - 久住のマツと同程度の割合の気孔が黒く汚れているため、久住と附属中学校の空気はきれいであると考えられる。	地点	① 附属中	② 田ノ浦	③ 久住	④ 松原緑地	汚れている割合	%	%	%	%	
地点	① 附属中	② 田ノ浦	③ 久住	④ 松原緑地									
汚れている割合	%	%	%	%									

10	4 全体で考察を共有し、共有した内容を基に個人で考察を行う。	○数班分の考察を発表させる。 ○マツの葉の気孔の観察結果からは、交通量（空気中のすす）と生物との関わりを考えることができることを確認させる。 ○環境について考えるためには、より多様な生物や環境との関わりについて調べる必要があることを確認させる。 ○班での考察や全体共有の内容を基に、考察を行う。	○（思考・判断・表現）観察結果を基に、身近な自然環境と生物との関わりについて記述している。 【ノート】
5	5 まとめを行う。	○全体でまとめを行う。	
	まとめ マツの葉の気孔は排気ガスなどの影響を受けて汚れていることから、人間の活動が植物などの身近な生物にも影響を及ぼしている。		
3	6 振り返りを行う。	○身近な自然環境と生物との関わりについて、観察結果を基に振り返りを行わせる。 ○振り返りは3つの視点の③の視点で記述させる。 ① 学習のプロセスや成果を振り返る。 ② これまでの経験や学習と関連付ける。 ③ 次回の学びへつなげる。	●（主体的に学習に取り組む態度）観察結果を基に、日常生活や社会と関連付けて考えている。【学習の記録】

（5）本時の評価基準

B	A
マツの葉の気孔の観察を行い、異なる場所における自然環境の特徴を調べ、結果を比較したり関連付けたりすることで科学的に考察して判断している。	マツの葉の気孔の観察を行い、異なる場所における自然環境の特徴を調べ、結果を科学的に考察して判断するとともに、探究の過程を振り返ることで考察の妥当性について検討することができている。

（6）学習記録計画

めあて：身近な自然環境について考えよう。

課題：人間は自然環境にどのような影響を及ぼしているのだろうか

【結果・考察】

各班の考察
(ホワイトボード)

まとめ

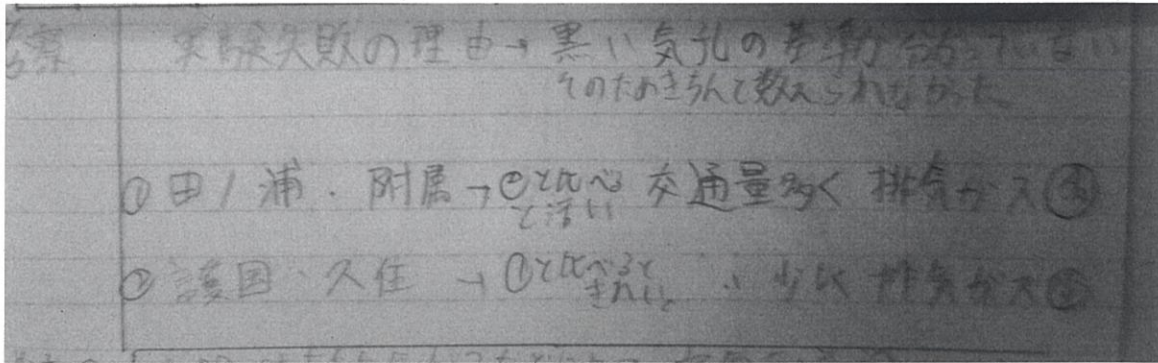
マツの葉の気孔は排気ガスなどの影響を受けて汚れていることから、人間の活動が植物などの身近な生物の生育にも影響を及ぼしている。

理科ノート, CB

TV

マツの葉の観察方法の説明用スライド

[評価基準 A]

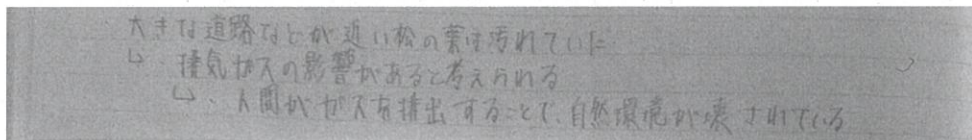


実験失敗の理由→黒い気孔の基準が分かっていない。そのため、きちんと数えられなかった。

①田ノ浦・附属→②と比べると汚い。交通量が多く、排気ガスが多い。

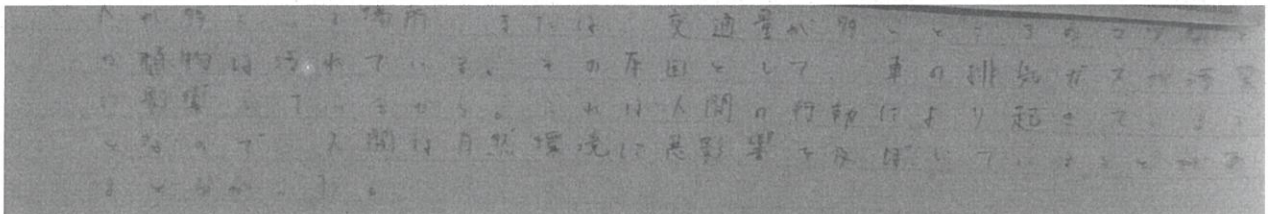
②護国神社・久住→①と比べるときれい。交通量が少なく、排気ガスが少ない。

[評価基準 B]



大きな道路などが近いマツの葉は汚れていた。

→排気ガスの影響があると考えられる。→人間がガスを排出することで、自然環境が壊されている。



人が多くいる場所、または交通量が多いところのマツなどの植物は汚れている。その原因として、車の排気ガスが汚染に影響しているから。これは人間の行動により起きていることなので、人間は自然環境に悪影響を及ぼしていることがあとで分かった。

単元プランシート (理科 1年)

実施時期 4～7月

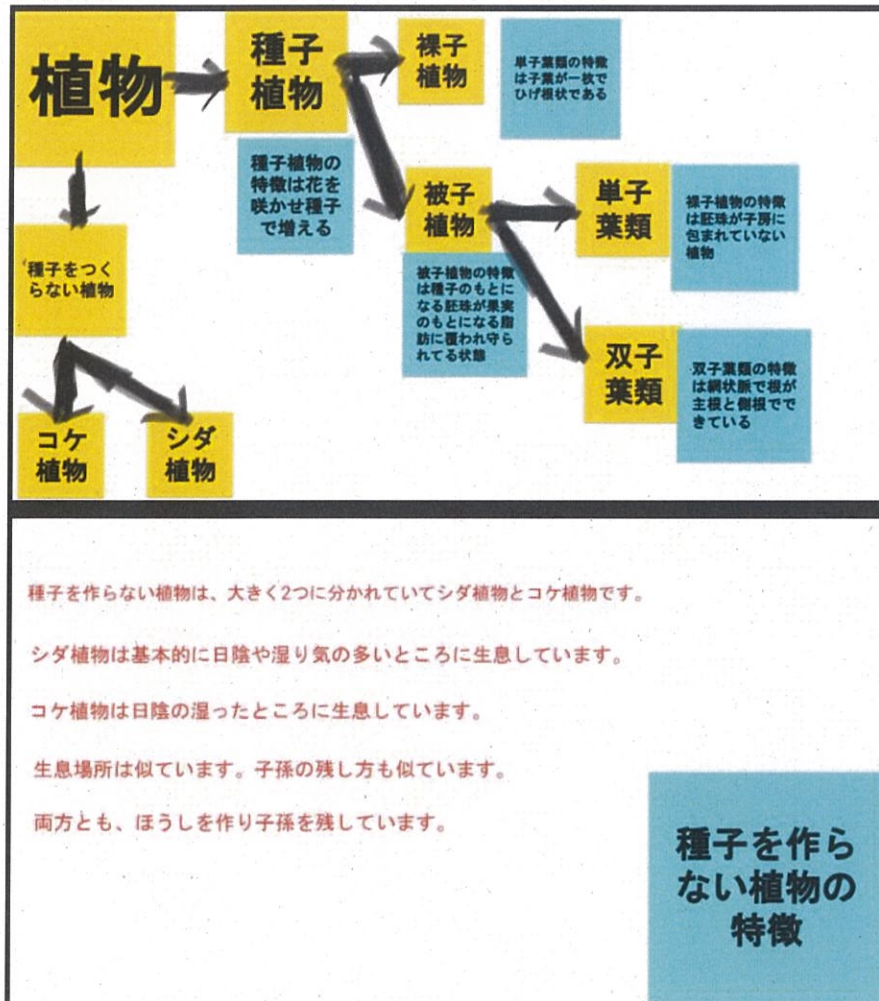
単元名		単元1 生物の世界 2章 植物のなかま
単元の目標		身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解することができる。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解することができる。
評価 規 準	知・技	いろいろな植物の共通点と相違点に着目しながら、植物の観察と分類の仕方、植物の体の共通点と相違点を理解していると同時に、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
	思・判・表	身近な植物についての観察、実験などを通して、いろいろな植物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現している。
	主体	いろいろな植物とその共通点に関する事象・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	花の基本的なつくりについて理解し、知識を身に付ける。	● ノート		
2	身近な花や、葉や根のつくりの共通点や相違点を見出し、植物の基本的なつくりを理解し、知識を身に付ける。	● ノート		
3	被子植物と裸子植物の特徴を理解し、その知識を身に付ける。	● ノート		
4	葉脈や根の様子を芽生えの様子と関連付けて科学的に探究する。			○ 学習の記録
5	シダ植物について、多くの共通点や相違点を適切に示し、植物を分類するための知識を身に付ける。	● ワークシート		
6	コケ植物について、多くの共通点や相違点を適切に示し、植物を分類するための知識を身に付ける。	● ワークシート		
7	植物を分類していく過程で、例えば花卉の数や葉の形状などが、同じなかまの分類の観点となることなどを見いだし表現する。		○ ワークシート	○ 学習の記録
8	これまでに学習してきた植物について、どの植物も例外なく分類できる図や表を主体的に作成しようと、様々な観点で試行錯誤している。		○ レポート	
後日	定期考査	○	○	

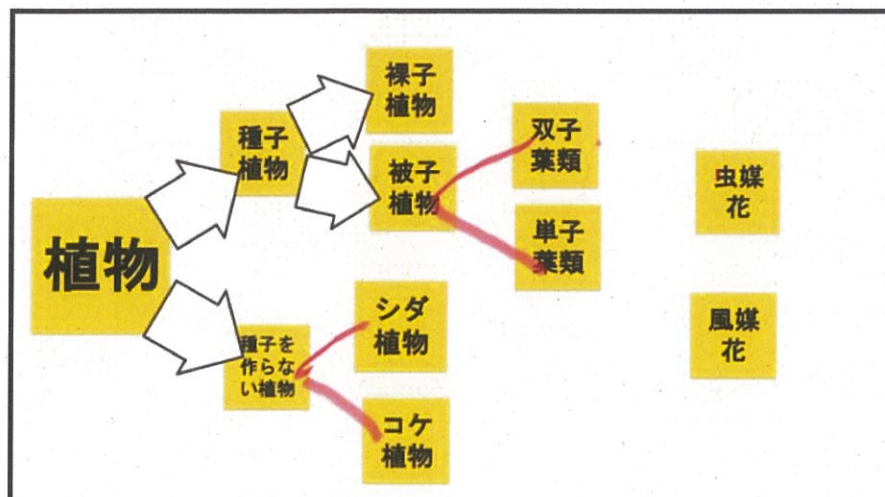
評価基準 (思考・判断・表現について)

B	A
身近な植物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現している。	身近な植物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、植物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現している。

A 評価の例



B 評価の例



単元プランシート (理科 3年)

実施時期 10月

単元名	単元3 自然界のつながり	
単元の目標	身近な自然環境を調べる観察、実験などを行い、科学的に考察して、自然界のつり合いについて理解する。 自然界のつり合いに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。	
評価 規 準	知・技	日常生活や社会と関連付けながら、生物と環境との関係について理解するとともに、微生物の働きなどを調べる観察、実験などに関する技能を身に付けている。
	思・判・表	身近な自然界のつながりを調べる観察、実験などを行い、自然環境について、科学的に考察して判断している。
	主体	自然と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1～2	自然界での、生物同士の食べる・食べられるという関係や消費者・生産者などの知識を理解する。	●観察		
3	土の中の小動物の観察を行い、土の中にも食物連鎖とそのつり合いが存在することに興味をもつ。			○ 学習の記録
4	食べる・食べられるという関係と生物の数量の関係から、自然界では生物がつり合いを保って生活していることを見いだす。		● ワークシート	
5～6	土の中の微生物が養分に対してどのようなはたらきをするかを調べ、分解者の働きについて理解する。	●観察	● ワークシート	
7	自然界での物質の循環と生物の生活との関係を見いだす。		●	
8	自然界での物質の循環や生物同士の食べる・食べられるの関係をもとに、水俣病の発生原因を考察し、表現する。		○ ワークシート	○ 学習の記録
後日	定期考査	○	○	

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
水俣病の発生原因について、自然界での物質の循環や生物の食べる・食べられるの関係をもとに、科学的に考察して表現している。	水俣病の発生原因について、自然界での物質の循環や生物の食べる・食べられるの関係をもとに、科学的に考察するとともに、原因物質の特徴や性質などと関連付けて表現している。

生徒の記述内容

【A評価】

塩化ビニルやアセトアルデヒドの製造過程でメチル水銀が副生された

→システインというアミノ酸と結合したメチル水銀を必須アミノ酸であるメチオニンと間違えて、脳の入り口や胎盤を通過させてしまう。

→生物濃縮で人体に影響が出た。

【B評価】

川、海に流れ込んだメチル水銀が魚の体内に入り、そこから食物連鎖で人間や他の動物たちにも広がっていったから。

単元プランシート (理科 2年)

実施時期 10～11月

単元名		単元2 生物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき
単元の目標		消化や呼吸についての観察、実験などを行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察、実験の結果などに関連付けて理解すること。また、不要となった物質を排出する仕組みがあることについて理解すること。動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現すること。
評価 規 準	知・技	動物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、動物と細胞、動物の体のつくりと働きを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
	思・判・表	動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現している。
	主体	動物の体のつくりと働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	消化についての実験を行い、動物の体には必要な物質を取り入れる仕組みがあることを実験の結果と関連付けてとらえる。		● ノート	
2	肺による呼吸運動を、横隔膜やろっ骨を動かす筋肉の働きと関連付けてとらえる。		● ノート	
3	血液の循環についての観察を行い、動物の体にはいろいろな物質を運搬する仕組みがあることを血液の成分と関連付けて理解する。	● ノート		○ 学習の記録
4	動物の体には不要な物質を排出する仕組みがあることを、腎臓や肝臓などの働きと関連付けて理解する。	● ノート		
5	動物が外界の刺激に反応していることに気付き、関係する器官や神経のつくりと働きを関連付けて理解する。	○ ノート		
6	魚の体のつくりについて観察を行い、ヒトの体との比較から、魚にも生命を維持するつくりや働きがあることを理解する。また、動物と植物のつくりと働きをまとめて、共通点や相違点をとらえる。		○ ワークシート	
7	イカの観察を通して、無脊椎動物の特徴を知り、ヒトの体との共通点や相違点を調べ、生きるための仕組みが備わっていることを理解する。	○ ワークシート		
後日	定期考査	○	○	

評価基準 (思考・判断・表現について)	
B	A
動物の体のつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現している。	動物の体のつくりとはたらきについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、動物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現している。

A 評価の例

生物の体のつくりと はたらきをまとめよう。	① 植物と動物の共通点があるのは、共通の祖先が いるからで、ではなぜ相違点が多いのかという 環境の変化、多様性によって、変わっている 点ということもわかってほしい。
----------------------------------	---

B 評価の例

生物の体のつくりと はたらきを調べる。	2 2年生になって、体の器官や細胞の 学習をしてきた。動物も植物も祖先 は同じであるということが分かった。
--------------------------------	--

授業改善のイメージ（英語科）

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

「読む活動」と「話す・書く活動」の技能統合による生徒の発信力の向上

設定理由

本校英語科の授業において、これまで「話す」技能の「やり取り」や「発表」の2領域に焦点化し指導を行ってきた。インプットしたことをアウトプットすることの面白さややりがいを感じる生徒は多くいるが、根拠を持って自分の考えを話したり書いたりすることができるようになるためには、基盤となる資料からアウトプットに必要な情報を適切に読み取る必要がある。

生徒の学びをより深めるためには、生徒自身が自己表現したいと思うような心を動かされる読み物教材の工夫が必要であると考え。また令和5年に実施された大分県学力状況調査の結果によると、「読む」ことの中でも、まとまりのある文章から要点を把握するとともに、その内容に基づいて考えを述べるなど、適切に応じることに全体的に課題があるとされている。

授業改善の方針

(0) 知識・技能の習得

英文を聞いたり読んだりすることを通して、ターゲットとなる言語材料の意味や働きを理解する場を設定する。
またターゲットとなる言語材料を用いた英文を発話したり書いたりすることを通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に合う表現の方法を習得する場を設定する。

(1) 学習活動

具体的なコミュニケーションを行う目的や場面、状況に合うように、どのような内容をどのように表現していくか思考し、教科書本文や関連した読み物教材の表現を適切に選択し工夫ながら、自分の考えと共に表現する。

(2) 評価方法

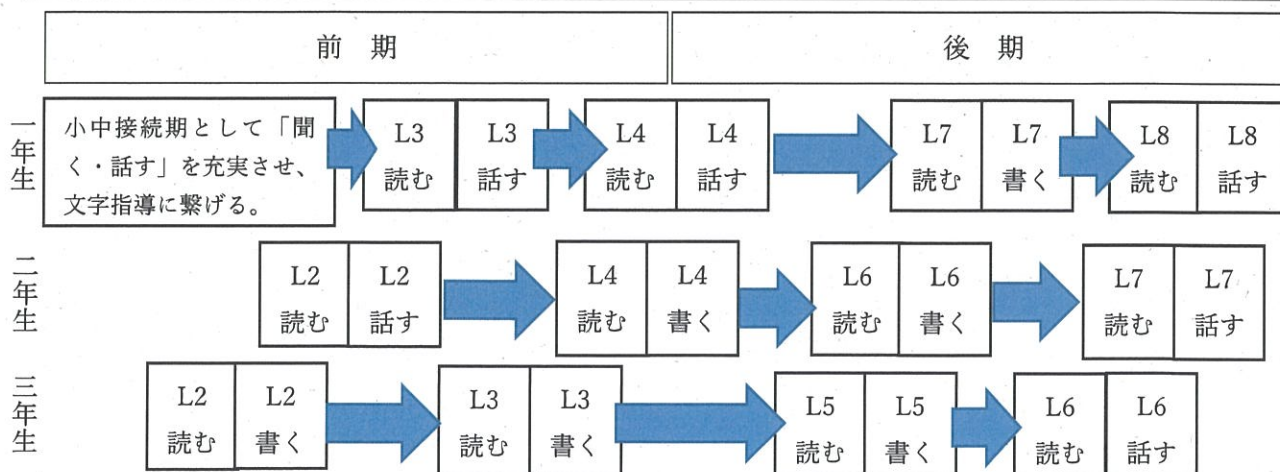
ワークシート、エッセイ、スピーチ原稿などの記述内容やインタビューでのやり取り（発話）の内容によって学習者の学習状況を見取る。

(3) 評価基準の設定（例）

コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、

- ・スピーチ原稿やインタビュー記事を読んで、その人の意見のポイントを読み取っている。
- ・自分の考えや気持ちを整理して、おすすめの〇〇についてまとまりのある紹介文を書いている。

年 間 計 画



前期の成果

- (1) 生徒のつきたい力を明確にし単元プランを設定、単元ゴールを生徒と共有したことで、生徒の学習意欲をより高めることができた。
- (2) 単元終末の表現活動に入る前に、学習内容に関連した総括的な読み物教材を用いることで、生徒の関心を引きつけ、生徒の表現に深みが出た。
- (3) これまで教科書内の Read の読み物教材だけでは、生徒が自分事として捉えにくく、表現の幅が広がりにくかった。そのため、リアリティーのある読み物教材、生徒の実態に見合う生徒が引き受けやすい内容の読み物教材をオリジナルで作ることができた。

前期の課題

(1) 「読む」目的の明確化

言語習得という英語科の教科の特性上、毎授業内で技能統合（インプットとアウトプットのセット）の場面が必ず存在する。今年度は特に「読む」から「話す・書く」活動への繋がりに焦点化し研究を行ったが、「話す・書く」意図を生徒の中により深く落とし込むために、読むことの目的をより明確にする必要がある。

(例) ・手紙を書いた相手に返事を送るために読む

・書き手の要望や知りたいこと(質問)に答えるために読む

(2) 技能統合の授業での「読む」活動の位置づけと評価基準の設定について

「読むこと」の思考力・判断力・表現力をどのように評価するか議論する必要がある。形成的評価に留めるのか、総括的評価として行うのかなど先行研究を収集し研究を深めたい。また、「読むこと」には、ア「日常的な話題について必要な情報を読み取ることができる」、イ「日常的な話題について概要を捉えることができる」、ウ「社会的な話題について要点を捉えることができる。」の3つの目標が存在する。どの目標を達成させたいかを念頭に置き指導計画を立てるが、特に「思考力・判断力・表現力」を見取るための評価基準 B(A)の設定方法をより吟味したい。

(例) ウ「社会的な話題について要点を捉えることができる」

・複数の情報の中から、書き手が最も伝えたい事柄が何であるか判断して捉えている(B)

後期の成果

- (1) 前期の課題でもあった何を目的に読ませるかという点では、「話す・書く」の発信活動に繋がるような目的を設定することができた。
- (2) 前期では、技能統合の際に「読む」ことをどのように見取るかということについて、教科内での議論が不十分であった。後期は「読む」ことを形成的評価とし、「思考力・判断力・表現力」を見取る評価基準を設定した。

後期の課題

(1) 「話す・書く」活動における評価基準の設定(B/A)

「思考力・判断力・表現力」の評価基準について、どのような設定の方法が適切か、特に A 評価の設定をどのようにするとよいかをさらに議論していく必要がある。

(2) 知識・技能の習得の強化

表現力を下支えする知識と技能の習得をより強化させることが必要である。パタンプラクティスのような機械的ドリルに加え、ある程度場面の設定されたドリルから双方向の意見交流が可能となるドリルなどあらゆる方法を模索したい。

(3) リフリーズの習慣化

学習者が表現の仕方に困りを持った際に、すぐに調べさせるのではなく、今持てる表現力でどのように言い換えて伝えることができるか考える習慣をつけさせたい。個人だけでなく、班内や学級内でリフリーズの仕方を共有するような場面を工夫したい。

来年度の研究について(方針)

来年度は、上述したような後期に見えた課題に重点的に取り組んでいく。また「読む」活動にこだわらず、「聞く」活動からも「話す・書く」活動へと繋がられるような単元構想を行い授業改善していきたい。自分自身を語り、相手意識を持った双方向のコミュニケーションが図れる学習者を育成できるように、今後も教科内で研究を深めていく。

引用参考文献

国立教育政策研究所(2020)「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

国立教育政策研究所(2023)令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書

石井英真 上村慎五(2023)ヤマ場をおさえる 単元設計と評価課題・評価問題 中学校英語

作成者: 佐々木 寿恵(ささき ひさえ) 中村 希美(なかむら のぞみ) 白根 和延(しらね かずのぶ)

単元プランシート(英語科2年)

実施時期6月

単元名	Lesson2 My Dream 附属中スピーチコンテスト ～10年後にやってみたいことやなりたいものについてマチュー先生に伝えよう!～	
単元の目標	ALT のマチュー先生やクラスメートが発表者の10年後を想像しやすいように、学級スピーチコンテストで将来の自分の夢を発表する活動を通して、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	
評価 規 準	知・技	①to 不定詞(名詞用法、副詞用法、形容詞用法)を含む文の仕組みを理解している。 ②to 不定詞(名詞用法、副詞用法、形容詞用法)を含む文を用いて話す技能を身に付けている。
	思・判・表	学級スピーチコンテストで、マチュー先生やクラスメートが10年後を想像しやすいように、将来の夢について自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話している。
	主体	学級スピーチコンテストで、マチュー先生やクラスメートが10年後を想像しやすいように、将来の夢について自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	・単元ゴールを知り、自己目標を設定する。 ・JTE の夢について聞き、10年後の自分について考える。 ・この夏にしたいことについて即興で紹介する。		●	●
2	・登場人物の職場体験プログラムに関する対話文の理解を通して、to 不定詞(名詞用法)を含む文の意味や特徴を知る。	①		
3	・学校に来る目的や英語を勉強する目的について即興で伝え合う。 ・ある事柄について、意味のまとまりがある文を作り、「～する○○」を詳しく伝え合う。		●	●
4	・ある職業人の話の内容理解を通して、to 不定詞(副詞用法、形容詞用法)を含む文の意味や特徴を知る。	①		
5	・登場人物の夢について書かれたスピーチを読んで、農家になりたいと考える3つの理由を簡単にまとめる。		●	●
6 7	・自分の10年後に挑戦したいことやなりたいものについてまとまりのある文章を書く。 ・発音や声量、目線に気をつけて発表練習する。		●	●
8	・マチュー先生のビデオレターから、マチュー先生の将来の夢について聞き、先生へ質問したいことを考える。 ・スピーチコンテスト本番を想定し、予想される質問に対する自分の答えを準備する。		●	●
9 10	・スピーチコンテストで10年後に挑戦したいことやなりたいものについて発表する。	②	○	○
11	・単元末テスト	①		

評価基準	
B	A
10年後に挑戦したいことややりたいものについて、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話している。	Bに加えて、理由に具体的な体験談を盛り込むなどして、より詳しく話している。

<B 評価例 スピーチ原稿>

My speech script

Opening
あいさつ
将来の夢

hello, everyone. I am going to tell you about my dream. My dream is to be a doctor. First, my mother is a doctor and I admire her. I thought my mother is very cool!

Body
理由
きっかけ
経験談
エピソード

Second, I want to help people in need and I want to do a rewarding job.

Closing
総論・要約
ひとこと

I want to be a doctor for this reason.

<A 評価例①② スピーチ原稿>

My speech script

Opening
あいさつ
将来の夢

I'm Risa Akari. I want to be a writer in the future.

Body
理由
きっかけ
経験談
エピソード

First, I like book very much. When I read a book, I always feel happy and excited. I want people to have a lot of emotions with my book. Second, I respect Fujimura Mizuki. I think she is the best contemporary Japanese writer. She often tells me about students' relationships. It's very important for me. Third, I think books can make a good world. If someone write about piece, people hope to become piece. for example, My sister read books about war. she says it's scary and I don't want there to be war.

Closing
総論・要約
ひとこと

In short, with writing I can tell a lot of things as emotions and good of world. writing is an ideal job for me.

※実際にはスピーチ本番で評価

My speech script

Opening
あいさつ
将来の夢

Hello, I'm Risa. I will now talk about my future dreams. I want to be a doctor.

Body
理由
きっかけ
経験談
エピソード

I have three reasons. First, I respect doctors. When I was three years old I hit my head and got injured. At that time, the doctor treated me carefully. I thought that I want to help people like her. Second, I am interested in the birth of life. I want to learn more about it. Third, I want to protect my family. That's why I want to study hard and know a lot of things.

Closing
総論・要約
ひとこと

In short, I want to help a lot of people like the doctor, and I'll enjoy my life.

<表現活動(書く活動)の前に用いたプラスの読み物教材>

English Worksheet 2 Project ① 将来の夢を紹介しよう

2- () No. () Name ()

Today's Goal 10年後やってみたいことややりたいものについてスピーチ文を書く。

◆花、ジン、陸、世界中の子どもたちがどんな夢や目標があるか読んで聞いて、自分が10年後やってみたいことなりたいものについてスピーチ原稿を書こう。

	I want to be a painter in the future. I really like to draw pictures. And I often watch Japanese anime. I sometimes draw Japanese anime characters.
a girl from Thailand	
	I want to be an engineer to help people. I want to make a box-type drone. If I can make it, I can help people in a disaster area. Now I work as a volunteer to help poor people. I send some books and clothes to them.
a boy from China	box-type 箱型 drone 災害地 貧困の
	I like soccer because I like to help each other with my teammates and score a goal. So, I want to be a soccer player. But in my country, people still have a prejudice against women's soccer. I also want to be a journalist to make a better society.
a girl from Egypt	each other お互い score a goal 点を決める prejudice 偏見
	I want to be a surgeon. I'm interested in a gap between rich and poor in developing countries. I want to improve telemedicine and treat many people in such countries.
a girl from the USA	surgeon 外科医 gap 格差 developing country 発展途上国 telemedicine 遠隔医療 treat 治療する

<https://sukusuku.tokyo-np.co.jp/support/10147/>

<ペアでのスピーチ練習の様子>



単元プランシート(英語科3年)

単元名		Lesson2 Languages in India
単元の目標		マチュー先生がまだ訪れたことがない国の特徴などについて,簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。 (5)書くこと ア 関心のある事柄について,簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
評価 規 準	知・技	①受け身形を用いた文の構造を理解している。 ②受け身形などを用いて,マチューに紹介する国について書く技能を身に付けている。
	思・判・表	マチュー先生に驚きを与えたり,興味関心をもってもらえたりできるように,既習事項を駆使しながら,マチュー先生がまだ訪れたことがない国の特徴などについて,簡単な語句や文を用いて正確に書いている。
	主体	マチュー先生に驚きを与えたり,興味関心をもってもらえたりできるように,既習事項を駆使しながら,マチュー先生がまだ訪れたことがない国の特徴などについて,簡単な語句や文を用いて正確に書こうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	単元のゴールを知る。目標を立てる。			
2	GET1・2を読解し,受け身の文構造を理解する。	①		
3	受け身クイズをして,受け身の文構造の理解を深める。	①		
4	USE Read を読解する。	①		
5	USE Read を復習する。	①		
6	USE Read の類題を読解し,感想を伝え合う。	①		
7	マチュー先生に紹介する国を決める。 紹介文を書く際のポイントを考える。			
8	紹介文を班員と協力して書く①	②	①	①
9	紹介文を班員と協力して書く②	②	①	①
10	紹介文を班員と協力して書く③	②	①	①
11	ドキュメントに英文を打ち込み,作品として完成させる。 Lesson2 を振り返る	②	①	①
後 日	ペーパーテストに取り組む。	①		

評価基準	
B	A
マチューに驚きを与えたり,行ってみたいと思わせたりするために,その国を特徴づける要素を3つ以上取り入れて,それぞれについて説明した紹介文を書いている。	マチューに驚きを与えたり,行ってみたいと思わせたりするために,その国を特徴づける要素を3つ以上取り入れて,それぞれについて説明した紹介文を書いているのに加えて,読み手であるマチューを意識していることがよくわかる紹介文を書いている。

今日のめあて:インド以外の国について書かれた英文を読み、感想を伝え合おう

The most difficult language is used in this island

今年度の英語科の研究主題である「読む」から「書く」や「話す」への技能統合的な学習を実現するための取組として、第6時において、このワークシートのような教科書本文 USE Read に似せた英文を読ませて、その感想を2人組で伝え合わせる。これにより、ある国を紹介する英文の書き方のイメージを持たせるとともに、ある国に対する自分の考えや気持ちをもたせることが可能となり、最終的な課題であるマチュー先生への紹介文を書くという課題を達成する橋渡しとなる。

with when
co, the
fighting, the
big piece of red cloth.
of them is Canary Island. In La
t language. Surprisingly, *whistling is
story. Many years ago, it was used



to tell something important secretly in this island. So, the enemies could not understand the contents of their conversations. But now, the fighting is over and the whistling is used by a few people. Perhaps this language will disappear in the near future. Before we lose the language, you should go to La Gomera Island and hear the whistling.

*whistling 口笛

The country with the origin of our daily food

Peru is located in South America. As you know, it is famous for its Machu Picchu, one of the World Heritage Sites. More than 34 million people live in Peru. They officially speak Spanish because it was ruled by Spain in its history. However, there are more than 45 other languages in this countries.

There are *characteristics about Peru. Do you eat potatoes, tomatoes, pumpkins, peanuts and red peppers? And do you like them? If so, you have to say "Thank you very much."

to Peru. Those vegetables have their origins in Peru. When

Peru was ruled, some Spanish people stole these vegetables

from Peru and then they spread worldwide. If Peru was not ruled by Spain, our meals would be different from today. History makes what we are now.



*characteristics 特徴

The most beautiful language is used in this country

What is the most beautiful language in the world? What do people think about it? There should be a variety of opinions, but most of people might say that is French, the official language of France where the next Olympic games will be held. In particular, French is popular for its sweet sounds. Many people think that French is *soothing.

It is spoken not only in France but also in Belgium, Switzerland, Monaco, Luxembourg, Guernsey Island, and Jersey Island. French is not just for people in France. In addition, it is one of the official languages of the UN and French is thought to be the most important. That means if there is a small difference between English sentences and French ones, French will be taken as the "right answer."

Fortunately, you can learn French from Mathieu, your ALT. Why don't you talk about it with him? How about going to France and travel around the world to come across many "Frenches."



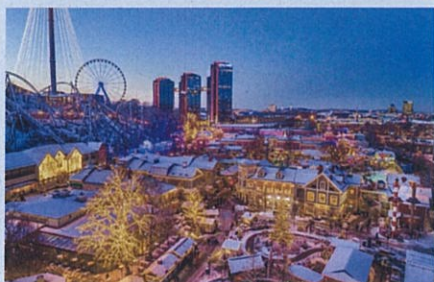
*soothing 心地よい

Sweden

*I recommend Sweden to you !
Sweden is a country which I
have wanted to visit for a long
time. I will tell you the reasons.*



*Although Sweden is located in Northern Europe, it has a
relatively mild climate and four seasons like Japan. But unlike
Japan, summer is not hot and humid and can be spent
comfortably.*



*In addition, I want you to
see Sweden's beautiful landscapes and
historical buildings and exciting leisure
spots. I especially recommend you to
go to Liseberg Amusement Park. It is*

*the largest amusement park in
Northern Europe. The most popular
attraction is a roller coaster which is
made of wood called "Balder". You can
enjoy playing there with your children.*



*For these reasons, I recommend you to visit Sweden! Please go
to Sweden if you want! Thank you.*

英語科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

3年B組40名

指導者 白根 和延

1 単元名 Lesson3 The Story of Sadako
「大分から平和の誓いを発信しよう」

2 単元設定の理由

(1)教材について

- ・本単元では、修学旅行で広島の実原爆ドームを訪れている中学生と教師の会話や被爆者のさだこさんの物語を通して、平和について学ぶことができる。戦争を繰り返さないために現代を生きる人々ができることなどについて意見交換をすることで、平和に対する考えを深めることができる単元である。
- ・文法事項としては、後置修飾を学習する。後置修飾の用法を習得することで、伝えたい内容をより正確に、具体的に表現できるようになり、自己表現の幅を広げることができる言語材料である。
- ・本単元では、平和について書かれた英文を読んで自分の考えを書く活動を設定し、文章の要点を正確に読解する力と、読み取った英文を引用したり既習事項を駆使したりしながら文章を書く力を身に付けさせたい。また、学習指導要領の1目標(2)読むことウ「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする」および(5)書くことウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」指導と位置付ける。

(2)学習者について

- ・総合的な学習の時間で現代社会の諸問題を挙げる時間に、各国の紛争や人種差別に目を向ける姿があり、平和に関連する事象への問題意識は高い。しかし、授業時間でそれらについての自分の考えを、時間をかけて構築したり伝えたりする機会は少ない。
- ・英語を書いたり話したりする際、形容詞や副詞を積極的に用いて表現しようとする姿勢があるが、そのほとんどは前置修飾的用法である。後置修飾を習得することで、より多様に、そして、より具体的に英語で表現する力をつけたい。
- ・3年生 Can Do リストでは TOEFL Primary テストにおいてトータルスコア 216 以上(CEFR A2 前半相当)に到達することを掲げている。1年次では38名の生徒が、2年次では 77 名の生徒がトータルスコア 216 を超えている。また、「読むこと」については、単文の英文の文構造に着目し、コミュニケーションに支障をきたさずに意味内容を捉える力は高まってきた。しかし、定期考査での解答を見ると、まとまりのある文章の概要や要点を的確に把握する力には課題があると感じることがある。また、「書くこと」では、「Opening・Body・Closing」の構成に沿って考えを書く姿勢が身についてきた。しかし、自分の考えや気持ちを表現するのに最適の言語材料を選択する力と、読み手の意向に沿う内容を発信する力に課題がある。そこで、文構造や使われている表現に着目して、論理的に読み手の真意を捉える力、英語表現を具体的な使用場面と結び付けて理解し活用する力、読み手の置かれた状況等を想像しながら適切な応答内容を書く力の育成が必要である。

(3)指導について

- ・別府市役所でウクライナ避難民の母語支援員として活躍しているウクライナ出身の小野ヤーナさんが書いた、ウクライナ紛争を経験しての思いや平和への願いが綴られた手紙を読み、その返信を書く活動を単元末に設定する。手紙を通して小野ヤーナさんが伝えたいことは何かを読み取り、その思いに応える形で手紙の感想や平和に対する自分の考えを書かせることで、平和について深く考えさせたい。
- ・単元末の英作文で生徒が使用しそうな英語表現を、後置修飾を用いて表したものを生徒に配付し、帯活動的に口頭練習させる。まず音で慣れ親しませることで、後置修飾を生徒に身近なものにし、後置修飾の文型を使用場面と結びつけて定着させ、積極的に活用することを促したい。
- ・制限時間を設けて読み取った内容について級友と考えを伝え合ったり、級友の考えを全体共有したりする時間を設定することで、正確な読解のポイントをつかませたい。また、書いた英語について、自分とは異なる級友の英語表現や相手意識の深い内容を参考にする時間をとることで、自分の英語表現の幅を広げたり、より深い相手意識をもたせたりしたい。

単元プランシート(英語科3年)

実施時期9月

単元名			大分から平和への誓いを発信しよう
単元の目標			・平和に関する他者の意見を知り,平和についての自分の考えを発信するために,海外の人の平和への思いがつづられた手紙を読んで要点を捉え,平和への誓いを簡単な語句や文を用いて書くことができる。 (2)読むこと ア 日常的な話題について,簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。 (5)書くこと ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて,考えたことや感じたこと,その理由などを,簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。
評価 規 準	読 む	知識・技能	① 後置修飾を用いた文の構造を理解している。 ② 後置修飾などの意味や働きの理解の基に,海外の人が書いた平和についての手紙の内容を読み取る技能を身に付けている。
		思考・判断・表現	① 平和に関する他者の意見を知り,自分の平和に対する考えをまとめるために,海外の人の書いた平和についての手紙から必要な情報を読み取っている。
		主体的に学習に取り組む態度	① 平和に関する他者の意見を知り,自分の平和に対する考えをまとめるために,海外の人の書いた平和についての手紙から必要な情報を読み取ろうとしている。
	書 く	知識・技能	① 後置修飾を用いた文の構造を理解している。 ② 後置修飾などを用いて,平和についての自分の考えを簡単な語句や文を用いて書いている。
		思考・判断・表現	① 平和に対する自分の考えを発信するために,既習事項を駆使しながら,平和についての自分の考えを簡単な語句や文を用いて書いている。
		主体的に学習に取り組む態度	① 平和に対する自分の考えを発信するために,既習事項を駆使しながら,平和についての自分の考えを簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

	学習内容	評価計画					
		読む			書く		
		知・技	思・判・表	主体	知・技	思・判・表	主体
1	・単元のゴールを知る。 ・目標を立てる。 ・後置修飾の文構造を知る。	①			①		
2	・GET Part1を理解する。 ・「伝える HIROSHIMA プロジェクト」に参加した広島市の中学生の書いた英文を読む。	②	①	①			
3	・GET Part2を理解する。 ・本文中の“What can we do?”という問いに対しての自分の答えを考え,平和についての自分の考えを書く。				②	①	①
4	・USE Read を読解する。 ・佐々木禎子さんについての英文を読む。	②	①	①			
5	・佐々木禎子さんの物語をふまえ,平和についての自分の考えを書く。				②	①	①
6	・小野ヤーナさんの平和への思いの手紙を読み取る。	①	①	①			
7	・小野ヤーナさんの手紙の内容をふまえ,平和についての自分の考えを書く。				②	①	①
8	・平和への誓いの下書きを完成させる。				②	①	①
9	・平和への誓いの清書を完成させる。 ・Lesson3 を振り返る。				②	①	①
後日	・ペーパーテストを実施する。	①②			①②		

○...記録に残す評価(総括的評価) ●...記録に残さない評価(形成的評価)

評 価 基 準「読むこと」	
B	A
手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取ることができている。	手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取るとともに、そのメッセージにこめられた書き手の願いや考え方を読み取ることができている。
(期待する生徒のワークシートの記述例) ・平和な時間は戦争と戦争の間の時間で、平和の時間を大切にしないといけないと言っている。	(期待する生徒のワークシートの記述例) ・戦争が起きた時に備えないといけないと言っている。ヤーナさんは戦争がなくなることを願っているが、平和な時間は戦争と戦争の間の時間だと言っていて、戦争がなくなることは不可能だと考えているとわかるから、私たちにこう伝えている。

評 価 基 準「書くこと」	
B	A
自分の考えや気持ちを述べている。	自分の考えや気持ちを理由と共に述べたり、手紙の内容を引用して述べたりしている。
(期待する生徒の成果物の例) I read a letter written by Ms.Ono. I think that real peace is that we can smile every day. If war happen, we may die. Many people will cry. Many people get injured and die. It is not peace. So, I think we can smile is important.	(期待する生徒の成果物の例) — I read a letter written by Ms.Ono. I think that real peace is that we can smile every day. <u>In letter, Ms. Ono say that she couldn't sleep for a month.</u> She must be tired. I think she cryed sometimes. It's not peaceful. So, I think smile is important.

様式3 本時の指導

(1)本時の位置づけ(6/10)

(2)題材名 Lesson3 The Story of Sadako

(3)本時のねらい 海外の人の平和への思いが伝わった手紙について、書き手の伝えたいことを読み取る活動を通して、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

(4)展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
4	1.前時の復習をする。	○英語でこれまでの学習を振り返る。 ・テレビにスライドを映す。 ・生徒と英語で対話しながら振り返る。	
15	2.小野ヤーナさんを紹介する。	○英語で小野ヤーナさんを紹介する。 ・テレビにスライドを映す。 ・生徒と英語で対話しながら紹介する。	
1	3. 本時のめあてを知る。	○本時のめあてを知らせる。 小野ヤーナさんが附中3年生に伝えたいことを読み取ろう	
15	4.小野ヤーナさんの気持ちが表れている英文を探す。	○手紙とワークシートを配付する。 ○小野ヤーナさんからの手紙を読ませる。 ・6分間で読ませる。 ・小野ヤーナさんの気持ちが表れている部分に色ペンで線を引かせながら読ませる。 ○線を引いた箇所について、ペアで日本語で伝え合う。 ○全体で共有する。	【読む:知識・技能の】 【読む:思考・判断・表現①】 【読む:主体的に学習に取り組む態度①】:ワークシート・行動観察
10	5.小野ヤーナさんが伝えたいことを読み取る。	○小野ヤーナさんが伝えたいことを読み取り、ワークシートに日本語で書かせる。 ○考えをペアで日本語で伝え合う。 ○全体で共有する。 ・クラスメイトの考えを聞いて新たに気づいた点はワークシートにメモを取らせる。	
6	6.振り返りをする。	○Chromebook の google スプレッドシートに振り返りを入力させる。 ・「ヤーナさんが手紙を通して伝えたかったこと」を読み取れたか否か、自分の学習状況を文章記述で振り返らせる。 ○次回、小野ヤーナさんの手紙を受けての平和への誓いを書く活動をするを伝える。 ○ワークシートを提出させる。	

(5)評価基準

評価基準「読むこと」	
B	A
手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取ることができている。	手紙に書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取るとともに、そのメッセージにこめられた書き手の願いや考え方を読み取ることができている。
(期待する生徒のワークシートの記述例) ・平和な時間は戦争と戦争の間の時間で、平和の時間を大切にしないといけないと言っている。	(期待する生徒のワークシートの記述例) ・戦争が起きた時に備えないといけないと言っている。ヤーナさんは戦争がなくなることを願っているが、平和な時間は戦争と戦争の間の時間だと言っていて、戦争がなくなることは不可能だと考えているとわかるから、私たちにこう伝えている。

(6) 学習記録計画

教室備付 TV

めあて 小野ヤーナさんが附中3年生に伝えたいことを読み取ろう

【sentences showing her feelings】

.....

 ..

【What she wants to tell us】

.....

 ..

(新出語句)

.....

教室備付 TV

ワークシート

手紙

L3 ワークシート④

Class() No.() Name()

【小野ヤーナさんの手紙中の単語】

Ukraine / ウクライナ peacetime / 平和な時間 primary / 初歩的な military / 軍事の
 not only～but also…/～だけでなく…も knowledge / 知識 in case of ～ / ～の場合 bombing / 爆弾の投下
 subway / 地下鉄 impossible / 不可能な serious/真面目な even if ～ / たとえ～であったとしても
 relative/親戚 beg～to…/～に…するよう懇願する nation / 国 defend～ / ～を防御する
 thankful for～ / ～に感謝している take it for granted/それを当たり前と思う appreciate～ / ～に感謝する
 politics / 政治 importance / 重要性 individually / 個別に assess～ / ～を評価する independently/独立的に
 influence～ / ～に影響を与える somewhere / どこか protect～ / ～を守る

My idea

Classmates' ideas

To students in Fuzoku Junior High School

My name is Ono Yana. I am 41. I am from Ukraine. I was in Ukraine in peacetime from 1989 to 2003. Later I moved to Japan.

But I remember classes held in peacetime at school on primary military training, not only for boys but also for girls. Such classes were made to teach children basic knowledge in case of war. For example, I remember my teacher saying that in case of bombing, we had to run to the subway. But our school was far away from the subway. I thought it was impossible. Everyone was laughing. We were not serious. We did not think that a war would happen in Ukraine. I thought that even if war starts, children will not be killed because they are innocent and they have not done bad things.

But recently, reality in Ukraine showed different things. In 2022, on February 24th, my relatives told me that a war started in Ukraine. I could not believe it. I was shocked very much. I started calling my relatives and my friends in Ukraine. I begged them to leave Ukraine. I worried about them and my house. The first month of the war I was in a very strong shock. I could not sleep. One day, when I was watching TV, I saw people running to the subway. They had to be in the subway for a long time. That reminded me of the lessons taken at school.

I thought that peacetime is just between two wars. I also thought that every nation needs to always be prepared to defend themselves in case of war. The war made me and many Ukrainians realize that we have to be thankful for peacetime and enjoy our lives. Before the war, we took it for granted and we did not appreciate it. But now I realized. Later, I heard that half of my hometown was destroyed.

Usual people like us cannot change world events and politics and unfortunately we cannot stop the war. But we can talk more about the importance of peace, teach our children to live in peace with each other and neighbors and learn how to respect other people's lives. And the most important thing is to learn to think individually and assess the situation independently, and to learn not to be influenced too much by other people's opinions because they are not always right. Also, a new war might begin somewhere else. We really need basic knowledge on how to protect ourselves in case of war.

By Ono Yana

Oita Prefecture, Beppu City

The head of NPO Beautiful World

Dear, Yana. Thank you for writing a letter for us. I felt sad when I read your letter. I have seen the news about Ukraine, but I didn't know how Ukrainian feel well. I and my close people have lived in peace. I have thought that it is natural, but I realized it is very precious by reading your letter. (Japan is ^{the} pacifist nation and doesn't have any armies) I really wish for world peace, too. I want to talk with many people about peace and consider ways to make world peaceful. I will never forget your letter.

and any nuclear weapons. I thought that we have to protect ourselves and Japan. I want to do as many things as I can. People fight for their purposes like land, money, and so on. But I know peace is more important than ^{any} other thing now.

From Nonoka Hori.

1 単元名

Lesson 7 Wheelchair Basketball 「いちおしのパラアスリートをポスターで紹介しよう」

2 単元設定の理由

(1)教材について

- 本単元は、障がい者向けのスポーツと車いすバスケットボール日本代表の網本麻里選手の競技人生や競技に対する思いについて学習することを通して、前向きに物事に取り組む姿勢の大切さやスポーツに取り組む意義に触れ、よりよい生き方について考えるのに適した教材である。
- 学習指導要領の1目標(5)書くことウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする」指導と位置付け、教科書本文中の表現を参考に、自分に関心を持ったパラアスリートを紹介する英文ポスターを書くことにつなげることができる。
- 新出の言語材料はbe動詞の過去形と過去進行形の肯定文、否定文、疑問文である。その用法を理解し習得することによって、学習者は、人物や出来事の過去の様子や過去のある一時的な瞬間においてなされていた動作について、正確に表現することができるようになる。

(2)学習者について

- 1年生は前期の国語の授業で「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック」に対する若者の関心度についてのアンケート結果の原因を分析し、レポートを書く活動を通して障がい者スポーツについて見識を深めている。
- 授業アンケートの結果を見ると、2割以上の学習者が「書く」ことにいまだ苦手意識を感じている。理由としてつづりが覚えられていないことや語彙不足があげられるが、加えて書くことによる表現活動の際、そもそも題材を決めることに困難を感じる生徒も少なくない。一方書くことに意欲的な学習者は相当数おり、8割近い生徒は書くことが「よくできる」「できる」と感じている。
- 3人称単数現在形が導入された単元では、家族など第三者をALTのマチュー先生へ紹介することにより、プレゼンテーション活動に積極的に関わった。コミュニケーションへの関心の高さは多くの学習者に感じられ、ペアや班活動にも活発に取り組む。

(3)指導について

- 単元を通した帯活動で、世界で活躍するパラアスリートを紹介する短い英文を読ませたり、導入時に大分国際車いすマラソンの際に取材した指導者の動画を見せたりすることで、多様な障がい者スポーツや地元で行われるパラスポーツの魅力に触れさせる。学習者は日頃障がい者スポーツに触れる機会はあまり無いが、世界で活躍するパラアスリートに関する英文を読むことで、自らの障がいに立ち向かい前向きにスポーツに取り組む姿から勇気や希望を感じさせたい。
- これまで自分の関心のあることについて話したり書いたりすることには意欲的に取り組んできたが、社会的な題材について感じたことや意見を書くことを通して自己表現の幅を広げさせたい。特に苦手意識のある生徒については、語順表で英文の構造を確認させたり、ALTによるポスターサンプルで段落構成を確認させたりして自分の考えを表現する手立てとしたい。
- パラアスリートの実績や事実等を表現することで、人物の紹介をより深められることに気づかせる。これまでの単元では現在形を用いて自分以外の第三者を紹介する活動は行ったが、過去形を使えばより豊かに人物が紹介できることに気づかせたい。

3 単元の目標および評価規準

パラアスリートの魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①be 動詞の過去形の肯定文、否定文、疑問文と過去進行形の意味や働きを理解している。 ②パラアスリートの魅力について、簡単な語句や文を用いて、正確に書く技能を身に付けている。	自分のいちおしのパラアスリートの魅力について、国内外の車いすマラソン選手へ伝わるよう、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書いている。	自分のいちおしのパラアスリートの魅力について、国内外の車いすマラソン選手へ伝わるよう、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

4 単元計画と評価計画及び方法

時	主な学習活動・ねらい	指導上の留意点【問いの工夫】	評価規準			評価方法
			知 技	思 判 表	態 度	
1	単元の目標を知り、見通しをもつ。	・大分国際車いすマラソンの動画を見せ、県内パラスポーツ行事の魅力に気づかせる。 ・パラアスリートの魅力を伝えるポスター作製をするために必要なことは何か、考えさせる。作製したポスターは来年度の車いすマラソン会場で掲示することを伝える。				
2	【Get Part1】 マークのビデオメッセージを理解する。	・国枝慎吾選手(車いすテニス)についての英語の紹介を読ませる。 ・新出語句の導入、本文の聞き取り、文脈を考慮した音読活動を行う。	①			行動観察 ワークシート
3	【Get Part1】 マークのビデオメッセージを復習する。	・Sandrine Martinet 選手(パラ柔道)についての英語の紹介を読ませる。 ・本文の内容を be 動詞の過去形を活用して書き起こさせる。	①			ワークシート
4	【Get Part2】 マークとジンの電話のやりとりを理解する。	・鳥海連志選手(車いすバスケットボール)についての英語の紹介を読ませる。 ・新出語句の導入、本文の聞き取り、文脈を考慮した音読活動を行う。	①			行動観察 ワークシート
5	【Get Part2】 マークとジンの電話のやりとりを復習する。	・Ambra Sabatini 選手(パラ陸上)についての英語の紹介文を読ませる。 ・本文の内容を過去進行形を活用して書き起こさせる。	①			ワークシート
6	【USE Read】 網本選手についてのエッセイの要旨を読み取る。	・小田凱人選手(車いすテニス)についての英語の紹介文を読ませる。 ・網本選手のエッセイの要旨を読み取らせる。	①			ワークシート
7 本 時	【USE Read】 いちおしのパラアスリートの魅力が伝わる紹介文を書く。	・マチュー先生いちおしのパラアスリートの紹介を読み、ポスターに入れるべき内容に気づかせる。 ・ポスター作製にあたり、段落構成や英文に含める要素を確認させ、関心をもったパラアスリートの紹介文の下書きをする。		●	●	ワークシート
8	自分が関心をもったパラアスリートのポスターを個人で作る。	・グループで、お互いのポスター作製進捗状況を確認し、良いところ・改善点を評価し合う。 ・パラアスリートの紹介文の不十分な例を示し、どこを改善したらよくなるか、ペアで考えさせる。		●	●	行動観察
9	自分の英作文の内容や構成を見直す。	・ポスターに入れる写真等を選定し、魅力あるレイアウトにする。 ・自分の紹介文の不安な部分について友達に相談したり、お互いの文を回し読んでアドバイスを送りあったりさせる。		●	●	Google ドキュメント
10	自分が関心をもったパラアスリートのポスターを完成させる。	・前時に友達からもらったアドバイスをもとにポスターを完成させる。 ・完成したポスターを班で共有する。	②	●	●	Google ドキュメント 行動観察
11	パフォーマンステストをする。	・紹介した人以外のパラアスリートについて紹介文を書く。		○	○	
後 日	ペーパーテストをする。	・ペーパーテストに取り組ませる。	①			ペーパーテスト

評価基準「書くこと」	
B	A
Opening・Body・Closing の文構成の下、 ①簡単な語句や文を用いて、分かりやすく書いている。 ②自分の経験やエピソードに触れながら、2つの要素（実績、人柄、困難を乗り越えた経験等）を用いて書いている。	Opening・Body・Closing の文構成の下、 ①簡単な語句や文を用いて、分かりやすく書いている。 ②自分の経験やエピソードに触れながら、3つ以上の要素（実績、人柄、困難を乗り越えた経験等）を用いて書いている。
（期待する生徒の成果物の例） I am Hiroshi Tanaka. I like play tennis. Oda Tokito is wheelchair tennis player. I respect him. He win 2024 Paris Paralympic games in wheelchair tennis. He is great tennis player. He wanted become soccer player, but he got cancer so he gave up. He became a wheelchair tennis player after he saw kunieda shingo in a movie. He don't like practice, but he practices hard. ①<u>He is strong and great player. Mr. Oda is my hero.</u>	（期待する生徒の成果物の例） I am Hiroshi Tanaka, and I want to be a doctor in the future. Through this lesson, I learned from Mr. Oda Tokito that making efforts is important. He is a wheelchair tennis player, and I respect him a lot. His dream was a soccer player, but he got cancer and gave up his dream. In 2012, he saw Kunieda Shingo in a movie of the London Paralympic Games and decided to become a wheelchair tennis player. He got the gold medal for the men's singles in the 2024 Paris Paralympic Games. Last year, ①<u>this performance touched my heart because he never gave up in the games.</u> ③<u>My dream is to be a doctor, so I study hard every day. I am not good at science, but I don't give up like Mr. Oda.</u>

5 本時案

(1) 題材名 Lesson7 USE Read: Wheelchair Basketball

(2) 本時のねらい 自分が関心を持ったパラアスリートについて、マチュー先生の書いた英文を分析する活動を通して、魅力が伝わる紹介文を書くことができる。

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
2 5 10	1. 本時の学習活動を確認する。 2. ウォームアップ 3. マチュー先生のいちおしのパラアスリートの紹介文を読む	○電子黒板にレッスンプランを提示する。 ○The Beatles “Hello, Good-bye”を手話を交えて歌う(教科書 付録 p.2) ○マチュー先生いちおしのパラアスリートの紹介文を読ませ、先生が一番伝えたいことは何か気づかせる。 ・読むことに苦手意識がある生徒への支援として、難しい語句については全体で確認しながら進める。 ・どのような情報を含めれば魅力が伝わるポスターが作製できるか、ペアで共有させる。	
国内外の車いすマラソン選手に伝わるよう、いちおしのパラアスリートの魅力を紹介する文を書こう。			
5 25 3	4. 関心をもったパラアスリートについて考える。 ・自分にとって魅力あるパラアスリートとその理由について考える。 5. 自分が関心をもったパラアスリートの紹介文を書く。 (1) 語順表を確認する。 (2) 下書きを書く。 (3) 途中経過を共有する。 6. ふりかえりをする。	○これまで紹介したパラアスリートまたは自分自身で選んだパラアスリートの中から選んで紹介文を書いてよいことを伝える。 ○マチュー先生のポスターから取り入れられることについて考えさせる。 ○文章構成を考えさせる。 ・Opening・Body・Closing の構成を意識して書くことを促す。 ○ワークシートにポスター紹介文の下書きを書かせる。 ・教科書本文の表現を参考に書くことを促す。 ・苦手意識をもっている生徒には、友達の紹介文を参考にして書くことを促す。 ・単語や語彙の検索に CB を活用することを促す。 ○数名の紹介文を取り上げ、良いところや改善点を共有させる。 ・班で、自分が工夫したところを伝え合う。 ・個人で、どのように工夫したか振り返る。	行動観察 自分のいちおしのパラアスリートの魅力について、国内外の車いすマラソン選手へ伝わるよう、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書いている。【思考・判断・表現】 自分のいちおしのパラアスリートの魅力について、国内外の車いすマラソン選手へ伝わるよう、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート

単元プランシート(英語科 1年)

実施時期 1 月

単元名		Lesson 7 Wheelchair Basketball
単元の目標		パラアスリートの魅力について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。
評価 規 準	知・技	①be 動詞の過去形の肯定文、否定文、疑問文と過去進行形の意味や働きを理解している。 ②パラアスリートの魅力について、簡単な語句や文を用いて、正確に書く技能を身に付けている。
	思・判・表	自分のいちおしのパラアスリートの魅力について、国内外の車いすマラソン選手へ伝わるよう、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書いている。
	主体	自分のいちおしのパラアスリートの魅力について、国内外の車いすマラソン選手へ伝わるよう、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書こうとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (時)	・大分国際車いすマラソンの動画を見せ、県内パラスポーツ行事の魅力に気づく。 ・パラアスリートの魅力を伝えるポスター作製をするために必要なことは何か、考える。作製したポスターは来年度の車いすマラソン会場で掲示する。			
2次 (時)	・国枝慎吾選手(車いすテニス)についての英語の紹介を読む。 ・新出語句の導入、本文の聞き取り、文脈を考慮した音読活動を行う。	①		
3次 (時)	・Sandrine Martinet 選手(パラ柔道)についての英語の紹介を読む。 ・本文の内容を be 動詞の過去形を活用して書き起こす。	①		
4次 (時)	・鳥海連志選手(車いすバスケットボール)についての英語の紹介を読む。 ・新出語句の導入、本文の聞き取り、文脈を考慮した音読活動を行う。	①		
5次 (時)	・Ambra Sabatini 選手(パラ陸上)についての英語の紹介文を読む。 ・本文の内容を過去進行形を活用して書き起こす。	①		
6次 (時)	・小田凱人選手(車いすテニス)についての英語の紹介文を読む。 ・網本選手のエッセイの要旨を読み取る。	①		
7次 (時)	・マチュー先生いちおしのパラアスリートの紹介を読み、ポスターに入れるべき内容に気づく。 ・ポスター作製にあたり、段落構成や英文に含める要素を確認し、関心をもったパラアスリートの紹介文の下書きをする。		●	●
8次 (時)	・グループで、お互いのポスター作製進捗状況を確認し、良いところ・改善点を評価し合う。 ・パラアスリートの紹介文の不十分な例を示し、どこを改善したらよくなるか、ペアで考える。		●	●
9次 (時)	・ポスターに入れる写真等を選定し、魅力あるレイアウトにする。 ・自分の紹介文の不安な部分について友達に相談したり、お互いの文を回し読んでアドバイスを送りあったりする。		●	●
10次 (時)	・前時に友達からもらったアドバイスをもとにポスターを完成する。 ・完成したポスターを班で共有する。	②	●	●

11次 (時)	・紹介した人以外のパラアスリートについて紹介文を書く。 (パフォーマンステスト)		○	○
後日	・ペーパーテストに取り組む。	①		

評価基準	
B	A
Opening・Body・Closing の文構成の下、 ①簡単な語句や文を用いて、分かりやすく書けている。 ②自分の経験やエピソードに触れながら、2つの要素(実績、人柄、困難を乗り越えた経験等)を用いて書けている。	Opening・Body・Closing の文構成の下、 ①簡単な語句や文を用いて、分かりやすく書けている。 ②自分の経験やエピソードに触れながら、3つ以上の要素(実績、人柄、困難を乗り越えた経験等)を用いて書けている。
(期待する生徒の成果物の例) I am Hiroshi Tanaka. I like play tennis. Oda Tokito is wheelchair tennis player. I respect him. He win 2024 Paris Paralympic games in wheelchair tennis. He is great tennis player. He wanted become soccer player, but he got cancer so he gave up. He became a wheelchair tennis player after he saw kunieda shingo in a movie. He don't like practice, but he practices hard. ①<u>He is strong and great player. Mr. Oda is my hero.</u>	(期待する生徒の成果物の例) I am Hiroshi Tanaka, and I want to be a doctor in the future. Through this lesson, I learned from Mr. Oda Tokito that making efforts is important. He is a wheelchair tennis player, and I respect him a lot. His dream was a soccer player, but he got cancer and gave up his dream. In 2012, he saw Kunieda Shingo in a movie of the London Paralympic Games and decided to become a wheelchair tennis player. He got the gold medal for the men's singles in the 2024 Paris Paralympic Games. Last year, ①<u>his performance touched my heart because he never gave up in the games.</u> ③<u>My dream is to be a doctor, so I study hard every day. I am not good at science, but I don't give up like Mr. Oda.</u>

Ryadh Sallem

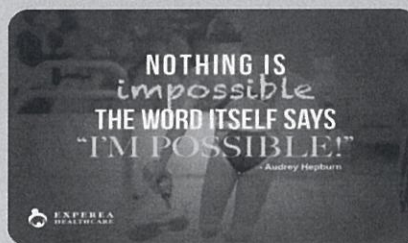


【Opening】 Hello, my name is Mathieu Garillon. I am 47 years old.

My hobbies are listening to music, watching movies and sports. Look at him! He is Ryadh Sallem, a French wheelchair rugby player. Mr. Sallem is 54 years old, and the 2024 Paris Paralympics were his sixth participation!

【Body】 Mr. Sallem was born with no legs, no left hand and a malformed right hand. He began as a swimmer and broke the 400m world record in 1991, then joined the Paralympic basketball team and he is now playing for French rugby team. His story really inspired me because I always have a knee pain but I want to start running again.

【Closing】 Mr. Sallem overcame so many problems so it gave me a powerful life lesson. (128 words)



(1) マチュー先生が一番伝えたいことはどんなことですか？



(2) マチュー先生のポスターで、アスリートの魅力につながる文に線を引きましょう。

Class.() No.() Name.()

Step 3 文章を書く-Opening, Body, Closingの構成を意識して書こう。

A 評価

Hello, I'm Mizuki. I am a student of junior high school.
I will introduce Manami Tanaka. She is a Japanese wheelchair tennis player.

She began tennis when she was ^a junior high school student, but she had an accident in her house, so she couldn't play it ^{any more}.
She was very shocked by the (problem). But, she never gave up ^{on} playing tennis. ^{accident?} She began wheelchair tennis. And (also) she got many medals. I respect her for not giving up on tennis.

She said, "Soul in every ball." ~~I could tell from her words that she was a woman who cared very much about tennis.~~
I also play tennis too, so I'll practice putting my soul into every ball.

when I heard her words,
I understood that she cared very much ^{Very good!!} about tennis.

語順を確認しよう!

主語

動詞

一般動詞の語順

誰か / どうした / 何を / どのように / いつ

He / won / a Nobel Prize / for the first time / in 1921.

彼は / 受賞した / ノーベル賞を / はじめて / 1921年に。

Be 動詞の語順

誰か / ~だった / 何・どうだ / いつ

He / was / a great scientist / in the 20th century.

彼は / ~だった / 偉大な科学者 / 20世紀の。

過去進行形の語順

誰か / ~していた / 何を / どこで / いつ

I / was playing / wheelchair basketball / at the gym / at 2 p.m. yesterday.

私は / ~していた / 車いすバスケット / 体育館で / 昨日の2時に。

【Reflection】 いちおしのパラスリートの魅力を伝える英文を書くために、どんなところを工夫しましたか？

彼女の名言を最後にかいて、彼女の車イステニスの思いが伝わってくるように伝えるようにした。

Class () No () Name ()

25. 1. 21

Step 3 文章を書く-Opening, Body, Closingの構成を意識して書こう。

B²評価

- A Hello, my name is Yuuri Matsuka. I am twelve years old. I like basketball very much. Look at her. She is Chihito Kitada. She is a member of the Japanese national wheelchair basketball team.
- B She was born with congenital dislocation of the hips and has impaired function in both legs. She served as captain of the Japanese national team at the Paris ^{Paralympics} Olympics. The reason I chose her is because she has a never-give-up attitude. Also she has a high success rate in making three-point shots.
- C I want to be a person who can work hard like her. (Good start!)

語順を確認しよう!

	主語	動詞	work hard like her.			
一般動詞の語順	誰か	どうした	何を	どのように	いつ	
	He	won	a Nobel Prize	for the first time	in 1921.	
	彼は	受賞した	ノーベル賞を	はじめて	1921年に。	
Be 動詞の語順	誰か	~だった	何・どうだ	いつ		
	He	was	a great scientist	in the 20 th century.		
	彼は	~だった	偉大な科学者	20世紀の。		
過去進行形の語順	誰か	~していた	何を	どこで	いつ	
	I	was playing	wheelchair basketball	at the gym	at 2 p.m. yesterday.	
	私は	~していた	車いすバスケット	体育館で	昨日の2時に。	

【Reflection】 いちおしのパラアスリートの魅力を伝える英文を書くために、どんなところを工夫しましたか？

紹介する方が = どのくらいか、云々を上手に伝える。

Class () No () Name ()

25. 1. 21

単元プランシート(英語科2年)

実施時期 11月

単元名	Lesson6 Tea from China ～おすすめの日本特有のお土産について、その魅力をマチュー先生に伝えよう!～	
単元の目標	ALTのマチュー先生が地元や海外出身の友だちに紹介したいと思うように、おすすめの日本特有のお土産について自分が体験したことや調べたことをまとめる活動を通して、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。	
評価 規 準	知・技	①現在完了形(継続用法)を含む文の仕組みを理解している。 ②現在完了形(継続用法)を含む文を用いて書く技能を身に付けている。
	思・判・表	(読むこと)マチュー先生が作成したフランスのお土産に関する紹介レポートを読んで、要点を捉えるとともに、マチュー先生が知りたい事柄を読み取っている。 (書くこと)マチュー先生が友だちに紹介したいと思うように、おすすめの日本特有のお土産について自分が体験したことや調べたことを、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて書いている。
	主体	(読むこと)マチュー先生のフランスの書いたお土産に関する紹介レポートを読んで、要点を捉えるとともに、マチュー先生が知りたい事柄を読み取ろうとしている。 (書くこと)マチュー先生が友だちに紹介したいと思うように、おすすめの日本特有のお土産について自分が体験したことや調べたことを、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて書くようとしている。

	学習内容	評価計画				
		知・技	思・判・表		主体	
			読む	書く	読む	書く
1	・単元ゴールを知り, 自己目標を設定する。 ・JTE の思い出のお土産について聞き内容を理解する。 ・自分が買ったお土産について即興で意見交流する。	●				
2	・登場人物の日本での滞在期間などに関する対話文の理解を通して, 現在完了形(継続用法)を含む文の意味や特徴を知る。	①				
3	・ずっと興味のあることについて, 現在完了形(継続用法)を用いて即興で伝え合う。 ・伝え合った事柄について英文で書き出す。	●				
4	・ずっと続けていることやその期間について話された文の内容理解を通して, 形容詞の最上級や同等比較を含む文の意味や特徴を知る。	①				
5	・お茶の起源や種類などについてまとめるために, 中国茶について書かれた記事を読んで, 要点を捉える。		●		●	
6	・マチュー先生が作成したフランスのお土産に関する紹介レポートを読んで, 要点を捉えたとともに, マチュー先生が知りたい事柄を読み取る。		●		●	
7	・自分のおすすめのお土産を選び, おすすめの理由やお土産の特徴などを簡単な英文で書き出す。			●	●	

8	・おすすめのお土産について、選んだ理由やそのお土産の特徴(使い方)をまとまりのある文でレポート作成する。	②	○	○
10	・自分が選んだおすすめのお土産について、写真やイラストを用いながら、班員と共有する。(show & tell)		●	●
12	・ペーパーテスト(後日)	①		

評価基準	
B	A
レポートに書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取ることができている。	レポートに書かれた内容から書き手の伝えたいことを読み取るとともに、レポートに込めた願いや書き手の考え方を読み取ることができている。
おすすめの日本特有のお土産について自分が体験したことや調べたことを、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。	Bに加え、読み手に伝わりやすくなるように、より効果的な内容や構成になっている。

<B 評価例 レポート>

What do you recommend? 紹介したいもの(メモ)

sensu

Japanese pictures are in it.

folding

紹介文

This is sensu. It is Japanese fan. It has many types of design. It was painted Japanese picture. It is so beautiful. You can enjoy only see this design. You can use it when you are hot. It was very compact, because you can fold it. It doesn't use electricity. So it is very eco friendly. It has been used since the Heian period. It has a lot of history. You can buy it some shops in Japan. You should buy this and feel the Japanese history. Sensu makes our heart excited.

<A 評価例 レポート>

What do you recommend? 紹介したいもの(メモ)

・おもしろ消しゴム
・消しゴム
・消しゴム

紹介文

In Japan, students use erasers almost every day. This is called "Omashiro keshigomu". It means, funny erasers. At the name suggests, these erasers represent foods, animals, seasons, and culture. Of course, you can use it as an eraser but also, you can use it as a figurine. You can get this not only at stationery stores but also at 100 yen shops. Each item is not very expensive, so you can buy it easily. It's fun to match with friends or collect the series.

This is an eraser from Mt. Fuji. There are two types of color, skyblue and blue. Mt. Fuji is a volcano. So, I used it before an important test! This is my most favorite eraser.

I hope, you like it! What will you buy in Japan?

<表現活動(書く活動)の前に用いたプラスの読み物教材>

What Japanese souvenir do you recommend?

2-class () No. () Name ()

★マチュー先生がフランスのお土産についてレポートで紹介してくれています。

Hello, everyone.
Do you like traveling?
Yes, I do!
What do you like to do when you go on a trip?
I love eating local food and looking around famous places.
And I also like finding something very special in each place.

Now I'll tell you about some popular souvenirs in France.
There are so many kinds of souvenirs. Here is a ranking of popular souvenirs from France.

1 Macarons	6 French Tea
2 Bordier Butter	7 Eiffel Tower Souvenirs
3 Mont Saint-Michel Butter Cookies	8 Savon (Marseille Soap)
4 Fleur de Sel (Sea Salt)	9 French Skincare & Cosmetics
5 Eclair Butter & Pastries	10 French Cheese

France is very famous for its sweets, such as macarons, éclairs, and cream puff. You can eat these sweets in Japan, of course, but you should try authentic French desserts. They are perfectly delicious!

Macarons are the most popular souvenir from France. Now everyone knows that macarons are iconic French pastries. Many famous shops sell pretty colorful macarons. What flavor do you like? I love pistachio. I'm sure you can find your favorite flavors there.

I also recommend buying some Eiffel Tower stuff. The Eiffel Tower is the iconic landmark in France, so classic keychains, magnets, or T-shirts should be the best souvenirs to everyone. I hope that you remember your trip to France whenever you see those stuff.

What Japanese souvenirs would you recommend? Just let me know!
See you soon!

authentic 本物の iconic 象徴的な pastry 洋菓子 landmark 目印

◆ What does Mr. Mathieu want to tell? マチュー先生が伝えたいことは何だろう?
マチュー先生のレポートから読み取れることを簡単にメモしよう!

What do you recommend? 紹介したいもの(メモ)

入浴剤

紹介文

There are bath salts. Do you know that? Taking bath is one of Japanese culture. But you should just take a shower. Bath salts make your bath time better. You can buy at the supermarket. It has many types of fragrances. Also it has many types of effects. Such as making you warm, making you relax, making your skin smooth and improving blood circulation. You should buy it, try it and take a bath!

enjoy your bath time!

Bのレポートは選んだお土産の歴史や用途など事実が多め。Aのレポートは、自分の経験をもとに読み手へ投げかけるような表現を用いている。



<学級内 show & tellの様子>

授業改善のイメージ(美術科)

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

鑑賞活動における「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実

設定理由

1年生では対象物をよく観察する力、2年生では自らの思いを表現する力、3年次では生活に活かし表現する力に重きをおいている。それぞれの力が繋がっていることに意識をもたせながら学習を進め、自分の思いをスムーズに色や形(表現活動)や言葉(言語活動や鑑賞活動)で多面的・多角的に表現できる力をつけさせたいと考えている。学習者の様子を観察すると、①自分の思いもあり、どのように表現したいのか見通しを持つことができる生徒と、②自分が表現したいことはあるものの、どのような形で表現したらよいのか分からない生徒と、③表現したいことが思い浮かばない生徒とがいる。②～③の生徒のつまづきを減らし、より豊かな表現活動・鑑賞活動につなげることができるよう改善していく必要がある。

作品などを対象にした鑑賞については、「思考力、判断力、表現力等」の育成の観点から、「A表現」との関連を図り、発想や構想と鑑賞の学習の双方に働く中心となる考えを軸としながら相互に関連させて育成することが重視されている。また、鑑賞と表現を、相互の関連を図りながら指導していくことも重要である。それぞれが独立した題材で直接、内容の関連が図れない場合においても、鑑賞の学習が作品の定まった価値を学ぶだけの表面的な学習にならないためには、鑑賞の学習の中で作者の気持ちになって発想や構想を膨らませるような視点や、制作手順をたどりながら表現方法に着目させるような視点を位置付けることが大切である。

授業改善の方針

今回は、表現活動ではなく、鑑賞活動においての研究としたい。

(1) 題材の工夫

学習者自身の興味をそそる題材の設定と工夫。

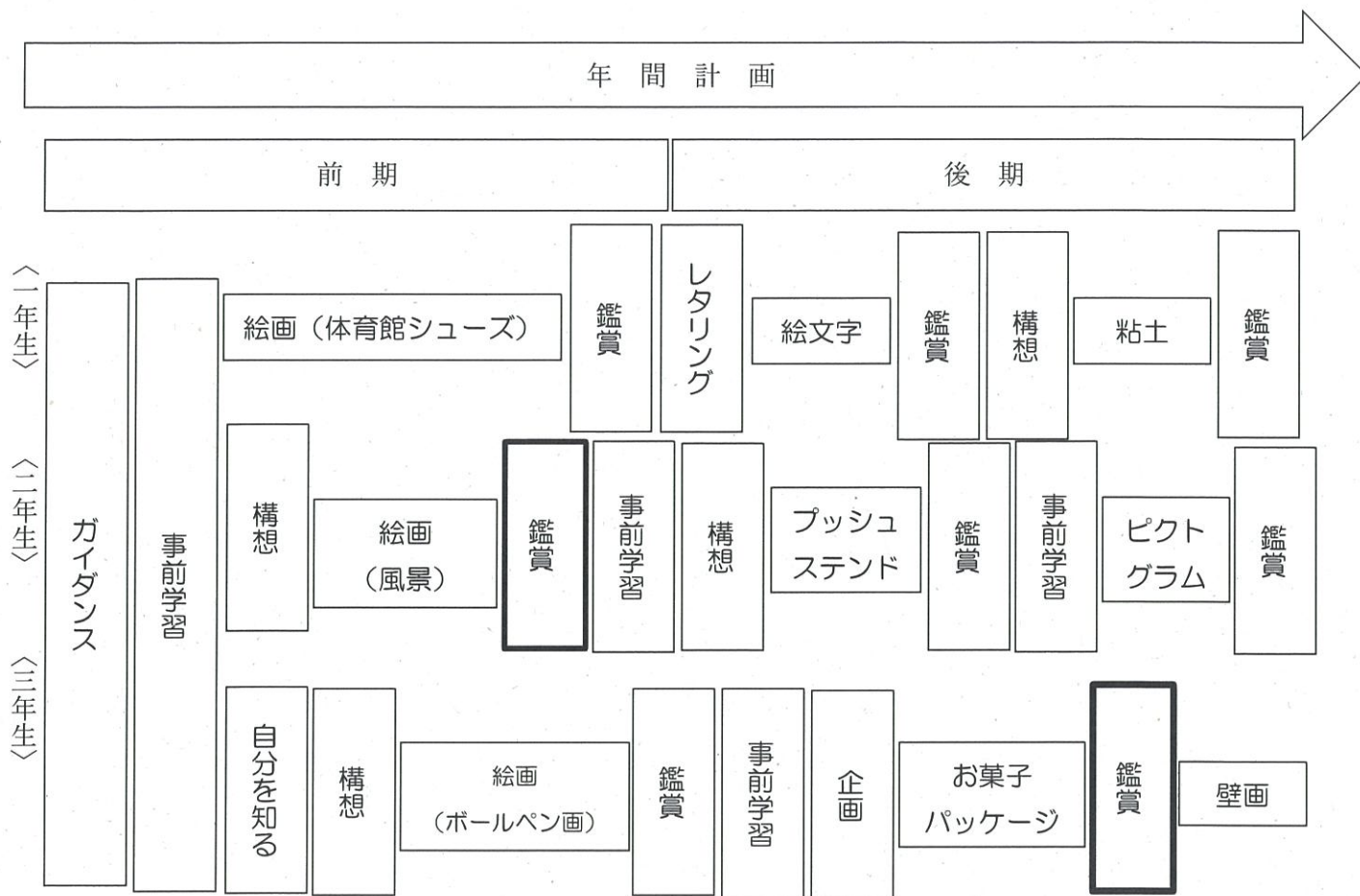
(2) 「思考力・判断力・表現力等」の力をつけるための授業展開とワークシートの工夫

鑑賞活動の授業内では、言葉かけの改善や生徒自身の発言を広げていけるよう工夫をする。

また、既習事項にも連動したり、ICT機器を活用したりしながら、思考を深めることのできる題材の設定に努める。

(3) 根拠や理由から豊かな発想に繋げられる評価基準の設定

鑑賞した作品から色や形で目に見えたり、感じたりできることだけでなく、「なぜそう感じたか」「どこをみてそう考えたのか」などの根拠をもとに思考・判断・表現できているのかの評価基準を設定する。

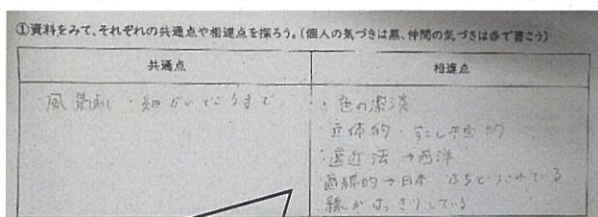


前期の成果

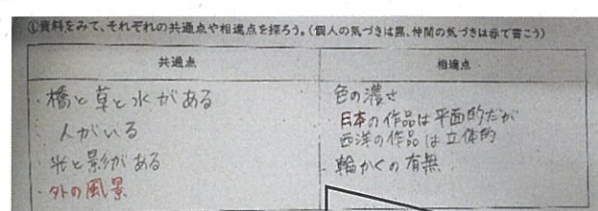
- (1) 前期は2年生を対象に、日本と西洋の絵画作品の比較鑑賞を通して、対話型鑑賞に取り組んだ。親しみのある日本文化や日本美術の歴史を交えながら、西洋文化や西洋美術とのつながりを学習していく。この学習では、学習者自身は興味深く積極的に学習することができていた。また、ICT機器の特性を生かして、作品の全体の様子だけでなく、細かな部分までくまなく観察し、鑑賞活動につなげることができた学習者も多く、興味をひくことができる題材の設定と工夫は成果があったと考える。
- (2) これまで美術で学習した既習事項や他教科で学習した内容をも知識として取り入れ、鑑賞活動に活用する学習者が多くみられ、見方や感じ方を広げることができたと考える。教師による声掛けでは、各グループでの鑑賞活動での発言を聞きとったり、教師が問い返したりすることでその発言内容の意図について思考を広げることができた。
- (3) (1)にもあったように、学習者はICT機器の特性を生かして作品画像の細かな部分まで拡大しながら観察するなど、鑑賞作品の全体や詳細に注目し、色や形をもとに様々な事象を発見することができた。そのため、作品の色や形、構図、線などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などをもとに全体の印象や作風で捉えて、西洋絵画にどのように生かされているのか、考えることができたと考える。

・以下学習者ワークシート…

【それぞれの共通点・相違点について生徒の学習プリントより】

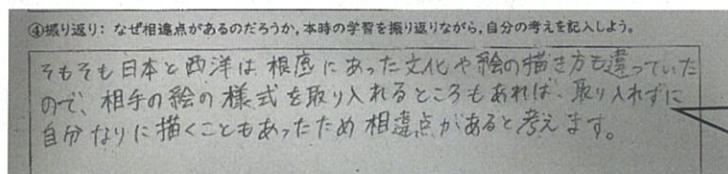


- ・【既習事項】の遠近法について触れることができています。
- ・線の違いについて気づくことができています。



- ・色や創造的な工夫(平面的・立体的)に気付くことができています。

【振り返りについて生徒の学習プリントより】



・各国の文化の違いに気づき、自分の考えを記述できている。

前期の課題

- (1) 将来、多くの学習者が表現することよりも鑑賞する機会の方が多くなる。そのため、学習者が将来作品鑑賞をする際に、自らの思いや考えを他者に向けて積極的に発信することを通して、主体的に楽しむことができることができるように、今後に対話型鑑賞の研究を行っていきたい。
- (2) 今回の授業内容では、一部の学習者では目でみえる共通点・相違点を見つけることはできるが、「なぜ、そのように考えたのか。」「どこをみてそのように考えたのか。」という、根拠となる部分を深く考えることが難しい学習者もいた。学習者の「思考力・判断力・表現力」は教師の言葉かけの改善と授業展開、ワークシートの工夫ひとつで大きく変化するため、そのための研究は継続していく必要がある。
- (3) 今回の題材では、色や形に注目しながら「何色をしている」「どんな形をしている」という、目に見えるものの色や形のみにとらわれている学習者が一部いた。「自分はこう感じた。なぜなら色や形が…だから。」という、なぜそう考えたのかという、その先の根拠や理由の部分まで辿り着くことができるよう、さらに研究が必要だと感じた。

後期の成果

- (1) 後期は、3年生を対象に「心でみて・触って・感じて・伝え合おう」という対話を重視させた触れる立体作品の鑑賞を行った。学習者が実際に五感を使って立体作品を鑑賞することと、実際に作者や学芸員の方との交流をすることで、学習者自身の興味を持たせる題材の設定の工夫となったと考える。
- (2) これまで経験したことのない題材での貴重な鑑賞活動で、立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、学習者なりの見方や考え方を深めていくことができた授業展開とワークシートであったと考える。また、ICT 機器を使つての作品制作の方法や材料、作品解説などから、より様々な見方や感じ方ができ、学習者の「思考力、判断力、表現力等」につなげる授業展開となった。
- (3) 今回の学習内容では学習者自身が作品を鑑賞して「見つけたこと」「気がついたこと」「考えたこと」から「疑問に思ったこと」へと思考を巡らせられるものとなった。それを踏まえて、振り返りでは「なぜそう感じたか」「どこをみてそう考えたのか」などの根拠をもとに思考・判断・表現できている学習者が多く感じた。

後期の課題

- (1) 前期同様、鑑賞活動を意欲的に楽しむことを通して、自らの思いや考えを他者に向けて積極的に発信できるように、今後に対話型鑑賞の研究を行っていきたい。また、実際の作品や作家・学芸員の方を巻き込んだ五感を活用した実践型の対話型鑑賞を研究していきたいと考える。
- (2) 後期の研究では、五感を活用しての対話型鑑賞であった。とくに、視覚を遮つての鑑賞活動では、触覚からの情報が全てとなるため、形の変化や質感などをより敏感に感じ取る鑑賞活動となる。学習者はより入念に作品の細部まで観察するなど、丁寧な鑑賞活動となっていた。そのため、その後のグループ活動でも意欲的に学習者同士の交流ができていたため、継続して研究していきたい。
- (3) 今回の研究では、学習者の興味をそそる題材の設定、授業展開やワークシートの工夫も思考・判断・表現を張り巡らせることのできる研究内容であった。また、評価の場面でも視界を遮ることで五感から実際に感じられたことから、疑問や思考・判断・表現につなげられることができていた。しかし、はっきりと

A・Bの判断までは難しいものとなった。

来年度に向けて

今年度は、実験的に平面作品と立体作品の鑑賞活動の研究を行なった。平面作品の鑑賞はモニターや ICT 機器を活用しての鑑賞活動であったため、機会があれば各美術館や博物館にご協力いただき、実際の平面作品を活用しての鑑賞活動ができれば、と考えている。実際の作品を鑑賞することで、対話型鑑賞教育の実践を目指したい。

作成者：安部 瞳（あべ ひとみ）

単元プランシート(美術科2年)

実施時期 6~7月

題材名		鑑賞 日本と西洋の関係を考えよう
題材の目標		比較鑑賞を通して、浮世絵のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか、なぜジャポニズムが起こったのか考え、話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。
評価 規 準	知・技	浮世絵の構図や色彩、線などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に全体の印象や作風で捉えて、西洋絵画にどのように生かされているのかを理解している。
	思・判・表	浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り、作品の意図や創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして、美術を通じた国際理解について考えるなどして、美術文化に対する見方や感じ方を深めている。
	主体	美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に浮世絵が西洋に影響を与えた理由を探るなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	比較鑑賞を通して、浮世絵のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか、なぜジャポニズムが起こったのか考え、話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知	① 鑑	① 態鑑

評価基準(思考・判断・表現に②について)	
B	A
浮世絵の造形的なよさや美しさの一つを感じ取り、創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付くことができる。	浮世絵の造形的なよさや美しさを三つを感じ取り、創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付いたりして、見方や感じ方を深めている。

【それぞれの共通点・相違点について生徒の学習プリントより】

①資料をみて、それぞれの共通点や相違点を探ろう。(個人の気づきは黒、時間の気づきは赤で書く)

共通点	相違点
風景画、知の広がり	色の濃淡 近代的、写実的 遠近法→西洋 写實的→日本、ゆとり、ゆき 線が太い

・【既習事項】の遠近法について触れることができている。

①資料をみて、それぞれの共通点や相違点を探ろう。(個人の気づきは黒、時間の気づきは赤で書く)

共通点	相違点
橋と草と水がある 人がいる 光と影がある 外の風景	色の濃さ 日本の作品は平面的だが 西洋の作品は立体的 輪郭の有無

・色や創造的な工夫(平面的・立体的)に気付くことができている。

【振り返りについて生徒の学習プリントより】

④振り返り: なぜ相違点があるのだろうか、本時の学習を振り返りながら、自分の考えを記入しよう。

そもそも日本と西洋は根底にあった文化や絵の描き方が違っていたので、相手の絵の様式を取り入れるところもあれば、取り入れずに自分なりに描くこともあったため相違点があると考えます。

・各国の文化の違いに気づき、自分の考えを記述できている。

美術科学習指導案

令和 6 年 6 月 28 日(金)第 5 校時

2 年 D 組 40 名

指導者 安部 瞳

1 題材名 鑑賞 日本と西洋の関係を考えよう

2 題材設定の理由

(1)教材について

- ・本題材は、浮世絵と西洋画との比較鑑賞を通して、日本美術が西洋美術にどのような影響を与えたのか、また、逆に西洋美術が日本美術にどのような影響を与えたのか、鑑賞しながら見方や感じ方を深めていく題材である。[共通事項]に示された造形的な視点を豊かにするための「知識」を活用して、日本の美術作品の表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取るとともに、西洋の美術作品と比較し、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めていくものである。
- ・また、学習指導要領では B 鑑賞 イ(イ)日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気づき、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。とある。比較鑑賞することを通して両国の伝統と文化に触れ、見方や感じ方を深めることで、学習者自身が日本の伝統と文化に誇りを持つことができると考える。また、小集団や学級で意見交流を行うことで、相互理解につなげることもできると考える。
- ・本学年は昨年の鑑賞授業の中で、ボッティチェリ作『春』を学習し、絵画作品を造形的な視点で捉え、細部や全体のイメージなど捉え、主題に迫るなど、造形的な見方や感じ方を広げる学習に取り組んでいる。また、本時までの学習のなかで、『遠近法』を学習しているため、本題材の鑑賞活動を通して、浮世絵の造形的なよさに触れ、美しさを感じ取り、創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして、見方や感じ方を深めることに適した題材であると考ええる。

(2)生徒について

- ・本時の学習を通して、日本特有の伝統や文化のよさや美しさをより身近に感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付かせ、自国の美術文化への愛情を深めるきっかけとなる学習としたいと考えている。
- ・本学級の学習者は、明るく前向きで、授業にも意欲的に参加することができる。また、制作活動では透視図法を取り入れ、作品に奥行や広がりを表現するなど、既習事項を作品に積極的に取り入れ、制作意図に応じて学習者の表現方法を追求し、創造的に表現することができる。
- ・その一方で、日本美術の鑑賞機会が少なく、少し抵抗感があるように感じた。その理由はアンケートで、「西洋の絵画作品と日本の絵画作品と、どちらが好きですか。」という質問に対して、52.5%の生徒が西洋の絵画作品の方が好きだと答えた。また、その理由を聞くと、西洋の絵画作品の方が美術館で鑑賞する機会が多く、描かれているものがより写実的なものに近く立体感を感じる。また、西洋の絵画作品の方が色彩豊かで制作意図も想像しやすいということがあげられたからである。

(3)指導について

- ・まずは、ゴッホの『日本趣味・雨の大橋』を見て、作者を予想させることで、意外性を持たせ、本時の学習への課題意識を持たせることができると考えられる。次に、浮世絵を見て、代表的な絵師と作品を紹介し、浮世絵の当時の役割や西洋に広がったきっかけなどを知る。
- ・つぎに、浮世絵と西洋画の資料を Chromebook で学習者に配布し、手元で拡大しじっくり観察しながらそれぞれを比較し、構図や色彩、線などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを視点に、

相違点や共通点に気付かせ、グループ内で「日本美術は西洋美術にどのような影響を与えたのか」を根拠をもって話し合い、自分たちなりに解釈していき、学級全体で意見交流を行う。Chromebook を活用することで構図や色彩、線に気づきやすく、グループ活動も活発に行え、見方や感じ方を深めることができると考える。

- ・最後に、振り返りとして相違点に触れ、「なぜ相違点があったのか。」について想像させ、より考えを深める振り返りとして。また、ルイ・ヴィトンの「ダミエ」や「モノグラム」の模様も紹介し、ジャポニズムが現代にも影響を与えていることを知る。そうすることで、日本絵画と西洋絵画の関係が身近なものであることに気付かせることができると考える。

3 題材の目標および評価規準

・浮世絵の構図や色彩、線などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に全体の印象で捉えて、西洋絵画にどのように生かされているかを理解できるようにする。

(知識及び技能)

・浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして、美術を通じた国際理解について考えるなどして、見方や感じ方を深められるようにする。

(思考、判断、表現力等)

・美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に浮世絵が西洋に影響を与えた理由を探るなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

(学びに向かう力)

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 浮世絵の構図や色彩、線などの性質やそれらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などを基に全体の印象や作風で捉えて、西洋絵画にどのように生かされているのかを理解している。	鑑 浮世絵の造形的なよさや美しさを感じ取り、作品の意図や創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との相違点などに気付いたりして、美術を通じた国際理解について考えるなどして、美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造的活動の喜びを味わい主体的に浮世絵が西洋に影響を与えた理由を探るなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

様式2 指導と評価の題材計画

時	主な学習活動・ねらい	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
本時	○比較鑑賞を通して、浮世絵のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか、なぜジャポニズムが起こったのか考え、話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知			① 鑑	① 態鑑	ワークシート 行動分析

①…形成的評価。記録に残さず、学習者の達成度を確認し、授業や単元計画の調整を行うための評価。

①…総括的評価。記録に残し、成績に反映させる評価。

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

・ワークシートの記入が進んでいない(相違点と共通点を見つけない、それぞれの特徴を見つけるだけになっている)生徒には、構図や色彩、線など、造形的な違いについて具体例をひとつ指示してアドバイスをを行う。

様式3 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ (1 / 1)
 (2) 題材名 鑑賞 日本と西洋の関係を考えよう
 (3) 本時のねらい

比較鑑賞を通して、日本美術のどんなところが西洋に衝撃を与えたのか、なぜジャポニズムが起こったのか考え、話し合ったり発表したりしながら見方や感じ方を深めることができるようにする。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点 ()	評価
10	1. ゴッホ『日本趣味・雨の大橋』を見て、作者を予想する。 2. ゴッホについて簡単な解説を聞き、理解する。 3. 浮世絵を見て、当時の役割や、西洋に広がったきっかけやジャポニズムについて知る。	○クイズ形式で様々な意見を聞きだす。 ○ゴッホの資料を見せ、簡単に解説をする。 ○代表的な絵師と作品の紹介をする。 ○浮世絵が、歌舞伎役者や相撲力士の写真代わりに使われていたことや、輸出品の緩衝材として使用されていたこと、パリ万博をきっかけに日本美術が西洋に広がり、多くの美術家にも影響を与えたことを教える。	
浮世絵と西洋絵画を比較し、見方や考え方を深めよう。			
5	5. グループで浮世絵と西洋絵画を比較して相違点や共通点をワークシートに書きだす(そう考える理由も記入する)。	○浮世絵と西洋絵画の資料をクラスルームに配布し、それぞれの構図や色彩、線に着目させて相違点や共通点を書かせる。 ○ワークシートには、個人の気づきも書かせる ○資料を見て比較しながら話し合わせる。 ○いい話合いの様子を全体に拡散するように紹介する。	【ワークシート】 【机間指導】
5	6. なぜこのような共通点があるのか考え、自分なりの解釈を個人のワークシートに記入する。	○浮世絵と西洋絵画を比較して、造形的な特徴やそれぞれの相違点を通して気付いたことや考えたことを記入させる。 ○数名に意見発表をさせる。	
15	7. グループで日本美術が西洋美術にどのような影響を与えたのかを、話し合い自分たちなりに解釈してみる。	○資料をみて、造形的な特徴やそれぞれの共通点や相違点に着目させながら、どのような影響を与えたのか考える。	【ワークシート】
10	7. グループで導き出した解釈を発表する。	○造形的な視点で考えられていたり、影響を与えたポイントに気付くことができている解釈はリポートして紹介しながら進行する。	
5	8. 振り返りを記入す	○本時振り返りとしてなぜ相違点があるのか、自分	

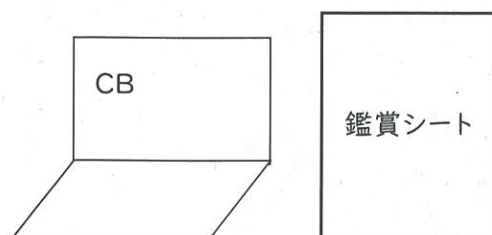
2	る。 9.学級全体で振り返りを行う。	の考えを記入する。 〈例〉それぞれの国の考え方や文化の違い,環境の違いによって「美しい」と感じる色や形,構図に差が生じるから。	
---	-----------------------	--	--

(5)「思考・判断・表現」の評価基準

B	A
浮世絵の造形的なよさや美しさを一つ感じ取り,創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付くことができる。	浮世絵の造形的なよさや美しさを三つ感じ取り,創造的な工夫などについて考えたり同時代の西洋絵画との共通点や相違点などに気付いたりして,見方や感じ方を深めている。

(6)学習記録計画

黒板 【鑑賞】『日本と西洋の関係を考えよう』 めあて 浮世絵と西洋絵画を比較し,見方や感じ方を深めよう。 ★注目ポイント 構図や色彩,線 振り返り		TV PowerPoint 浮世絵と西洋絵画の資料
--	--	---------------------------------



日本と西洋の関係を考えよう

2年()組()番 なまえ()

①資料をみて、それぞれの共通点や相違点を探ろう。(個人の気づきは黒、仲間の気づきは赤で書こう)

共通点	相違点

②なぜ①のような共通点があるのだろうか？

③日本美術は西洋美術にどのような影響を与えたのだろうか。根拠を持って自分たちなりに解釈をしよう。



④振り返り：なぜ相違点があるのだろうか，本時の学習を振り返りながら，自分の考えを記入しよう。



美術アンケート

2年（ ）組（ ）番 なまえ（ ）

授業に活用したいので、アンケートに協力してください。

① 絵画作品を鑑賞することは好きですか。

はい ・ いいえ

② 西洋の絵画作品と日本の絵画作品のどちらを鑑賞する機会が多いですか。

西洋の絵画作品 ・ 日本の絵画作品

② -1 西洋の絵画作品と、日本の絵画作品と、どちらが好きですか。

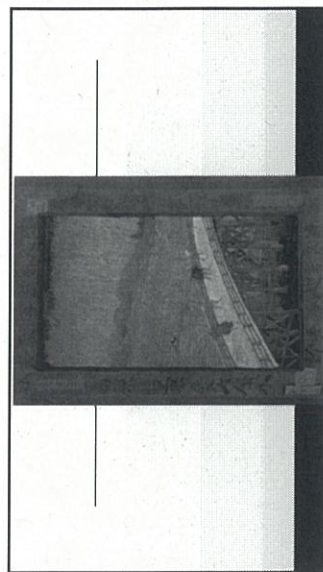
西洋の絵画作品 ・ 日本の絵画作品

② -2 ②-1の理由を詳しく教えてください。

③ それぞれの作品の印象を詳しく聞かせてください。

西洋の絵画作品	日本の絵画作品

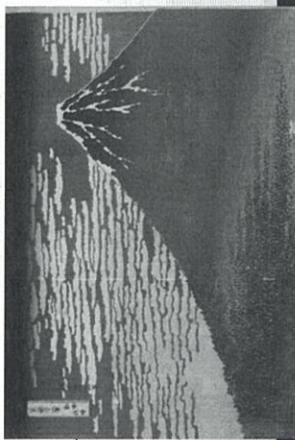
クイズ!
次の作品の作者
は誰でしょう?

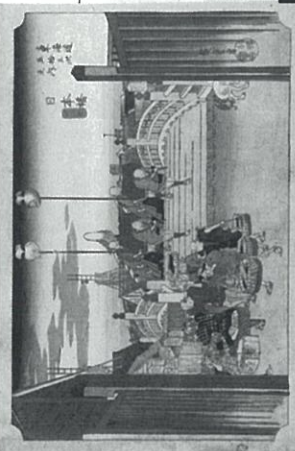
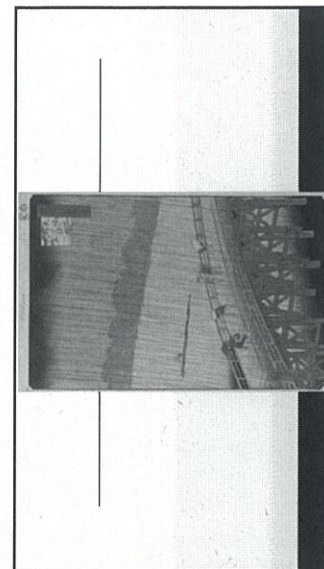
正解は…
ヴァンセント・ファン・ゴッホ
Vincent van Gogh



葛飾北斎



歌川広重

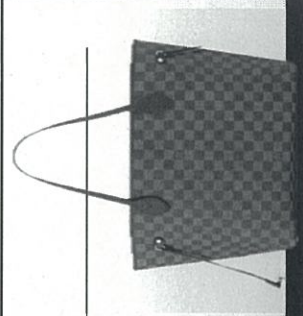



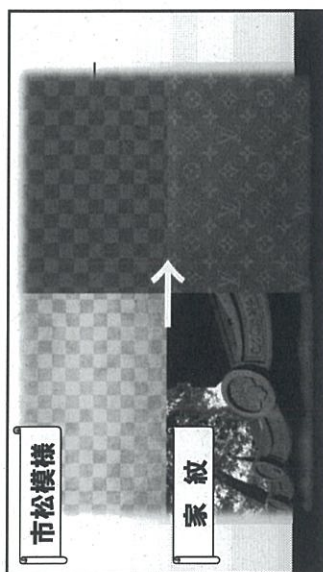
鑑賞
日本と西洋の関係を
考えよう

【資料】



ダミエ





美術科学習指導案

令和7年2月14日(金), 18日(火)第2~5校時

3年 39~40名

指導者 安部 瞳

1 題材名 鑑賞 心でみて・触って・感じて・伝え合おう

①彫刻作品を“さわる”“感じる”“伝え合う”鑑賞

②彫刻作品を自分なりの視点を持って“みる”“さわる”“感じる”鑑賞

2 題材設定の理由

(1)教材について

- ・本題材は、五感を使って立体作品を鑑賞し、実際に作者や学芸員の方との交流を通して、立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、自分なりの見方や考え方を深めていくものである。
- ・また、今回、実際に立体作品の実物を鑑賞することで、教科書では見ることのできない、作品の後ろの部分や構造などを直接手でふれて鑑賞する。視覚だけでなく、直接作品に触れることで自分の手を通して作品の触感やぬくもりを味わい立体表現の楽しさを感じさせ、その美しさや仕組みについて体験させることは学習者にとっても貴重な体験となると考える。
- ・現在県内外で活躍している大分大学の村上佑介氏の彫刻作品を直接鑑賞し触れながら村上氏とコミュニケーションをとったり、大分県出身の彫刻家朝倉文夫氏の作品を間近で鑑賞し、朝倉文夫記念館の佐藤氏から作品について学んだりすることで、より一層作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などに迫り、見方や感じ方を深めることができるため、中学校3年生に適していると考ええる。

(2)生徒について

- ・本学年の学習者は、落ち着いた学習態度で、授業やグループ活動にも積極的に参加することができる。また、制作活動では、自身の作品をよりよいものにしていくために、時間をかけて細部にまでこだわって制作することができる。
- ・一方、鑑賞活動においては、グループ活動では自信をもって自分の意見を発表することができるが、学級全体では、自分の意見に自信が持てず、なかなか意見発表ができないことが課題である。学習者は、比較的楽しく表現活動には取り組んでいるものの、鑑賞活動において作品に対して進んで興味をもち、より深くその素晴らしさを味わうことやイメージしたものや感じたこと、自分の考えを他者に向けて自信をもって表現することに苦手意識があるようである。
- ・これらは、表現・鑑賞に関わらず、授業内で自分の意見を表現する機会が少なく、授業を安心して受けることができる雰囲気づくりが不足していることが原因と考えられる。

(3)指導について

- ・そこで、まずは美術館などで立体作品を鑑賞する際、どんなところに注目しているのか尋ね、生徒自体の作品に対する注目の仕方を理解し、その後の鑑賞活動へつなげられる活動とする。
- ・次に、村上氏・朝倉文夫記念館佐藤氏からの立体作品の触り方レクチャーを通して、触覚を通した鑑賞方法で多面的・多角的に作品を鑑賞していく。その際、学級ごとに視覚情報ありと視覚情報なしの2パターンの鑑賞を行い、両者の鑑賞方法や感覚についての違いについて観察する。
- ・直接作品を触っての鑑賞で各個人が感じたこと・見つけたこと・考えたことなどなんでもグループ内で意見交換を行う。その後、それぞれ村上先生や佐藤先生からの講義を聞いたり、質問をしたり、感想を共有したりすることで、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や考え方を深めていく。
- ・最後に、振り返りを通して、どのように考え方が変わったか、見方や考え方を深めることができたか考えさせ、より考えを深めることができると考える。

3 題材の目標および評価規準

- ・形や材料, 質感などに着目して, 作品の特徴を捉えることができるようにする。 (知識及び技能)
- ・五感を使った立体作品の鑑賞を通して, 立体作品から造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の表現の意図と工夫などについて考え, 見方や考え方を深め, 他者へ向けて表現することができるようにする。 (思考、判断、表現力等)
- ・作品から受けた印象を具体的に表現したり, 仲間の意見を聞いたり鑑賞する力を高めることができるようにする。 (学びに向かう力)

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
知 形や材料, 質感などに着目して, 作品の特徴を捉えることができる。	鑑 対話を重視させた鑑賞活動を通して, 立体作品から造形的なよさや美しさを感じ取り, 作者の表現の意図と工夫などについて考え, 見方や感じ方を深め, 他者へ向けて表現することができる。	態鑑 作品から受けた印象を具体的に表現したり, 仲間の意見を聞いたり鑑賞する力を高めることができる。

様式2 指導と評価の題材計画

時	主な学習活動・ねらい	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	評価方法
		知識	技能	発想や構想	鑑賞		
本時	○対話を重視させた鑑賞活動で立体作品を鑑賞し, 実際に作家とコミュニケーションをとったり, 作品に触れたりする活動を通して, 立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり, 作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして, 見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知			① 鑑	① 態鑑	ワークシート 行動分析

①…形成的評価。記録に残さず、学習者の達成度を確認し、授業や単元計画の調整を行うための評価。

①…総括的評価。記録に残し、成績に反映させる評価。

【努力を要する状況(C)に対する手立て】

- ・適宜机間支援を行い, 声かけをしながら学習者の意見を鑑賞シートに引き出す。

単元プランシート(美術科 3 年)

実施時期 2 月

題材名	鑑賞 心でみて・触って・感じて・伝え合おう	
題材の目標	対話を重視させた鑑賞活動で立体作品を鑑賞し、実際に作家とコミュニケーションをとったり、作品に触れたりする活動を通して、立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができるようにする。	
評価 規 準	知・技	形や材料、質感などに着目して、作品の特徴を捉えることができるようにする。
	思・判・表	五感を使った立体作品の鑑賞を通して、立体作品から造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考え、見方や考え方を深め、他者へ向けて表現することができるようにする。
	主体	作品から受けた印象を具体的に表現したり、仲間の意見を聞いたり鑑賞する力を高めることができるようにする。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
2	対話を重視させた鑑賞活動で立体作品を鑑賞し、実際に作家とコミュニケーションをとったり、作品に触れたりする活動を通して、立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができるようにする。	① 知	① 鑑	① 態鑑

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができる。	作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入ことができ、作者の表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる。

様式3 本時の指導

- (1) 本時の位置づけ (1 / 1)
 (2) 題材名 鑑賞 心でみて・触って・感じて・伝え合おう
 (3) 2/14(金) 18(火) 本時のねらい

五感を使って立体作品を鑑賞し、実際に作家とコミュニケーションをとったり、作品に触れたりする活動を通して、立体作品の造形的なよさや美しさを感じとり、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深めることができるようにする。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点 ()	評価
10	1. 本時の学習内容を確認する。	○美術館などで立体作品を鑑賞するとき、いつもどんなところに注目しているのか尋ねる。 ○本時の学習内容を学習者に知らせる。 ・立体作品を鑑賞していくことを知らせる。 ・めあてを確認させる。	
		彫刻作品をさわって・感じて自分なりの見方や考え方で伝え合おう。	
		○作品のさわり方について(村上先生／佐藤さんによるレクチャー) ・作品のさわり方 ・さわることで気づく観点 ・手袋の配布(18日のみ) ○注意事項の確認 ・大切な作品であること、作品周辺での動き	
13	2. 実際に村上先生・朝倉文夫氏の立体作品を鑑賞する。	○鑑賞の仕方の説明を行う。 ・目隠しをする人の動き ・目隠しの無い人の動き ・記録係は動画を撮る(いない場合はなし) ○村上先生・学生によるデモンストレーション ○何を意図して触るのか確認。 ・形, 触り心地, 温度感(ぬくもり), 質感 ○ペアになり, 1体につき3分間の鑑賞を行う。 (実際に作品に触ったりしながら, 様々な角度で鑑賞を行う。) これを4体分4~5回繰り返す。 ○机間支援を行い, 適宜声かけをしていく。 意見が出づらい生徒には声かけをしながら思いを引き出させる。	※ペア学習。1人は目隠しあり、1人は目隠しなしの状態で行う。 ※2/18(火)は前回目隠しをしていない学習者が目隠しを行う。
10	3 班でそれぞれの意見を伝えあう。	○班の席に戻り, 個人の意見をワークシートに記入する。(3分) ○お互いに感じたこと・考えたことを伝えあい, 交流する。(5分) ○仲間の意見は色ペンでワークシートに記入する。 ○机間支援を行い, 適宜声かけをしていく。 交流が手間どっている班には, 質問をしながら話を広げられるよう支援する。 ○さまざまな発言を引き出し, 受け入れ, 広げ, 何を言ってもよいということを確認させる。	【知・技】 形や材料, 質感などに着目して, 作品の特徴を捉えることができる。

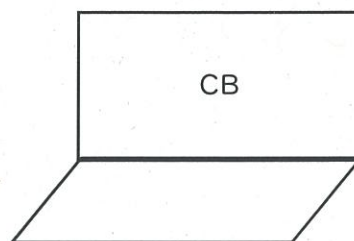
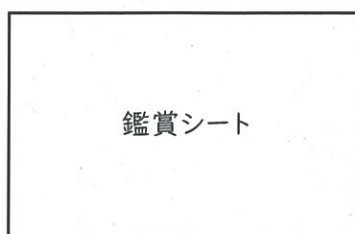
		①見つけたこと ②気がついたこと ③考えたこと ④疑問 など何でもいいので話してみよう!	
10	5 実際に作品をつくった村上先生や佐藤さんの講義を聞く。(質疑応答含む)	○実際に作品をつくった村上先生・佐藤先生の講義を聞き、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や考え方を深める。 テレビモニター パンフレット等の資料 ・技法や材料について ・作品の説明 ・彫刻で表現する意義など	
7	6.ふりかえりを行う。 仲間の意見や村上先生の話聞いて、どのように考えが深まったか、記入する。	○振り返りとして、Google フォームに回答する。 どのように考え方が変わったか、見方や考え方を深めることができたか、考えさせる。 ○机間支援を行う。 ○振り返りを数名に発表させる。 【例】作品を鑑賞するには、ただ見るだけでなく、材料や質感にまで意識をもち、作者がどんな思いを込めて制作したのか考えながら鑑賞するとより考え方を深めることができる。 ○アイマスクあり、記録係は教室を出るときにじっくり作品を鑑賞するよう伝える。	【主学態】 ・作品や鑑賞に対して興味をもち、積極的に鑑賞活動・話し合い活動に参加できる。

(5)「思考・判断・表現」の評価基準

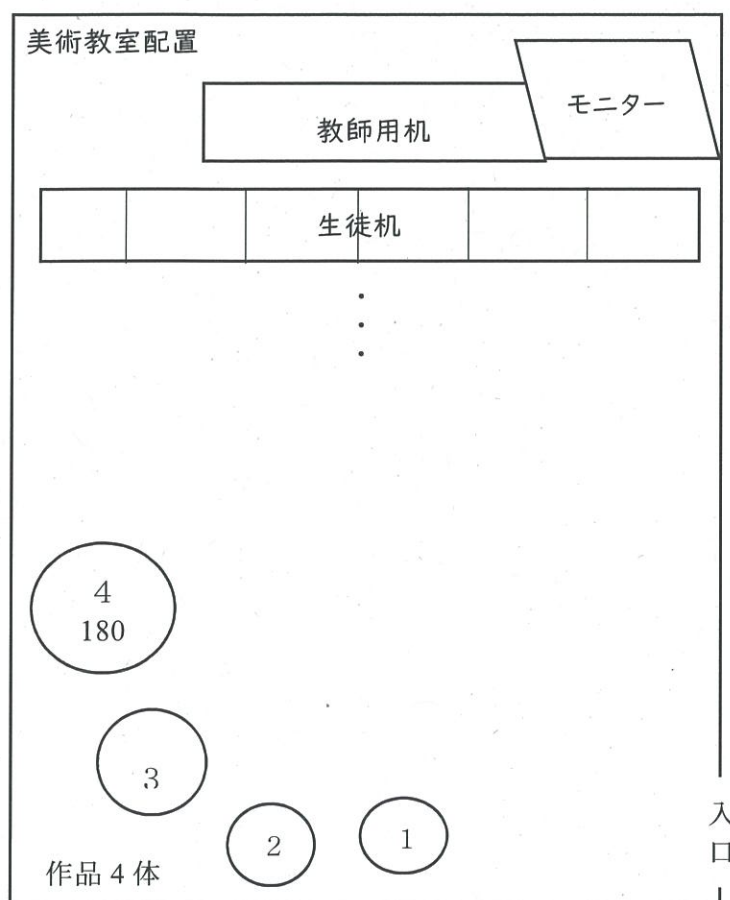
B	A
作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができる。	作品の特徴からワークシートに作品の造形的なよさに着目した根拠をもとに自分の意見を記入することができ、作者の表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めることができる。

(6) 学習記録計画

黒板	
【鑑賞】 心でみて・触って・感じて・伝え合おう	
めあて 彫刻作品を“さわって” “感じて” “伝え合おう”	
立体作品の触り方	作品の鑑賞方法



10 班 (4人)
 8 班 (5人) 2ペア+1人 (記録、交替制、クロームブック、動画)
 その場で5人グループをつくり、ペアを決めてもらう。
 ペア



鑑賞『心でみて・触って・感じて・伝え合おう』

3年()組()番 なまえ() グループ番号()



★鑑賞のポイント★

・触り心地 ・温度 ・質感
に注目して鑑賞しよう!



○実際に作品を触って… ※個人の意見はシャープペン、仲間の意見は色付きのボールペンで記入しよう。

・見つけたこと ※視覚情報… あり ・ なし	・気が付いたこと
・考えたこと	・疑問に思ったこと

○振り返り…Google フォームに入力してください。→→→→



授業改善のイメージ(音楽科)

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

曲にふさわしい歌唱表現の工夫

設定理由

歌唱活動は、単に声を出す技能だけでなく、多くの要素が絡み合って表現に辿り着く。楽曲を分析(アナリーゼ)し、分析したことを音楽で表現する。どのように音楽表現すべきか考え、その音楽表現が合っているのか、ふさわしいのかを判断する力(知覚・感受)を育てる必要がある。また、器楽曲と違い、歌唱曲には歌詞があり、曲想と歌詞の関わりも考えることで表現を深めることができる。オーケストラなどの鑑賞での楽曲分析だけでなく、歌唱曲においても曲想と歌詞の関わりなどから分析する力をつけることが必要である。そして、分析するだけでなく、自分が知覚・感受したことと、作曲家や作詞者の思いや意図との関わりを考えていく中で歌唱表現を深めていく力をつけるため、上記の内容を設定した。

授業改善の方針

曲にふさわしい歌唱表現をするために必要な要素を意識できるような授業を行う。

(1) 知識の定着と技能の習得

音符や楽語、発声や発音などは表現を深めていくための基礎となるので、定着につながる工夫をする。

(2) 音を形づくっている要素の知覚・感受につなげる学習形態

個、ペア、グループ、全体と形態を工夫し、表現の幅を広げる。

(3) 思考の流れが見やすいワークシートの工夫

曲のよさや特徴を感じ取り、自分の考えを持ち、パート内での共有を基本としていく。

これらを積み重ねていくことで、思いや意図を持って表現することの楽しさを味わってほしい。

年間計画

前期

後期

知識 音符や楽語 技能 呼吸法や発声

〈二年生〉

歌詞と音楽記号の関わりを考える

詩の内容に合った表現の工夫

〈三年生〉

歌詞と音楽記号、旋律との
関わりを考える

曲にふさわしい
表現の工夫

〈三年生〉

前期の成果

- (1) 発声については、全学年の生徒がどのような声がよいのか、目指す声の聴き取りはできている。パート練習を巡回する中で現状の課題を伝え、どのようにすれば目指す声に近づくのか、いろいろな方法をアドバイスした。その中で、自分に合った方法を見つけて技能を高めていた。発音については、語頭をはっきり言うことや鼻濁音など基本を押さえ(2・3年生は再確認)、1年生も意識して歌えるようになった。
- (2) 個で気づくことができなかった生徒も、ペアやグループ学習の中で、音を形づくっている要素の知覚はできている。

前期の課題

- (1) 音符や楽語の定着については、1年生にももう少し時間が必要と感じる。パート練習の中でも使うことができるよう促していく。発声については、1年生は呼吸法の理解と習得が難しく、体全体を使って歌うことができていないので、パート内やペアで確認しながら習得させたい。2・3年生は息を吐くことはできるが吸うことが難しい生徒が多くおり、毎時間の積み重ねが必要である。フレーズ終わりまでノンブレスで息を保つことや、リップロールなども併用していきたい。
- (2) 音を形づくっている要素の知覚だけでなく、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えられるよう、何となくこのように感じたではなく、音形や音域などにも注目し、根拠を持って説明できるようにさせたい。また、他者の考えを受けとめ、様々な感じ方、表現方法を知ることは重要なことなので、グループ活動を継続させたい。
- (3) 曲想や歌詞の変化が分かりやすい部分をピックアップし、曲の分析や表現を深めていこうとしたが、書くことに時間がかかりすぎた。項目が多かったことと、情報をつなぎ合わせながら考えることに慣れていなかったからではないかと考える。スムーズに思考できるような、工夫改善が必要である。

後期の成果

- (1) 音符や楽語は授業やテストからも改善は見られたが、今後も継続してさらなる定着に繋げたい。発声については、パート練習の中でリーダーを中心に息の吸い方や身体の使い方のアドバイスができ、上級生は長いフレーズを歌うことができる生徒が増えた。
- (2) 歌曲については、単旋律なのでパートではなくグループ活動を通して音を形づくっている要素に気づき、根拠をもって説明し、表現に繋げる姿が見られるようになった。(1年生)

後期の課題

- (1) 発声については、良い姿勢を保って歌うことに加え、息の流れや響きを安定させる必要がある。発音については、語頭だけでなく言葉のつながりや口輪筋を意識し、正確に歌詞が伝わるようにしたい。
- (2) このように歌いたいという思いをもつことはできたが、一人ひとりが楽譜を読み取り、歌唱表現を深めるところまではいかなかった。今後もペアやグループ活動などを通して、考え方や表現方法の幅が広がるようにしたい。
- (3) 後期のワークシートは、前期の反省を踏まえて、よりシンプルなものにしたが、生徒の思いや考えを十分に引き出せていないと感じる。丁寧な教材研究に加え、生徒の定着状況を見極めていくことが必要である。

来年度に向けて

今年度は、ワークシートの工夫改善を主に取り組んできた。創意工夫する活動の様子の観察だけでなく、どのような創意工夫をしたいのかが伝わるワークシートが必要である。後期の課題を達成できるよう、来年度もワークシートや発問を吟味し、生徒の力に繋げる授業をつくりたい。そして、限られた授業時間の中ではあるが、効果的かつ深い学びに繋がれるよう、新たな視点を持って改善していきたい。

作成者：田村 有実子(たむら ゆみこ)

音楽科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

2年D組 40名

指導者 田村 有実子

- 1 題材名 作曲家の心を動かそう～曲想や歌詞、声部の役割との関わりを考えた表現の工夫～
教材名 『花がほほえむ』 宮下奈都作詞・三宅悠太作曲

2 単元設定の理由

(1) 教材について

・作曲者が、作詞者の小説に感銘を受け、「今を生きる中学生へ届けたい言葉を」と依頼して生まれた混声3部の合唱曲である。曲は大きく3つのまとまりとなっており、基本は4分の4拍子だが、最後は4分の3拍子や4分の2拍子が盛り込まれ、印象付ける構成である。旋律は繊細かつ力強い言葉の語感を生かしてつくられており、その音程やリズムの変化に注目して表現を深めることができる。

・強弱記号、表情記号が細かく記されているので、歌詞との関連も考えた表現に繋げやすい。また、音域やリズム、主旋律を理解し、パートのバランスも考えながら演奏する必要がある。最初と最後はユニゾンなので、一体感を持って演奏しやすい曲である。ユニゾンの部分は、倍音が出ることも期待できる。

・主旋律がユニゾン、2パート、1パートと形を変えて演奏されるので、全員が主役になることができる。伴奏は合唱を支え、時には気持ちの高まりを誘導し、4つ目のパートとして重要な役割をもっている。伴奏の音型の変化も感じながら歌うことを味わうことができる。

(2) 学習者について

・合唱曲については、落ち着いた雰囲気曲を好む生徒が多く、音楽だけでなく歌詞にも注目して学習することができている。昨年度は年間通して歌唱活動ができており、呼吸法をはじめとした歌唱の基礎力がついてきた。また、意欲をもって授業に参加することで、知識を生かした技能の習得にも繋がり、強弱表現や響きのある歌声で歌えるようになりつつある。

・7月に実施した教科アンケートにおいて、歌曲の学習を通して、曲想を意識して歌う力、歌詞から風景を想像する力、情景を思い浮かべて歌う力、旋律だけでなく歌詞からも歌い方を工夫する力がついてきたと感じている。そして、歌唱テストでは、情景を思い浮かべながら表情豊かに歌い上げる生徒が多く見られた。今年は歌詞や思いを伝え、聴いている人の心を動かす演奏がしたいと考えている。

・本学級は歌唱を得意としている生徒、合唱の楽しさを味わうことができている生徒が多く、学年では46.2%の生徒が歌唱活動を一番楽しいと感じている。パート練習では、分からないことを聞いたり、意見を出し合ったりすることができており、満足感も得られている。

(3) 指導について

・呼吸法や発声は継続的な指導が必要であり、表現を深めていく中でも随時、呼吸や発声には触れて指導していく。伴奏との融合、それに伴う呼吸のタイミングや速さも考えさせたい。また、曲想や詩の内容に合った声質・ニュアンスを考えさせたい。

・旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、歌詞との関連も考えて表現を深めさせたい。そして、作曲者と作詞者の思いを歌詞や楽譜から読み取る力、なぜその強弱記号なのかなど疑問をもって考えることも定着させたい。詩の内容を生かした表現に繋げるため、ワークシートで思考を深めていく。

・多くの生徒は、一体感のある合唱をつくりあげることが目標としており、そのためには互いに聴きあってパートのバランスを考えることや歌詞の意味を考えて表情豊かに歌うことが大切であることを理解している。個人、パート、全体で考えや表現方法を共有し、音楽の中でどのように言葉を生かし、合唱としてつくりあげていくのかを考えさせたい。

単元プランシート(音楽科2年)

実施時期 8～10月

題材名	作曲家の心を動かそう～曲想や歌詞、声部の役割との関わりを考えた表現の工夫～	
題材の目標	曲にふさわしい歌唱表現を楽譜や歌詞から作曲者と作詞者の意図を読み取り、いろいろな表現方法を考える活動を通して、創意工夫して歌うことができる。	
評価 規 準	知・技	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ③ 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。
	思・判・表	① 旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、その関わりについて考えている。 ② 知覚・感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
	主体	①曲想や歌詞の内容、声部の役割と全体の響きなどに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に合唱の学習活動に取り組もうとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○曲との出会い 詩の内容、曲の特徴を感じ取る パートの音程と音の長さを正確に覚える①	① ワークシート		
2	○パートの音程と音の長さを正確に覚える②			① ワークシート
3	○楽譜や歌詞から作曲者と作詞者の思いを読み取る	① ワークシート	① ワークシート	
4 (本時)	○読み取ったことをどのように歌いたいと考え、パートで表現を深める	② 観察	② ワークシート	
5	○表現を深めるうえで必要な技能(強弱や発音、発声)を意識して歌う	② 観察		
6	○言葉の抑揚と旋律を活かした表現をする	② 観察 ワークシート	② ワークシート	
7	○パートのバランスを考え、美しいハーモニーをつくる	③ 観察		
8	○聴いている人の心に響く合唱をつくり上げる	③ 観察 ワークシート		① ワークシート

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
歌詞の内容や曲想を感じ取るとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱の働かせ方を試行錯誤し、表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を味わうとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱・音色(声色)の働かせ方を試行錯誤し、曲にふさわしい表現を工夫している。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(4/8)

(2) 題材名 言葉の意味や語感を生かした表現をしよう

(3) 本時のねらい

表現方法を、作曲者・作詞者の思いを読み取り、どのように歌いたいかについて考えるとともに、歌詞やリズム、音程の違いから表現を工夫する活動を通して、見出すことができる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
15	1 本時のめあてと学習内容を確認する。	○本時のめあてと本時の学習内容を確認する。 言葉の意味や語感を生かした表現をしよう ○パートで考えをまとめる。 ○パートで練習する内容を全体に伝える。	
20	2 パートで表現の工夫をする。	○パート練習をさせる。 ・2連と4連の歌詞の違いやリズム、音程の違いに気づき、言葉との関連を考え、表現できるようにする。 <予想される考え> 2連「やさしくなりたい 強く生きたい」 4連「ありったけの勇気を 勇気を出して」 *4連の方がより気持ちが強い言葉 音の跳躍、リズムにも変化が見られる。 (付点、16分音符、シンコペーション、休符) 4連はより力強く歌いたい。(特に「勇気」) 2連「あなたが～みていたから」 4連「それぞれの道～まじわったらいいな」 *4連の方がより気持ちが高まり、前向きな言葉 音の跳躍、リズム(16分音符と8分の違い、休符) 62・63小節目のリズムが各パート違うことが「それぞれの」を表現している。	
10	3 各パート発表、アドバイスをする。	○パート別の発表を聴き、アドバイスをする。 (数名発表)	
5	4 振り返りを行う。	○本時のめあてに対する振り返りをさせる。 表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したことを記入する。	[ワークシート] イー②

(5) 本時の評価基準

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
歌詞の内容や曲想を感じ取るとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱の働かせ方を試行錯誤し、表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を味わうとともに、表したい思いや意図をもち、旋律・テクスチャ・強弱・音色(声色)の働かせ方を試行錯誤し、曲にふさわしい表現を工夫している。

曲想や歌詞, 声部の役割との関わりを考え, 表現を工夫しよう

曲名「花がほほえむ」

宮下奈都作詞/三宅悠太作曲

1. この曲の雰囲気はどう感じますか。

--

2. この曲には、どういう思いや願いが込められていると思いますか。

--

3. 2連と4連のはじめとおわりについて表現を深めましょう。

自分のパート()

♪楽譜から読み取れること

♪作曲者の意図



♪歌詞から感じること

♪作詞者の意図



	どのように歌いたいか	そのために必要な技能
自分の考え		
パートの考え		

2年D組()番 名前()

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

5. 振り返り ②

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

やさしさって何

強いつてどういうこと

僕らは何度も試される

そのたびにつまずいて、転んで、膝を抱えて

間違わないように息をひそめて

後ろ足で砂を蹴る

伸ばした右手が空を切る

やさしくなりたい

強く生きたい

誰にもわかつてもらえなくても

あなたにだけはあなたがわかる

僕にも少しあなたがわかる

あなたがうずくまるのを

そして何度も立ち上がるのを見ていたから

間違つてもいい

正解はたぶんない

それでも探し続ける

やさしさって何

強いつてどういうこと

ありつたけの勇気を出して

世界中に散らばったやさしさと強さのかけらを

見つけにいく

ひとりひとりにそれぞれの答え

それぞれの道 光 誇り

どこかで交わつたらいいな

いつか僕の勇気に花がほえむように
あなたのやさしさに星が輝くように

2年D組()番 名前()

16

窓を切る

やさし くな

やさし くな

やさし くな

49

ありつ たけの男 気を

ありつ たけの男 気を

ありつ たけの男 気を

19

り たい つよく 生 きたい

り たい つよく つよく 生 きたい

り たい つよく 生 きたい

52

男 気 を 出 して

男 気 を 出 して

男 気 を 出 して

28

あなたが わか ーる

し すこ し わ か ーる

あなたが わか ーる

61

こ た え そ れ ぞ れ の み ち ひ か り ほ こ り

こ た え そ れ ぞ れ の そ れ ぞ れ の

こ た え み ち ひ か り ほ こ り

31

まるのを そして なんども 一立ち上 がるのを 見ていた か

まるのを そして なんども 一立ち上 がるのを 見ていた か

まるのを なんども 一立ち上 がるのを 見ていた か

64

どこかで まじわつたら いいな

どこかで まじわつたら いいな

どこかで まじわつたら いいな

35

ら

ら

2年D組()番 名前()

A 評価

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

「やさしい」と「強い」、「元気」という言葉がそれぞれ相手に伝わるように、「やさしい」は包みこむように歌い、「強い」「元気」は前のめりに少しくなって明るさや元気が分かるように歌いました。しかしまだ表情豊かにはできていなかったのも、次は語感と一緒に表情も大切にしていくようにしたいです。また、表現を深めるには自分のパート以外にも聞くことが大切だと知ったので、次回はその意識をしたいと思います。

4. 振り返り ②

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

「1連と5連は歌詞が似ているけど、1連よりも5連の方が雰囲気」が明るく、軽やかになっていると感じました。
でもけっして弱いわけではないので、最初の言葉（めぐる風）（すばらしい）などの発音をはっきりさせて、力強く歌いました。
これからも記号や雰囲気に気をつけて歌いにいきます。

試行錯誤し、音色（優しく包み込むような声、力強い声）まで考えた表現をしている。

B 評価

4. 振り返り ①

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

詩の言葉の中で大切だと感じるものを強く歌った。

自分で強く歌うと決めて意識しながら歌うと、強弱がはきりした。

強く歌うときはおなかに意識すると良くなった。

「ほきたい」という願望と、「元気」という3回も連続で歌詞に出てくることは強く歌った。

4. 振り返り ②

<表現を深めていくうえで考えたこと、工夫したこと>

・自分では強弱をもっと意識して、2連と4連の差をつけたけれど、他の人から聴くと、ほとんど同じように聞こえていたことが分かりました。次回はさらに強調し、他の人が聴いても、差が分かるようにしたいと思います。

(工夫したこと) 強弱

試行錯誤しているが、強弱までの表現に留まっている。

単元プランシート(音楽科 1 年)

実施時期 11月

題材名		歌詞の情景や曲想を感じ取り, 表情豊かに歌おう
題材の目標		曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え, どのように歌うか表現方法を試行錯誤する活動を通して, 創意工夫して歌うことができる。
評価 規 準	知・技	① 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声, 言葉の発音, の技能を身に付け, 歌唱で表している。
	思・判・表	① 旋律, 強弱, 速度を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
	主体	①歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	○詩を朗読し, 詩の情景を味わう。 ・どのように歌いたい各各自で考える。 ・表現を深めるために必要な要素を考え, グループで共有する。	①	① ワークシート	①
2	○発表会に向けてグループで工夫することを確認し, 互いに聴き合い, 練習する。 ・他のグループの演奏から, 良かった点や改善点を聴き取る。	②		① ワークシート

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
歌詞の内容や曲想を感じ取るとともに, 表したい思いや意図をもち, 旋律・強弱・速度の働かせ方を試行錯誤し, 表現を工夫している。	歌詞の内容や曲想を味わうとともに, 表したい思いや意図をもち, 旋律・強弱・速度・音色(声色)の働かせ方を試行錯誤し, 表現を工夫している。

A 評価

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

【自分の考え】
声の強弱を意識することは、表現を深められると
思ふ。また、赤とんぼは1番太い音がmfなので、深みのある声で歌
【班の考え】
→下でしるべき！
1179

【班の考え】

④ $\gamma = \text{トド} - \text{ルエル}$

発音と強弱を意識しながら歌う

強弱に加え、声色についての工夫も見られる。

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

・ 田にはんをのりる (そうすてゆかに煮てのふいんきにする)

【班の考え】

＜ 解ありのとき、少し(1)上17分(変化を2人17分、1人10分、7分とよ)±(2)か出る(と、17分)

思ふとくま

· 張好仁

強弱に加え、音色（余韻）についての工夫も見られる。

B 評価

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

引張弱く、速さを工夫すればきつと思へば
(中、引強く、ゆっくり)

【班の考え】

ふたのさへをききぬ、くつ

よくたうり

強弱、速度の工夫が見られる。

2. 表現を深めるため、他に必要なことは何だろう。

【自分の考え】

音程の上バリ下バリのときに、同時に乗せる

クレジット・デビットを
意識する

【班の考え】

今昔、作曲者、作詞者の想いを読み取る

音 〃 强 弱

旋律、強弱の工夫が見られる。

授業改善のイメージ(保健体育科)

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

各領域において発生する課題に対して、合理的な解決に向けて取り組み方を工夫する力を養う。

設定理由

保健体育の授業において学習者が「わかる」「できる」の実感を得ることで、運動や活動の「楽しさ」につなげることができる。ただし、そのためには基礎的な知識や技能の習得と、活用のためのプロセスを経ることが重要である。そのため、本研究では、学習者の学びにおいて生じる課題を解決するために知識を活用したり、応用したりすることを通して、思考して判断したことを他者に言葉や文章および動作などで表現することができるような活動場面を設定する。それによって、学習者自身の「わかる」「できる」の実感に結びつけることを目的としている。

授業改善の方針

(1) 課題を発見し、合理的な解決を促すための見通しを持った単元計画の作成

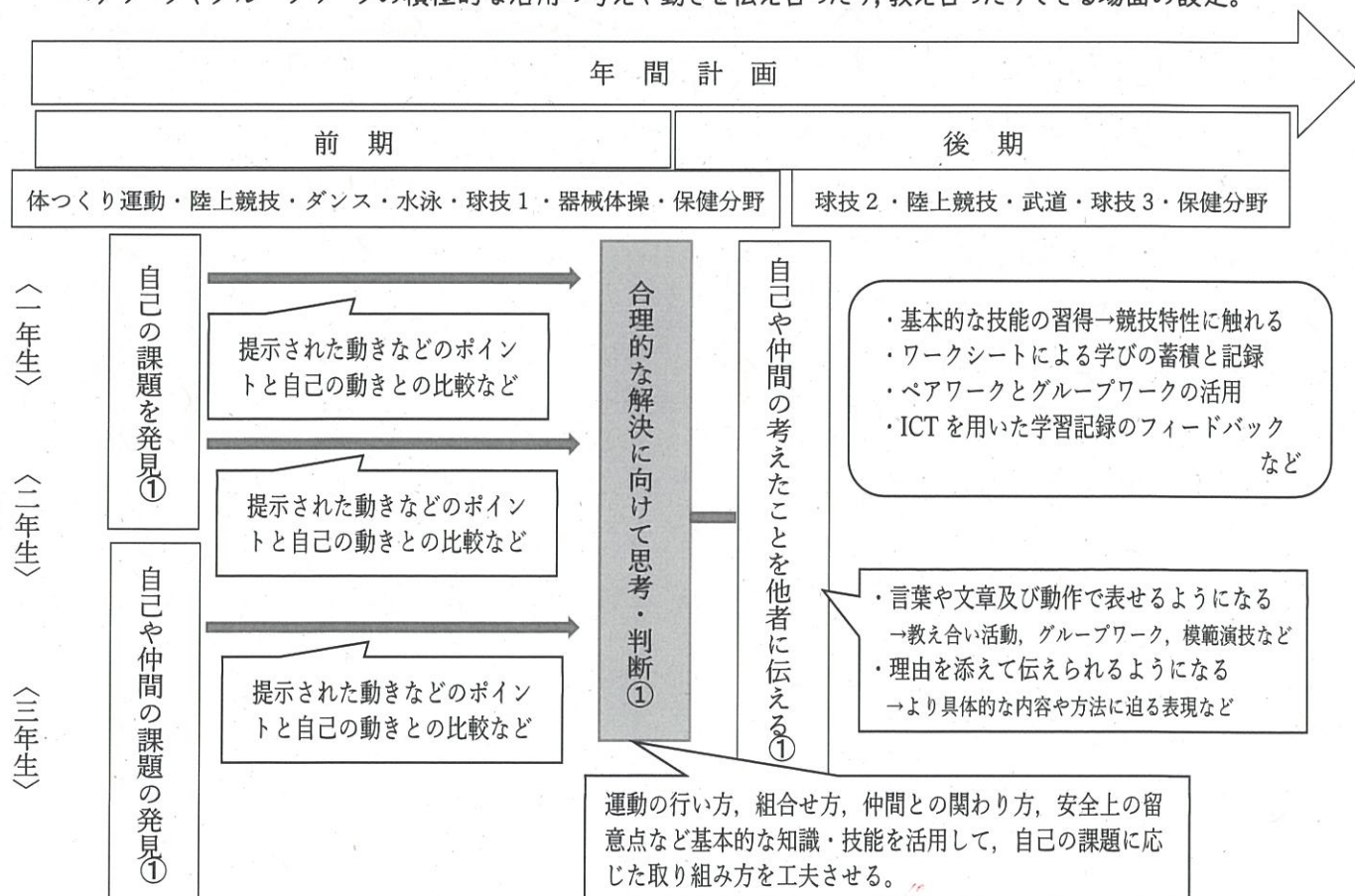
- ・解決の方法を授業者が示すためには深い教材理解が必要→授業改善の視点を増やせる。
- ・見通しを持った単元計画の作成→評価の観点を明確にし、授業における評価の方法を具体化する。

(2) 「思考・判断」を促し、視点を明確にするためのワークシートの工夫

- ・領域の学習内容に即したワークシートの作成→自分の考えを具体化できるように視点を明確にする。

(3) 学習活動をスムーズに進行するための授業規律の徹底

- ・持ち物の準備や管理、集団行動などの授業規律の徹底→道具の管理や行動の迅速化が時間を生み出す。
- ・ペアワークやグループワークの積極的な活用→考えや動きを伝え合ったり、教え合ったりできる場面の設定。



前期の成果

(1) 課題の発見のために活動に対して視点や目標を持って取り組むことができた。

2年生の〈水泳：平泳ぎ〉では、「自身の現時点での泳力を測り、課題を解決するための練習を進める。」際に、スムーズなキックによって水中の推進力を得る事や、プルからのコンビネーションを連動させることを目指して学習に取り組んだ。元々の自身の泳力を基準にしているため目標設定がしやすかった。

(2) 自己の動きに対して動画資料や技能の高い学習者を見本にするなどして、課題を明確にすることができた。

2年生の〈陸上競技：リレー〉では、ワークシートに技能のポイント写真を写真やイラストを添付することで、どのような動きがスムーズなバトンパスにつながるかを考えながら学習することができた。また、1年生の〈器械運動：マット運動〉では、技能のポイントを授業者が押さえる以外にも、学習者から「この時に足を開く」、「重心が前に向かうようにする」などの考えを取り込み、技のポイントとして掲示した。

3年生の〈水泳：背泳ぎ〉では、背浮きの姿勢に恐怖感を感じる学習者もいるなど、広い内容で学習方法を設定する必要があった。ビート板を抱えながら浮く練習から始まり、ペア学習で背浮きの姿勢を補助してもらうなどして、技能の形態に慣れることから始めた。また、1年生の〈器械運動：マット〉においても、練習のための場（坂道マットや足打ちゴムの設定など）を工夫することで、自己の課題に応じた学習を選択することで、練習方法にもペアやグループごとの工夫が見られた。特に、段階的な指導（スモールステップ）は初めての学習活動にも前向きな姿勢が見られる効果があった。

(3) 話し合い、教え合いの場面を通して、共に学び合う姿が増えた。

前期の学習において、様々な場面でペア・グループ学習の場面を設定した。その中で、運動の行い方、組み合わせ方、仲間との関わり方などを共に意見を伝えながら取り組む様子や、撮影した動画から意見を伝え合ったり、実際の試技の様子を話し合ったりする姿がよく見られるようになった。以降の球技の学習においても交流を通しての意見交換が多く出ている。

前期の課題

(1) 単元を通して身につけさせたい力を明確にする。

各学年の授業において、単元を通して身につけさせたい力を明確にすることが求められる。単元プランに設定した単元の目標を達成するための学習活動とするには、授業において評価する観点と評価の場面の設定が的確かどうかを考えていくことが重要である。2年生の〈水泳：平泳ぎ〉では、より効率よく進める泳ぎ方について、身体の動かし方やコンビネーションなどを見直し、練習方法を選択する場面で学習者の取り組む練習が適切かを見取る場面が設定できなかった。授業者や学習者同士で自身の学びの手段を見直す機会を持てると更に、学習者の学びが深まると考えられる。

(2) 評価の方法がワークシートに依るところが多い。

ワークシートの記入内容が具体的であるか、または根拠が示されているかが評価の基準となった時に、文章表記が苦手と感じている学習者に対して評価方法の多様な面も求められる。「自己の課題を発見する」ための発問や、視点を明確にすること、さらに活動時における学習者の発言をお互いに伝え合い、発見し合う視点を持たせることも有効であると考えられる。

(3) 活動時間の確保と評価場面の設定。

話し合いや教え合いの場面を設定し、ワークシート等に記述などの時間を設定した時に、学習者の運動時間の減少が見られることがあった。1年生の〈器械運動：マット運動〉において、自身の課題の合理的な解決に向けて学習を進める中で共に学ぶ学習者からアドバイスや声かけを受けて、さらに練習を深めたいところで練習時間が足りなくなる場面があった。その授業における評価の観点を明確にし、実際の学習の様子（発言や行動、運動時の姿）からチェックできるようにすると評価材料の確保にも繋がると考えられる。

後期の成果

(1) 課題に対して合理的な解決に向けた活動場面の設定の効果。

2年生の〈球技：バスケットボール〉では、基礎基本の技能を習得するためのドリルや、それを活用したドリルゲームを実践した。それによって、ゲームを成立させるために必要な技能に対する学習者の修得状況を把握でき、より明確に自身の課題をつかむことができた。解決に向けて、チームで練習を工夫したり、お互いにアドバイスを伝え合ったりする場面も見られるようになった。

(2) 技能の習得ポイントを明記した学習における視点の広がり。

2年生の〈球技：ソフトボール〉のワークシートにおいて、基本的な技能の習得状況をチェックできる「技能レベル」を設定した。自身の技能の習得状況を記録するだけでなく、技能のポイントを共有することで、他者の技能から学ぶや改善点を見つけるための材料となった。また学習者の思考・判断の場면을学習者同士が見取り合えるように、授業の課題において視点を共有した。

(3) 学習活動のルーティンを形成することによる切り替えの徹底。

2, 3年生の〈球技：ソフトボール〉では「ペアでウォーミングアップ→チームで課題解決のための練習→ミニゲームで実践→チームでミーティング」という学習の流れが形成されることによって、活動への切り替えがスムーズになった。また、使用する用具をあらかじめグループ分設定し、個人の学習用具をチームボックス等で管理することで活動の準備等も手際よく進められ、それぞれの活動の時間確保にもつながった。

後期の課題

(1) 学習者の学習状況に即した課題の設定。

運動経験に乏しい学習者も多く、基本的な技能の習得を図る場面を設定することが大切となる。ただし、学習内容では技能を身に付けるための課題の設定や、身に付けた技能を生かした学習活動を組み込むことによって、単元を通して題材の特性に触れる機会を確保しなければならない。また、学習者同士が教え合い、伝え合う場面の設定はどの題材においても重要である。

(2) 単元を通したワークシートの活用。

ワークシートの内容については、技能のポイントを記載したり、学びの視点を明確にさせたりなど一定の効果は感じられた。単元を通して、学習者の記録を蓄積させるためにはワークシートの活用が効率的である。しかし、Google classroom を用いたワークシートの活用が不十分だった。3年生の〈器械運動：マット運動〉において、技の撮影動画の提出などはさせたが、学習状況の把握については、紙媒体と ICT のワークシートを活用していくことが求められる。

(3) ペア・グループワークの活用と運動量の確保。

保健体育の教科的特性において、ペア・グループワークは活動において必須である。技能の習得だけでなく、思考・判断を促進させるための話し合いや伝え合い活動はもとより、用具の準備・片づけなどをスムーズに行うことで運動量の確保にもつながる。2年生の〈球技：ソフトボール〉では、「伝え合う」ことをテーマに単元後半の学習に取り組んだが、場面の設定次第では運動量の減少も見られた。また、Chromebook を用いる際も時間が必要以上にかかる様子が見られた。

来年度に向けて

今年度の本校の研究テーマである〈見通しと振り返りの往還による授業改善～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～〉において、保健体育科では、自己の課題に気づくための発問や、合理的な解決に向かわせるための手立てについて研究を進めた。授業で取り扱う題材の特性と学習者の状況を踏まえて構成した。保健体育の授業の特性上、技能のポイントを教え合ったり、作戦や気がついたことを伝え合ったりする場面は設定し易くはあった。来年度は、課題に向かわせるための発問と、ワークシートの作成における ICT のさらなる活用が求められる。また、単元プランを作成することによって、単元を通したゴールを設定し、見通しをもった授業計画を立てることも継続していきたい。

作成者：木梨 祐司(きなし ゆうじ)・浅井 宏章(あさい ひろあき)・下川 拓己(しもかわ たくみ)

単元プランシート（ 保健体育科 1年）

実施時期 6月

単元名		陸上競技（短距離走・リレー）
単元の目標		(1) 滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせることができる。 (2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 (3) 積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。
評価 規 準	知・技	①短距離走やリレーの特性や成り立ち、技術の名称や行い方について理解している。 ②加速してバトンを受けることのできるタイミングで走り始めることができる。
	思・判・表	①加速してバトンを受けるための自己の課題を発見することが出来る。 ②タイミングの良いバトンパスについて気付いたことを他者に伝えている。
	主体	①陸上競技の授業に積極的に取り組もうとしている。 ②一人ひとりの技能の差や、仲間の挑戦を認めている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1～2	○早く走るためのポイントを理解し、50mのタイムを計測する。 ○加速走を行い、リレーでのチームの目標を立てる。	①		
				①
3～6	○チームで試しのリレーを行い、課題点の発見と目標値の設定を行う。 ○タイミングのあったスムーズなバトンパスの方法を確認し、チーム内で練習を行うなかで自己の課題を発見する。 ○走り始めのタイミングに着目し、自己に合ったスタートのタイミングを見つける。 ○記録を計測し、修正点を話し合う。 修正点をもとにグループでの練習を行う。		①	
		②	①	
			②	②
			②	
7	○最終のタイム計測を行う。	②		①
外	定期テスト	①テスト		

評 価 基 準（思考・判断・表現等について）		
	B	A
①	自己の課題について技能のポイントを視点に説明している。	自己の課題について複数の技能のポイントを視点に説明している。
②	仲間のバトンパスについて気付いたことを技能の母音とを視点に伝えている。	仲間のバトンパスについて気付いたことを ICT 機器やワークシート、ジェスチャー等を活用しながら伝えている。

単元プランに基づいた授業実践について(前期)

保健体育科 浅井

生徒の学習の様子(1年陸上競技)

①授業の実践

陸上競技(リレー)

最初のチームのタイム	最後のチームのタイム

自分のバトンパスにはどのような課題があると感じますか？

それを解決するためにどんなことを意識して練習をしましたか？

他の人のバトンパスを見て、気が付いたことを書きましょう(良かったところ、上手なところ)

「走る速度を落とさないスムーズなバトンパス」をできるようにすることを目標に活動を行った。単元を通して4人1組のチーム練習することで、お互いに課題を認識し、練習の中で自然発生的に伝え合い・教え合いの場が生まれることを意図として授業を展開した。

ICT機器を活用して、お手本動画や自分の動きの確認、これまでの自分の学びを一つの端末で見られるようにした。屋外の活動では、ネットワーク環境等で活動に支障が出ることもあった。

スプレッドシートを活用してのワークシート

②課題発見から解決までの場の設定

○上手なグループと自分のバトンパスを比較し、自分の課題を発見



比較



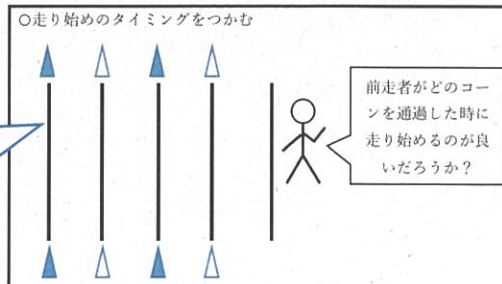
グループ内で動画を撮影し、自己の課題を発見する。

自分のバトンパスにはどのような課題があると感じますか？
タイミングが揃っていないために十分に加速ができていないように感じる。
走り始めのタイミングが少し遅いことが原因かも

課題となる場面とその要因を予測して書いている

【自己の課題に応じた練習方法の選択】

複数の場から自己(チーム)の課題に合わせて練習の場所を選択し、実践する。練習の成果を授業後に振り返ることで、毎時間課題を再設定していく。



単元プランシート(保健体育科 2年)

実施時期 6 月

単元名		水泳(平泳ぎ)
単元の目標		学習してきた泳法を見直して、効率よく泳げる方法を見つけよう。 ～1分間チャレンジを目指して～
評価 規 準	知・技	①水泳の各種目において用いられる技術の名称や運動局面の名称があり、それぞれの技術や局面で、動きを高めるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。(知) ①蹴り終わりで長く伸びるキックをすること。(技) ②肩より前で、両手で逆ハート形を描くように水をかくこと。(技) ③プルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせて伸び(グライド)をとり進むこと。(技)
	思・判・表	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選んでいる。
	主体	①用具等の準備や後片付け、計測などの分担した役割を果たそうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	目標を理解し、自己の力に応じた単元のめあてを設定する。また、めあての達成に向けて具体的な練習などを考える。 ⇒自身のこれまでの習得状況を理解する。	①(知) ワークシート		
2次 (2～4時)	自身の現時点での泳力を測り、課題を解決するための練習を進める。その際にキックやプルからのコンビネーションを連携させることを目指し、グループ学習を形成する。 ⇒提示されたポイントをおさえて練習をできるようにグループ学習やエリア別練習などを提示する。	①②③(2～3時) 観察 エリアチェック	①(4時) ワークシート	
3次 (5～8時)	1分間チャレンジを通して、より効率よく進める泳ぎ方について、身体の動かし方やコンビネーションなどを見直し、練習方法を選択する。 ⇒最終的な測定まで行う。	①②③(8時) 測定	②(6時) ワークシート 観察	①(5時) 観察 ワークシート ②(7時) 観察 ワークシート

評価基準		
	B	A
①	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	提示された動きのポイントやつまずきの事例に留まらず、仲間の課題や出来映えをに対して動きを交えたり、わかりやすく伝えたりしている。
②	提供された練習方法から、自己の課題に応じて、泳法の習得に適した練習方法を選んでいる。	自己の課題に応じて、練習方法を組み合わせたり、新たに考え出したりしている。

保健体育科学習指導案

令和6年9月20日(金)

第4校時 13時10分～14時00分

1年C組 36名

指導者 浅井 宏章

- 1 単元名 「技のエキスパートになろう」
器械運動：マット運動

2 単元設定の理由

(1) 教材について

・器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。マット運動は回転系と技巧系の技から構成されており、自己の体重を体で支えたり、体を回転させたり、バランスを取ったり、逆さになったりする等、日常生活では経験しない動きを行うことを通して、柔軟性や平衡性、筋力といった体力を高めることができる。

・マット運動は、「できる」「できない」がはっきりするため、苦手意識を持ちやすい運動である。しかし、同じ系統の技や局面ごとの動きを習得する練習を通して、段階的に技能を高めていくことができる。「できるようになる」までの道筋が見えやすい運動でもあり、自己の課題に応じて練習を選んだり、お互いの技を見合ってアドバイスしたりする活動を通して、それに関連した技の高め方についての考え方を深めることができる。

・個人で行う運動であるが、グループやペア活動などを通して、お互いの技を見合ってアドバイスしたり、仲間の練習を補助したりすることで技能を高め、一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認め、励まし喜び合うことに楽しさを感じることができる。

(2) 学習者について

・本学級の学習者の体力テストの結果より、昨年度の大分県平均を上回った種目は男女ともに(2/8)であった。小学校までの習い事を通して運動経験がある学習者は一定数いるものの、体育の授業の様子から様々な動作において動きが硬く、ぎこちなさを感じる人が多い。

・本学級は、何事にも意欲的に取り組む学習者が多い。運動することが苦手と答える学習者は(16/36)いるものの、体育が苦手と感じている学習者に関しても、何度もできるように挑戦する姿が見られ、粘り強く活動に取り組むことができる。一方で、これまでの練習を選んで行う場面では、自己やグループの課題に応じた練習ではなく、周りの雰囲気に合わせて練習を選ぶなど、発見した課題を克服するための練習を根拠を基にして選択することに課題が見られた。

・これまでの体育の授業においてグループ活動の中で積極的に自分の意見を伝える場面が見られた。自分の決められた役割を果たすために、主体的に行動をしようとする学習者が多い。お互いの技能を見合うときは、良い演技などに拍手を送るなど、仲間の良さを認める場面が多く見られた。一方で、仲間が失敗すると笑ったりからかったりするなど、運動が苦手と感じている学習者が技に挑戦しようとするのを躊躇うような場面が幾度か見られた。

(3) 指導について

・補強運動や技の練習の場面では、支持感覚や逆さ感覚など、日常では身に付けづらい様々な感覚や必要最低限の筋力を獲得するための動きを取り入れていく。その際、単に腕立て伏せなどをするのではなく、ペア活動やゲーム感覚の活動を取り入れることを通して自然と感覚や筋力が高まっていくようにしていく。

・1年次では、自己の能力に応じて提示された技の中から一つ選び、「技のハンドブック」を作成することを主な活動として設定する。ハンドブックには「お手本動画」「技のポイント」「生じやすいつまずきと練習方法」を位置付けるようにし、作成に必要な情報を獲得するために、自分の課題を発見したり、課題解決のために練習を選んだり、互いに出来栄を見合い、教え合ったりする活動を行っていく。また、単元を通して出来栄(技の大きさ・体やひざなどの伸び・滑らかさ)の向上に視点を置き、全ての学習者が最後まで粘り強く課題の克服に向けた練習に取り組めるようにする。

・単元を通してグループで活動を行うように時間を設定する。話し合ったり、技を見合ったりする活動を積極的に取り入れ、教え合いをすることができる環境の中で、個人の技能の差を認めたり、失敗しながらも何度も挑戦する姿を応援したりすることの素晴らしさを感じられるようにしていきたい。

様式2 単元プランシート

単元プランシート (保健体育科 1 年)

実施時期 9 月

単元名		「技のエキスパートになろう」器械運動 (マット運動)
単元の目標		(1) マット運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、(条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることが) できるようにする。(知・技) (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思・判・表) (3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、(よい演技を認めようとする、) (仲間の学習を援助しようとする、) 一人ひとりの違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。(主体)
評価規準	知・技	技①接転技群の運動について、体をマットに順々に接触させ、回転を高める動き方で基本的な技の一連の動きを滑らかに行うことができる。 技②ほんでん技群の運動について、全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくするための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。 知①マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて言ったり書いたりしている。
	思・判・表	①滑らかで出来栄の良い技にするための自分の技の課題を発見している。 ②自己の課題解決に向けた練習方法を選んでいる。 ③提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間に課題や出来栄を伝えている。
	主体	①場づくりや課題解決のための練習に積極的に取り組もうとしている。 ②良い技や演技に称賛の声を掛けるなど、仲間の努力を認めようとしている。 ③場や器具の扱いなどの安全に留意している。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1 次 (4 時)	○オリエンテーション【1】 ○基本的な技の動きの習得【1～3】 ・前転系 (前転, 開脚前転) 【1】 ・後転系 (後転, 開脚後転) 【2】 ・支持系 (側方倒立回転, 倒立前転) 【3】 ○基本的な技を練習し、以降の授業で極める技を決定する。【4】	技①		
		技①		②
		技②		①
			①②	
2 次 (5 時)	○自分の選んだ技のお手本動画を撮影するために自分の技を磨く。【5～8】 ・技の出来栄をグループ毎に見合い、交流することを通して、自分の課題を発見し、改善に向けた練習を行う。 ・自分の技の出来栄を向上させるための自己の課題を見つける ・自己の出来栄の向上に向けた練習方法を選び、練習を行う ・スライドに載せる動画の撮影を行う。 ○技の解説スライドの作成をする【9】		①	
			②	
			③	
			③	
		知①		
3 次 (3 時)	○自分の苦手な技を選び、友だちが作った解説スライドを基に練習を行う。【10・11】 ○身につけた技能を、3つ選び技能チェックを行う。【12】		①	①
			②	③
		技①②		②

評 価 基 準 (思・判・表)		
	B	A
①	技のポイントや出来栄の視点に応じた自己の課題を書き出している。	技のポイントや出来栄の視点に応じた自己の課題を改善すべき根拠とともに書き出している。
②	自己が選んだ技の課題に応じた練習方法を自己の課題と関連付けて選んでいる。	自己が選んだ技の課題に応じた練習方法を、これまでの活動の成果や練習選択の妥当性を基にして選んでいる。
③	技のポイントや出来栄を視点に仲間の課題を伝えている。	仲間の課題を、技のポイントや出来栄を視点に CB や模倣、ワークシートなどを活用して伝えている。

指導と評価の計画

学習評価の流れ		1	2	3	4	5	⑥	7	8	9	10	11	12	
	10	オリエンテーション	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動・補強運動											
	20		後転系の技	支持を伴う技	技能習得に向けた練習Ⅰ	課題の発見と解決の練習 ・選択した技の習得 ・出来栄への向上 グループ内での交流		技のハンドブックの作成 ・お手本動画撮影 ・CBを活用してのスライド	技術習得に向けた練習Ⅱ	練習				
	30										前転系の技			
	40													
	50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認												
評価機会	知識									①				
	技能	①	①	②									①②	
	思・判・表				①②	①	②	③	③		①	②		
	態度		②	①							①	③	②	

具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解すること。	接転技群の運動について、基本的な技の一連の動きを滑らかに行うこと。	器械運動の特性を踏まえて、技や技の組合せ方などの改善についてのポイントを発見すること。	練習の進め方や場づくりの方法を選んだりする学習などに積極的に取り組むこと。
① マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて言ったり書いたりしている。	① 接転技群の運動について、体をマットに順々に接触させ、回転を高める動き方で基本的な技の一連の動きを滑らかに行うことができる。	① 滑らかで出来栄の良い技にするための自分の技の課題を発見している。	① 場づくりや課題解決のための練習に積極的に取り組もうとしている。
	ほとんてん技群の運動について、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転すること。	技や技の組合せ方について発見した課題を、合理的に解決できるよう知識を活用したり、応用したりすること。	個々の体力や技能の違いに応じた技や技の出来映え、技の繰り返しや組合せに挑戦することを認めようとする。
	② ほとんてん技群の運動について、全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方、起き上がりやすくなるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転することができる。	② 既習事項の練習方法から、つまずきに応じた練習方法を選んでいる。	② 良い技や演技に称賛の声を掛けるなど、仲間の努力を認めようとしている。
		自己の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章などで表したり、他者にわかりやすく伝えたりすること。	器械や器具や練習場所などの自己や仲間の安全に留意して練習や演技を行うこと。
		③ 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間に課題や出来栄を伝えている。	③ 場や器具の扱いなどの安全に留意している。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ (6/12)

(2) 題材 技の出来栄を高めるために課題に応じた練習を選ぼう。

(3) 本時のねらい

自己の選んだ技の出来栄をより高めるために、技のポイントや出来栄の視点、練習方法のメリットデメリットなどを関連付けて練習することを通して、練習方法を選ぶことができるようになる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
7	1. 本時の学習内容を確認する。	○来た学習者から順次器具の準備をさせる。 ○挨拶、健康観察、準備体操を行わせる。 ○補強運動を行わせる。	
技の出来栄を高めるための、課題に応じた練習を選ぼう。			
10	2. グループ内で個人の課題を話し合い、練習方法を選ぶ。	課題「課題を克服するためには、どのような視点で練習を選べばよいだろうか？」 ○前時までに考えた自分の課題について班で交流させる。 ・交流する中で、新たな課題が出た時はワークシートに書き加えさせる。 ・技のポイントや出来栄の視点を参考にしながら演技を見るようにさせる。 ○自分の課題に合わせた練習方法を選ばせる。 ・練習方法リストを活用し、課題に応じた練習を選ぶことができるようにする。	
28	4. 課題解決のための練習を行う。	○自分の選んだ練習の場に移動させ、練習を行わせる。 ・補助を必要とする練習や支持を必要とする練習は特に注意するよう声掛けと見守りを行う。 ・正しい練習方法になっていない場合は適宜声掛けを行う。 ○練習の成果を確認させる。 ・班の中で動画を撮影させ、前時に撮影した動画と見比べながら、技の変容を確認できるようにする。 ○これまでの練習の成果や練習選択の妥当性についてワークシートに記入させる。 まとめ（練習を選ぶ際の注意点） ・なぜそのような課題が出てきてしまうのかを考える（回転力が足りないから、脚を伸ばして立つことができない等） ・技の成功や出来栄を高めるために優先順位を決める	自己が選んだ技の課題に応じた練習方法を自己の課題と関連付けて選んでいる。思②（ワークシート）
5	5. 整理運動・振り返り・次時の予告を行う。	○整理運動、道具の片付けをさせる。 ○本時の振り返りと次時の予告をする。	

(5) 本時の評価基準

評価基準	
B	A
自己が選んだ技の課題に応じた練習方法を自己の課題と関連付けて選んでいる。	自己が選んだ技の課題に応じた練習方法を、これまでの活動の成果や練習選択の妥当性を基にして選んでいる。

(6) 学習記録計画

<u>めあて</u> 技の出来栄を高めるための、課題を選ぼう。			これまでの授業で 出た練習方法を 掲示
<u>出来栄の視点</u> ・体の伸 - まびとめ ・技の大き	<u>課題</u> どのような視点で練習を選べばいいだろうか？	全体交流の中で 出たものをまと める	
<u>技を成功させるポイント</u> ・勢いの付け方 ・タイミング	練習の場所や方法の掲示		

個人ファイル	・ワークシート ・資料	Chrome book	・お手本動画 ・撮影
---------------	--	--------------------	---

自分で選んだ技を極めよう ～技のエキスパートになろう～

ハンドブック作成に向けて取り組む技は・・・

ここに技のイラストを貼る

○自分の課題を確認しよう（動画を観て、自分の技の課題点を挙げてみましょう）

○グループで技を見せ合い、この時間で解決に取り組む課題を決めよう

	1	2
課題		
選んだ理由		

○どんな練習が効果的だろうか？

練習内容

○中間評価

自分が選んだ練習を して感じて ことや気付いた ことは何ですか？	
この後に取り組む 練習は？	

（ ）組 （ ）番 名前（ ）

ハンドブック作成に向けて取り組む技は・・・

片脚前転



○自分の課題を確認しよう（動画を観て、自分の技の課題点を挙げてみましょう）

足が倒れてる、蹴れていない、勢いが足りない

○グループで技を見せ合い、この時間で解決に取り組む課題を決めよう

課題	1	2
選んだ理由	最後まで起き上がれない	勢いが足りない
選んだ理由	起き上がれないと文になれないから。	客観的にみると技がグサグサい見切が変と思われるから

○どんな練習が効果的だろうか？

練習内容
高台とやりかた

○中間評価

自分が選んだ練習をしてみて感じたことや気付いたことは何ですか？	高台をして中柄でやってみると80%以上の成功率でできる became になりました。股の開き具合で起きるが変な感じがかりました。
この後に取り組む練習は？	この後が分は技の見栄え重視で何回か練習したいです。

B

自分で選んだ技を極めよう ～技のエキスパートになろう～

ハンドブック作成に向けて取り組む技は・・・

側方倒立回車



手と足が一直線になるように

○自分の課題を確認しよう（動画を観て、自分の技の課題点を挙げてみましょう）

足が曲がっている 手な前に出していない（足が）

○グループで技を見せ合い、この時間で解決に取り組む課題を決めよう

課題	1	2
選んだ理由	足が曲がっている	最初に手を前に出さないと足が曲がってしまうから、
選んだ理由	足が曲がっているから、	手を付けずにまかりずらいから、

○どんな練習が効果的だろうか？

練習内容
側倒立、ゴムひも

○中間評価

自分が選んだ練習をしてみて感じたことや気付いたことは何ですか？	前回に比べてたらと倒立ができていたけど、足がまだ伸びていなかった。
この後に取り組む練習は？	ゴムひもで足ものをはさるようにしたい。

A

単元プランに基づいた授業実践について(後期)

保健体育科 浅井

生徒の学習の様子(1年マット運動)

①授業の実践

自分で選んだ技を極めよう ～技のエキスパートになろう～

ハンドブック作成に向けて取り組む技は...

ここに技のイラストを貼る

自分の課題を確認しよう(動画を観て、自分の技の課題点を挙げてみましょう)

課題	1	2
選んだ理由		

のどの練習が効果的だろうか?

練習内容

の中間評価

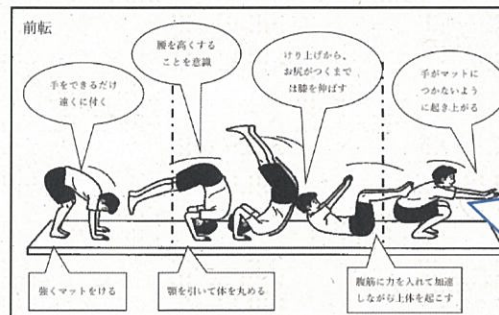
自分が選んだ練習をしてみてもう一度のことや気付いたことは何ですか?

この後に取り組む練習は?

() 組 () 番 名前 ()

3～6 時のワークシート

「技のエキスパートになろう」を単元のテーマとして活動を行った。マスターしたい技の一つを選び、それを極めるために様々な視点から自分の技を分析し、それに合わせた練習を選んで振り返る活動を繰り返す中で、マット運動における技の習得のプロセスと分析の視点を身につけていった。最終的には、1人1つの技のハンドブックを作成した。



生徒が練習をしていく中で発見した技のポイントを集約して、技のハンドブックを作成。
※丸の吹き出しが生徒の記述内容

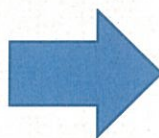
同じ練習場所の仲間同士で練習の補助を行っている。

②課題に応じて練習を選ぶ活動

マット運動練習方法リスト

練習名	技	留意・動き
ゆりかご	前転・開脚前転	マットの上を回る時、スムーズにまわる
	後転・開脚後転	
坂道	前転・開脚前転	起き上がる時の感覚をつかむ
	後転・開脚後転	
段差	前転・倒立前転	腰を高くして回る感覚をつかむ
高台	開脚前転	起き上がる感覚をつかむことができる
	開脚後転	
壁倒立	倒立前転	倒立の練習
	側方倒立回転	倒立をした時の姿勢を意識
ゴム紐	側方倒立回転	腰があがらない時 脚が伸びない時
補助	後転	体を丸めるタイミングなどをつかむ
	倒立前転	
動画	すべて	自分の感覚だけでなく、客観的に意識するポイントやタイミングをつかむ

リストをもとに練習を選択



様々な練習方法を試していく中で、どんな技のどの局面の解決に役立つかを入力していき、練習方法リストを作成。

多様な練習方法と、練習場所を確保し同じ練習場所の仲間と教え合いながら活動。

保健体育科学習指導案

令和7年1月29日(水)

第6校時 15時00分～15時50分

2年C組 39名

指導者 木梨 祐司

- 1 単元名 仲間と協力してソフトボールの練習やゲームを成立させよう
 ～簡易ゲームを通じた競技の特性の習得～
 球技:ベースボール型(ソフトボール)

2 単元設定の理由

(1)教材について

・球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。ソフトボールは、ベースボール型に分類され、身体や用具の操作と打撃と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの点数を競い合うゲームである。また、ベースボール型の学習においては、「打つ」「捕る」「投げる」「走る」といった運動の基本動作を複雑に組み合わせで行うことから、巧緻性や敏捷性を高めることができる。ボールや用具の操作とボールを持たない時の動きに着目させ、学習に取り組ませることが必要である。

・運動の基本動作を組み合わせで行うことやルールとの関係から、普段の運動の中で取り組みにくさを感じさせる教材ではある。しかし、身体や用具の操作などに自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりする場面を設定しやすい教材でもある。チームで協力し、攻撃や守備で連携する必要があるため、チームプレイや作戦を工夫することにもつながる。

・球技に積極的に取り組むとともに、ペアやグループ活動などを通して、仲間の練習を補助したり、アドバイスを送ったりすることで、仲間の学習を援助しようとする事ができる。これらのことから、仲間とともに楽しみながら課題解決に向かおうとする学習者の姿を養う上で価値がある。

(2)学習者について

・本学級の学習者の体力テストの結果より、昨年度の大分県平均記録を50m走とハンドボール投げにおいて男女ともに大分県平均記録を下回っている。部活動や習い事などで運動経験がある学習者は一定数いるものの、保健体育の授業の様子からも様々な動作において動きにぎこちなさを感じる事が多い。小学校までにティーボールやソフトボールなどは既習しているが、「捕る」「投げる」においては苦手を感じる様子も見られる。

・これまでの活動の様子から、仲間への声かけや交流活動における積極的な意見の発表など進んで仲間とともに学習する様子が多く見られた。一方で、具体的な助言や仲間へのアドバイスなどを自分から伝えることに対して遠慮しがちな姿も見られた。「発信」と「受信」は学年における課題として指導を継続している。

・アンケートでは、「運動が好きですか」という問いに、90%以上の学習者が「好き」「やや好き」と回答している。次に、「体育の授業以外で積極的に運動に取り組んでいる」という問いには、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学習者が88%となった。運動に対して好意的な学習者は多いが、運動経験の乏しさから苦手意識が根強い意見も少なからずある。ただし、実際にソフトボールの学習に取り組む場面では、運動の楽しさに触れたり、得点を取れることの喜びを感じたりするなど積極的に取り組もうとする姿も見られるようになった。

(3)指導について

・指導においては、練習やゲームのルールや行い方を工夫することで、誰もがソフトボールを楽しむことができるということを理解させたい。そのために、少人数の練習で「打つ」「捕る」「投げる」「走る」といった基本動作を繰り返し練習し、運動の楽しさが実感できるように活動を設定する。また、グループで協力して活動をする中で、技能に対して得意な生徒も、苦手を感じる生徒も共に活動ができるようにする。ルールを工夫することで運動の特性に触れつつ、技能の習得にもつながるような簡易ゲームからメインコートを用いたゲームを通して、種目への理解度の向上を図る。

・今回は男女別の4～5人班で活動を進める。ワークシートの資料やグループ練習などを通して、お互いの課題や出来映えを伝える場面を持つ。ワークシートにはグループの仲間の「Goodポイント」や「Betterポイント」を記述させ、仲間に伝えるための視点を明確にする。ファインプレーやフェアなプレーを見つけて伝えることにも、グループ練習を継続して取り組むことによって、お互いの動きに注視する場面を意識づけさせたい。

・積極的に学習に取り組めるように、ボールやバットはティーボール用の柔らかい素材を使用する。それによって、ボールに対する恐怖心を和らげることができる。安全面に配慮をして、バットの置き方もルールに組み込む。また、チームで継続して活動をする中で、グループ練習をスムーズに実施し、「チームミーティング」を通してお互いの学習を援助できるように指導する。ワークシートや観察シートを用いながら学習評価へとつなげていく。

様式2 単元プランシート

単元プランシート(保健体育科 2年)

実施時期 12月

単元名		球技(ベースボール型(ソフトボール))
単元の目標		仲間と協力して、ソフトボールの練習やゲームを成立させよう ～簡易ゲームを通した競技の特性の習得～
評価 規 準	知・技	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。(知) ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。(知) ①投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを振りぬくことができる。(技) ②ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。(技) ③投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げるができる。
	思・判・表	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。
	主体	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1)	ソフトボールの特性を理解し、ボールの送球を中心とした活動からチーム編成を行う。また、めあての達成に向けて簡易的な練習を実践する。 ⇒自身のこれまでの習得状況を理解する。	①(知) ワークシート		
2次 (2～8)	守備からのボールの捕球や送球、場面設定に応じたバッティング練習などを通して、用具の使用や安全に気をつけた簡易ゲームを実践する。その際に、技能につまずきを感じている仲間に課題の解決に向けた活動を伝え合わせる。 ⇒提示されたポイントをおさえて練習をできるように提示する。また、技能の習得状況のスキルチェックを行う。	①②③(技) (2～7時) 観察 測定 ワークシート ②(知) (6時) チェックシート	①(5,8時) 観察 ワークシート	①(2～4時) ②(5時) 観察 ワークシート
3次 (9～12)	ソフトボールのゲームを通して、技能面だけでなく、フェアなプレイをしている人や、全力で取り組んでいる人などを見付け、お互いに伝え合う場面を認識させる。 ⇒仲間の良さを見付けられるように、視点を明確にして提示する。ゲームの安全な進行を目指す。	②③(技) (12時) 観察 測定	②(9,10時) ワークシート 観察	①(10,11時) 観察 ワークシート

評価基準		
	B	A
①	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	提示された動きのポイントやつまずきの事例に留まらず、仲間の課題や出来映えに対して動きを交えたり、わかりやすく伝えたりしている。
②	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、具体的な場面を取り上げて、理由を添えて他者に伝えている。

指導と評価の計画

		1	2	3	4	5	6	7	8	⑨	10	11	12
学習 評価 の流れ	10	オリエン テーション	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動・補強運動										
			キャッチボール（ノーマルスロー、バウンドキャッチ、 ロングスロー）							キャッチボール（チーム練習）			
	20	キャッチ ボール	ケースバッティング ↓走塁ありへ段階上げ	ケースバッティング （走塁なし⇒走塁あり）		① ポジション等説明↓実施 メインコートゲーム	チ ス キ ル チェ ック	ケースバッティング （走塁なし⇒走塁あり）		② 学級ソフトボール大会 メインコートゲーム 残塁ルールの説明			
	30			ミニゲーム ルール説明									
	40			①アウトゾーン ②1～4点得点制 ③投手は攻撃側 ④3球で終了									
	50			整理運動・学習の振り返り・次時の確認									
評価 機会	知識	①					②						
	技能		②	③	①			③				①	②
	思・判・表					①			①	②	②		
	態度		①	①	①	②						①	

具体的な指導内容と「単元の評価規準」

知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
知識	技能		
ソフトボールの特性を知り、技能を構成する運動動作について学習することで、運動の楽しさなどを理解すること。	投球に対して平行に立ち、肩より高い位置にバットを構えて、振りぬくこと。	成功例、つまずき例などの事例や、キャッチボールやバッティング、守備のポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。	球技の学習の特性に触れ、その楽しさを感じることで、個人や集団の活動において積極的に取り組むこと。
↓	①投球の方向と平行に立ち、肩越しにバットを振りぬくことができる。	↓	↓
①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。	転がるボールを待たずに正面に回り込んで、打球を捕ること。	①提示された動きのポイントやつまずき事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。	①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。
↓	↓	↓	↓
ソフトボールの技能の名称や行い方、その運動を身に付けるための動作やポイントなどについて理解すること。	②ボールの正面に回り込んで、緩い打球を捕ることができる。	仲間の良いところを見付ける視点を明確にし、練習やゲームを通して、仲間の良い取り組みを見付けることで、お互いの良さを理由を添えて伝える。	仲間の学習を援助することは、練習を補助したり、助言したりすることによって、ともに学びに向かう姿勢を持たせること。
↓	↓	↓	↓
②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。	腕を後方に引きながら、投げ手と反対側の足を踏み出して、体重移動をさせながら狙った方向にボールを投げること。	②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。
	↓		
	③投げる腕を後方に引きながら投げ手と反対側の足を踏み出し、体重を移動させながら、大きな動作でねらった方向にボールを投げるができる。		

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(9/12)

(2) 題材 球技:ベースボール型(ソフトボール)

(3) 本時のねらい

練習やミニゲームを通して、仲間のファインプレーやフェアなプレイを見つけることで、チームの良いところを伝えあうことができようになる。

(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5	1. 本時の学習内容を確認する。	○挨拶, 健康観察, 準備体操を行わせる。 ○補強運動を行わせる。	
仲間のファインプレーやフェアなプレイを見つけて、チームの良いところを伝えられるようになる。			
5	2. 本時の課題を確認して、視点を明確にする。	課題「仲間のファインプレーやフェアなプレイとはどんな場面だろうか」 ○今日の授業の課題を共有させる ・前時のグッドポイントとベターポイントについて振り返らせる。 ・どんなプレイがファインプレーとフェアなプレイかを共通理解させる。 〈考えられる答え〉 ・難しいプレーができる(ファインプレー) ・スポーツマンシップにのっとる(フェアなプレイ) ○練習やゲームの場面でも積極的に伝え合うことを確認する。	
15	3. チーム練習に取り組む。	○道具の準備をし、所定の位置でチーム練習を始めさせる。(バット、コーン、マーカーなど) ・キャッチボール 基本的な技能として「投げる」「捕る」を練習する。 ・ケースバッティング ピッチャー、キャッチャー、バッター、守備の役割分担をする。 安全に留意して行わせる。 ○終了後にミニゲームのセッティングをさせる。	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 思判表② (ワークシート) (観察チェック)
15	4. 2チームでミニゲームを行う。	○ミニゲームのルールを確認する。 ・フォースアウト、道具の管理などを伝える。 ・安全に留意して行うことを確認する。 ○攻守の切り替えなどをすばやくさせる。 ○終了後は片づけをして、チームで整列する。	
10	5. チームミーティング、振り返り、整理運動、次時の予告を行う。	○チームミーティングで本時の記録と見つけたことを伝え合わせる。 ・本時の記録を取り、チームで伝え合わせる。 ・自身の伝え方を振り返らせる。 まとめ(ファインプレーやフェアなプレイを伝えるために) ・まわりの人の動きや声かけがわかるようによく見ること ・練習やゲームなどに真剣に参加する など ○整理運動、次時の予告をする。	

(5) 本時の評価基準

評価基準	
B	A
練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。	練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、具体的な場面を取り上げて、理由を添えて他者に伝えている。

(6) 学習記録計画(屋外のため掲示用ホワイトボードなどを使用)

めあて 仲間のファインプレーやフェアなプレイを見つけて、
チームの良いところを見つけて伝えよう。

課題 「仲間のファインプレーやフェアなプレイとは
どんな場面だろうか」

個人ファイル

・ワークシート

ファインプレー

- ・ベースカバーをしている(守)
- ・送球先の指示をしている(守)
- ・1点でも多く取れるように工夫をしている(攻) など

フェアなプレー

- ・判定を正しく伝えている
- ・仲間をはげましたり、相手のよいプレーを賞賛する など

授業者が提示するものと学
習者から出て来るものを共
有する。

単元プランに基づいた授業実践について(後期)

保健体育科 木梨

生徒の学習の様子(2年生ソフトボール)

①授業での実践



グループでキャッチボールの練習をする。ワークシートの技能レベルにチェックをする。



チーム練習で身に付けた技能をミニゲームで活用する。



授業のワークシート

ワークシートには基本的な技能のポイントを「体育実技」より掲載し、習得のための練習方法について学び、実践する。自身の「技能レベル」をチェックすることで、習得状況を把握するだけでなく、習得のポイントと課題について共有する。それをもとにペア・グループ練習での教え合いや伝え合いの場面に活かす。

課題となるポイントを具体的に書いており、伝え合うための内容となっている。

②伝え合う活動のために

授業で仲間のどんな姿に視点を置けるかを共有する。



チームミーティング



仲間の姿から、具体的な場面などを入れて記述している。伝え合いの場面でも活かせるようにさせたい。

○チームの仲間で「ここが素晴らしい!」や「もっとこうなれば良くなる!」を探してみよう。

「ここが素晴らしい!」		「もっとこうなれば良くなる!」	
名前	Good ポイント	名前	Better ポイント
さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。	さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。
さん	送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。	さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。
さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。	さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。

○チームミーティングで自分が伝えたいことを取りかえてみよう。

送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。

○チームミーティングで自分が伝えたいことを取りかえてみよう。

ファインプレー		フェアプレー	
名前	Fine ポイント	名前	Fair ポイント
さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。	さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。
さん	送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。	さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。
さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。	さん	バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。

○チームミーティングで自分が伝えたいことを取りかえてみよう。

キャッチボールの成果で、ファインプレーとフェアプレーをそれぞれ取りかえてみよう。バットを振り回すスピードが速い。送球の軌道が正確で、捕手が取りやすい。

単元プランシート(保健体育科2年)

実施時期12月

単元名		E:球技 イ:ネット型(バレーボール)
単元の目標		(1) 球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解するとともに、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられるようにする。 (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどをして、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。
評価 規 準	知・技	知①バレーボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあること。 技①サーブでは、ボールの中心付近を捉えること。 技②相手の打球に備えた準備姿勢を取る。 技③相手側のコートの空いた場所にボールを返すこと。
	思・判・表	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けること。
	主体	①バレーボールの学習に積極的に取り組もうとすること。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとする。 ③マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとすること。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1～3	○オリエンテーション ○基本的な技能の習得 ・アンダーハンドパス ・オーバーハンドパス ・サーブ(アンダーハンドサーブ、フロッターサーブ) ○パスを基本としたラリーゲーム	知①		
		技①		
		技①		①②
4～6	○サーブカットの習得 ・サーブを打つグループとサーブカットをするグループに分けての練習。 ○サーブを主としたミニゲーム			①②
			①	
			②	
7～10	○8対8のゲーム ・リーグ形式 ○スキルチェック ・サーブ、サーブカット			③
		技③		
				③
		技①②		
※	定期テスト	知①		

評価基準(思考・判断・表現について)		
	B	A
①	仲間のサーブ、サーブカットの動作について、気付いたことを自分の言葉で伝えている。	仲間のサーブ、サーブカットの動作について、気付いたことを自分の言葉と共にジェスチャーなどで伝えている。
②	相手コートの空いた場所へ返球する際に、自己や仲間の改善のポイントを発見し、伝えている。	相手コートの空いた場所に返球する際、自己や仲間の改善のポイントを発見し、指示を出しながらわかりやすく伝えている。

単元プランに基づいた授業実践について(後期)

保健体育科 下川

生徒の学習の様子(2年生バレーボール)

①授業での実践



本単元で学ぶバレーボールの技能について、体育実技から抜粋し、技能の習得に向けて、ポイントを押さえながら実践をした。

授業でのワークシート

1. スキルテストで使うサービスは【アンダーハンドサービス or フローターサービス】		
そのサービスを打つために意識したこと	サーブカットの動きで意識したこと	友達の動きで気づいたこと
- 体をひねり、ボールに体重を集せられるように意識した。 - ボールの上をたたくことを意識した。 「アンダーハンドサービス」では、バックスイングを意識し、体重移動に気がついた。	- 正面に入ってカットすること。 - 腕を振らないようにしたこと。 - 素早く足を動かすこと。 - 足との連動を意識した。	- 腕を横から振り上げるのではなく、前から振り上げることが大切。 - 足を踏み出すタイミングとスイングを開始するタイミングを合わせると遠くまで飛ばすことが出来る。

友達の動きを観察することで、互いに技能のポイントについて押さえることができた。

2種類のサービスどちらかを選択させ、どのような打ち方をしたら、相手コートに入るのか考え実践した。体の使い方を言葉に起こすことで、より伝えやすくなった。

②チームでの活動

2. ゲームをする中で意識したことや気づいたこと。		
自分自身が意識したこと	空いた場所に攻撃するために工夫したこと	ラリーを継続するために意識したこと
「お見合いをしないように、誰がとるのかを、お互いに声を出して確認すること。」 「次の人がとりやすいように、なるべくサーブカットは高く上げるようにしたこと。」 「サーブは、体重移動を意識した。」	「ネットの近くやフロントゾーンに落とした。」 「アウトラインのギリギリを意識したこと。」 「常に相手コートの状況を見ること。」	「声を出してお見合いをしないこと。」 「コートの中に入らなく、高くサーブカットを行うこと。」 「ボールだけでなく、周りの状況も見る。」

ゲームの中での目標について、自己や仲間の課題解決のためにどのようにしたら良いのか、記述した。課題が明確になることで、より伝えやすくなった。

授業改善のイメージ(技術科)

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善

～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

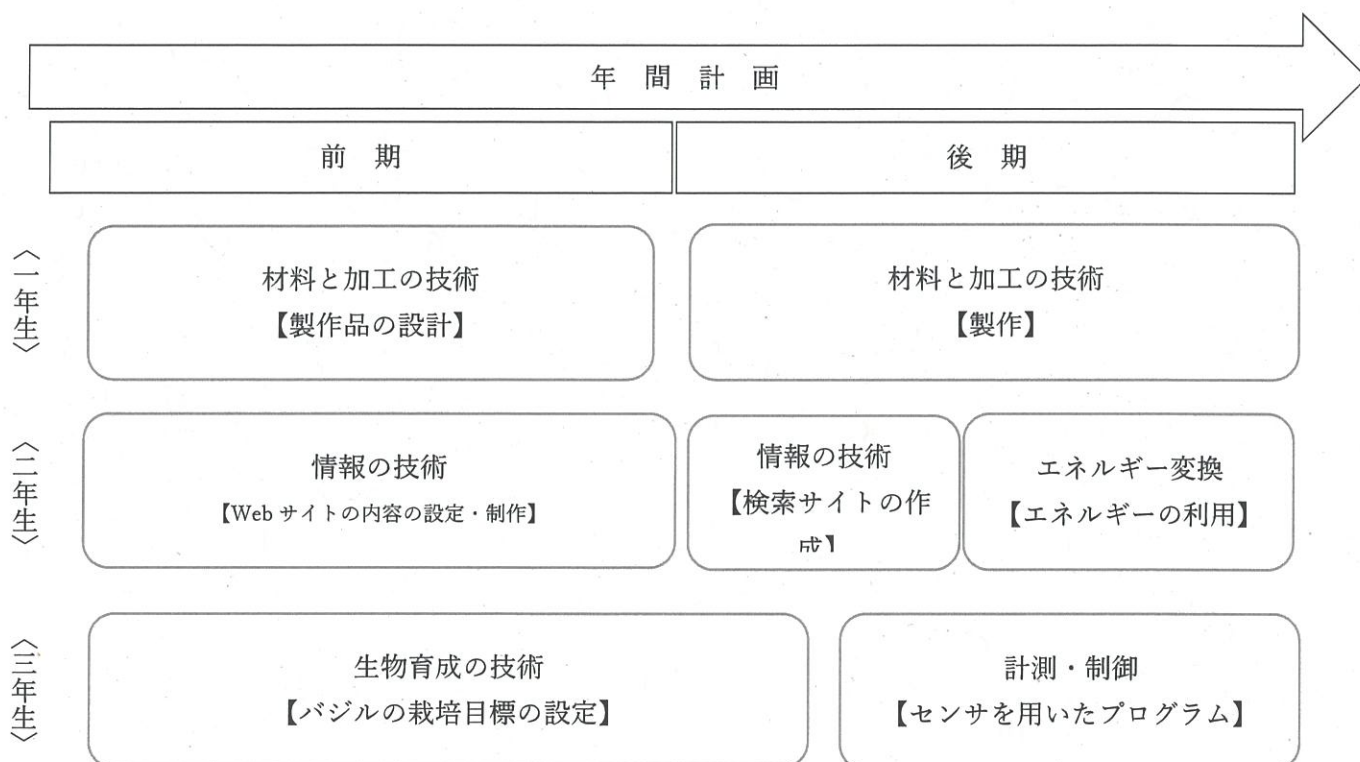
課題を設定し、解決する能力の育成

設定理由

4つの分野において、生活や社会を支える技術で気付いた技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会における技術に関わる問題を解決することで、理解の深化や技能の習熟を図るとともに、身近な生活の中にある困りなどから課題を設定する力を育成する必要がある。また設定した課題が、技術によって解決することで自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想しようとする態度などを育成する。

授業改善の方針

各分野において、生活の中からそれぞれの分野での学習の中で生活や社会の中から課題を見いだす場面を設定する。次に ICT 等を活用し、見いだした課題に関する調査活動をする場面を設定する。その課題が技術科の見方・考え方と照らし合わせた時に実現可能な解決方法なのかをグループで吟味させる。最後に実際に作業や実習を通して、課題の解決方法が適切だったのかを振り返る場面を設定し、次の課題を生み出すようにさせる。



【前期の成果】

- (1)各学年とも、生活の中で生じる問題について、課題を見いだす場面は設定することができ、生徒もおおむね自分の実生活と照らし合わせて考えることができていた。
- (2)1年生であれば、製作品の設計の内容で自分の部屋の中を整理整頓するために必要な「棚」はどんな大きさ、形かを考えることができた。2年生は自身の興味がある事柄について、「どんな人に」「閲覧することでどのようになっほしいか」ということを意識して Web ページの設計をすることができた。3年生についてはバジルの栽培の場面で、生産者としてどの点を重視して栽培をし、栽培環境を整えるかを考えることができた。
- (3)評価方法としては、各学年ワークシートやレポートの中で自分が設定した課題に対して、問題はどのように変化したのかを振り返らせることができた。単元のまとめとして、無理なく評価できたと考えている。

【前期の課題】

- (1)課題を見いだす場面と自己評価をする場面を設定することができたが、グループで共有・吟味する時間の設定をすることができなかった。この点については、内容によって必要なのか、効果的なのかを精査して行う必要があると感じている。
- (2)課題に対する評価をする場面は設定することができたが、評価の後に新たな課題を生み出す場面の設定まで至らないことが多く、限られた授業数の中でのカリキュラムマネジメントを適切に行う必要があると感じた。
- (3)こちらが総括的評価を行う際に、「思考・判断・表現」なのか「主体的に学習に取り組む態度」なのかあいまいにならないようにレポートやワークシートの項目を精査する必要がある。

【後期の成果】

- (1)前期の反省を踏まえ、グループで課題に対して評価をする場面や課題に対して改善策や問題解決について考える場面を設定することができた。
- (2)1年生では前期に設計したものを実際に作り、自分の部屋で実際に使用してどうだったかを考える事で、生活の中で生まれた課題に対する解決策が実生活の中でどうだったかを確認することができた。この活動で今後同じような活動があった際にどのような視点を持って製作に臨むべきかを考えることができた。
2年生では Web サイトを作成する中で「どんな人に」や「閲覧することでどのようになっほしいか」という点を意識して作成に臨んだが、実際に作成した内容が自分のねらいにあったものになっているかを他者から意見をもらうことで客観的に判断する場面を設定することができた。
3年生は、バジルの栽培を通じて、生産者としての視点でどのように栽培をしていったか、成果と課題を含めて栽培記録をレポートにまとめた。実際に栽培を経験する中で生じた問題を調査したり、考察をしたりすることで問題解決につなげることができた。

【後期の課題】

- (1)後期は前期に設定した課題に対して、製作を通して実際にどうだったかを検討する機会は設けることができた。評価場面として、どうしても単元の終盤になってしまう。技術科には4つの分野があり、評価・改善について考えたことをそのまま次の単元に活かすということが課題である。
- (2)課題を見いだす場面の設定、課題に対する評価・改善の場面設定をすることはできたが、見いだした課題が適切なものかどうかを吟味する場面の設定も必要だと考える。また、課題の解決方法が適切かどうかを考える場面を全ての学年で設定することができなかった。
- (3)評価基準はあいまいな部分があり、客観的な指標としての妥当性については検討しなければいけない。
単元を貫く課題の設定からしっかりと検討する必要性を感じている。

【来年度に向けて】

どの分野においても各単元の振り返りの場面で同じような思考の流れになるように技術科における見方・考え方をベースに各分野で課題解決について考えることができるワークシートのテンプレートを作成する。

評価基準の設定についてはしっかりと吟味をし、生徒にもわかりやすい課題の設定を心がけようと思う。現在の学校研究が各教科における評価場面や評価方法に限定されているため、教科ベースでの研究が中心になっている。教科指導について、他の学校の研究などを参考に自己研鑽を重ねていきたい。

作成者：添島 秀紀（そえじま ひでき）

単元プランシート(技術科 2年)

実施時期 11月

単元名		D 情報の技術 「Web ページ作成を通して身の回りの問題を解決しよう」
単元の目標		情報の技術の見方・考え方を働かせ、身の周りの問題を解決する WEB サイトを開発する実践的・体験的な活動を通して、生活や社会で利用されているプログラムについての基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け、情報の技術と生活や社会などの関わりに対する理解を深めるとともに、よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付ける。
評価 規 準	知・技	①情報通信ネットワークの構成と情報を利用するための基本的な仕組みを理解する。 ②安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。
	思・判・表	①身近なことに関わる問題を見いだして、問題を解決するための方法を考えている。 ②情報処理の手順を具体化し、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。
	主体	①よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (2 時)	Web ページ制作のために、基本的な仕組みや情報通信ネットワークの構成を知る。 ・ネットワークの仕組みを理解させ、Web ページを作るイメージをもたせる。	① ワークシート		
2次 (8 時)	HTML,CS, JavaScript のコードを知る。 コードを使い、Web ページを作る演習を行う。 ・実際の Web ページのコードを確認させながら、自分たちが行っていることが実生活の中で使われていることを確認する。	② 演習 確認テスト		① 行動分析
3次 (1 時)	見る側の視点に立ち、Web ページの問題点を見いだし、改善する。 ・見る人を引き付ける Web ページにするためには、どんな工夫をすればよいかを考える。		① 構成シート	
4次 (6 時)	Web ページを制作・改善する。 ・情報の正確性やコスト面、情報モラルに留意して制作をさせる。	② プログラム	② プログラム	① 行動分析
5次 (1 時)	制作した Web ページの発表会を行い、相互評価を行う。 ・作成者のコンセプトにあった内容になっているかという視点をもって評価する。		② 評価シート	① 振り返り

評価基準	
B	A
Web サイトを閲覧する人の視点に着目して、見た目とプログラムの内容について評価し、改善につなげることができている。	Web サイトを閲覧する人の視点に着目して、見た目とプログラムの内容について評価することができ、改善点について具体的に考え、修正することができている

オリジナル Web サイト 発表会シート

2年（ ）組（ ）番 名前（ ）

○Web サイトのタイトル

--

○この Web サイトで伝えたかった事

「誰に」「何を」伝えたかったのかを書きましょう。

誰に	
何を	
伝えたい内容	

○伝えるために工夫したこと、自分で作って気に入っているところを書きましょう。

--

○他の人からのアドバイスをまとめましょう。

誰から	どんなアドバイスをもらったか